

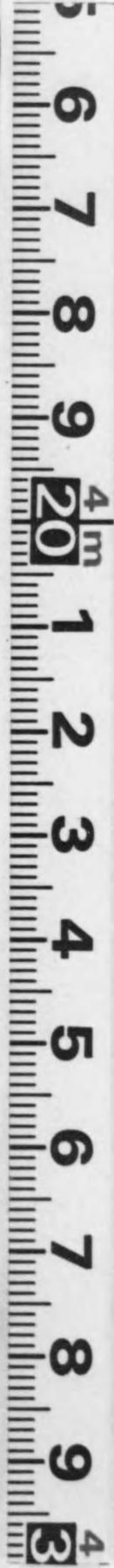
14.5-817



1200501218726

145

17



始



會社四季報

昭和十二年第二輯

東洋經濟新報社編

正 誤 表

・印は訂正箇處

二頁	〔大株主〕欄	〇行目	丸水渡邊商會
三頁	〔出來高〕	八行目	期末保管
四頁	〔事業成績〕	四〇〇〇	(千個)
五頁	〔決算期〕	〇〇〇	十一月
六頁	〔大株主〕	三行目	荻野萬太郎
七頁	〔生產高〕	〇〇〇	十年下 十年上 十年下
八頁	〔本文〕	一〇行目	鐘紡
九頁	〔重 役〕	三〇〇	常務 五十嵐直三(死亡)
一〇頁	〔大株主〕	一〇〇	大同土地興業
一一頁	〔重 役〕	一〇〇	北電興業
一二頁	〔本文〕	六〇〇	取締 速水太郎(死亡)
一三頁	〔業 績〕	七〇〇	よる事は勿論
一四頁	〔重 役〕	〇〇〇	利益率 配當率
一五頁	〔本文〕	九〇〇	後宮信太郎
一六頁	〔資本金〕	〇〇〇	苦しい
			拂込 三〇、九〇〇

一六頁	〔株 數〕欄		舊(三七・五)	六〇〇,〇〇〇
一七頁	〔大株主〕	二行目	合併株(五〇・〇)	三〇〇,〇〇〇
一八頁	〔本文〕	三行目	合併新株(三五・〇)	二五〇,〇〇〇
			近江岸辨之助	八分七厘
一九頁	〔大株主〕	四〇〇	利益金にして	五萬六千圓
二〇頁	〔株 數〕	〇〇〇	利益率にして	二分三厘
二一頁	〔重 役〕	二〇〇	本小會根合資	
二二頁	〔資產負債〕	三〇〇	舊(五〇・〇)	八〇,〇〇〇
二三頁	〔大株主〕	三〇〇	高崎達之助	
二四頁	〔重 役〕	四〇〇	預金現金(十年十月)	一、四一七
二五頁	〔業 績〕	五〇〇	三井信託	
			森 八郎助	
			西村齊次郎	
			十年上	
二六頁	〔大株主〕	(昭和十二年四月十三日調)		
			北電興業八四、〇二七	大日本電力 八、八三〇
			平沼久三郎 五、八八〇	帝國生命 五、六〇〇
			内田 信吉 四、〇〇〇	井上篤太郎 二、三三〇
			芹澤 眞平 二、五五五	常磐生命 一、七五〇

社會四季報

昭和二十二年第二輯

東洋經濟新報社編

營業種目

會計の検査	財産に関する遺言執行	貸付並保證	不動産信託	有價證券信託	金銭信託
-------	------------	-------	-------	--------	------

共同信託

大阪本店

東區今橋三丁目一番地
電話北濱(23)代表三四〇一番
振替口座大阪七九九〇〇番

東京支店

麹町區内幸町一丁目七番地
電話銀座(57)三四八六番
振替口座東京八四六六三番

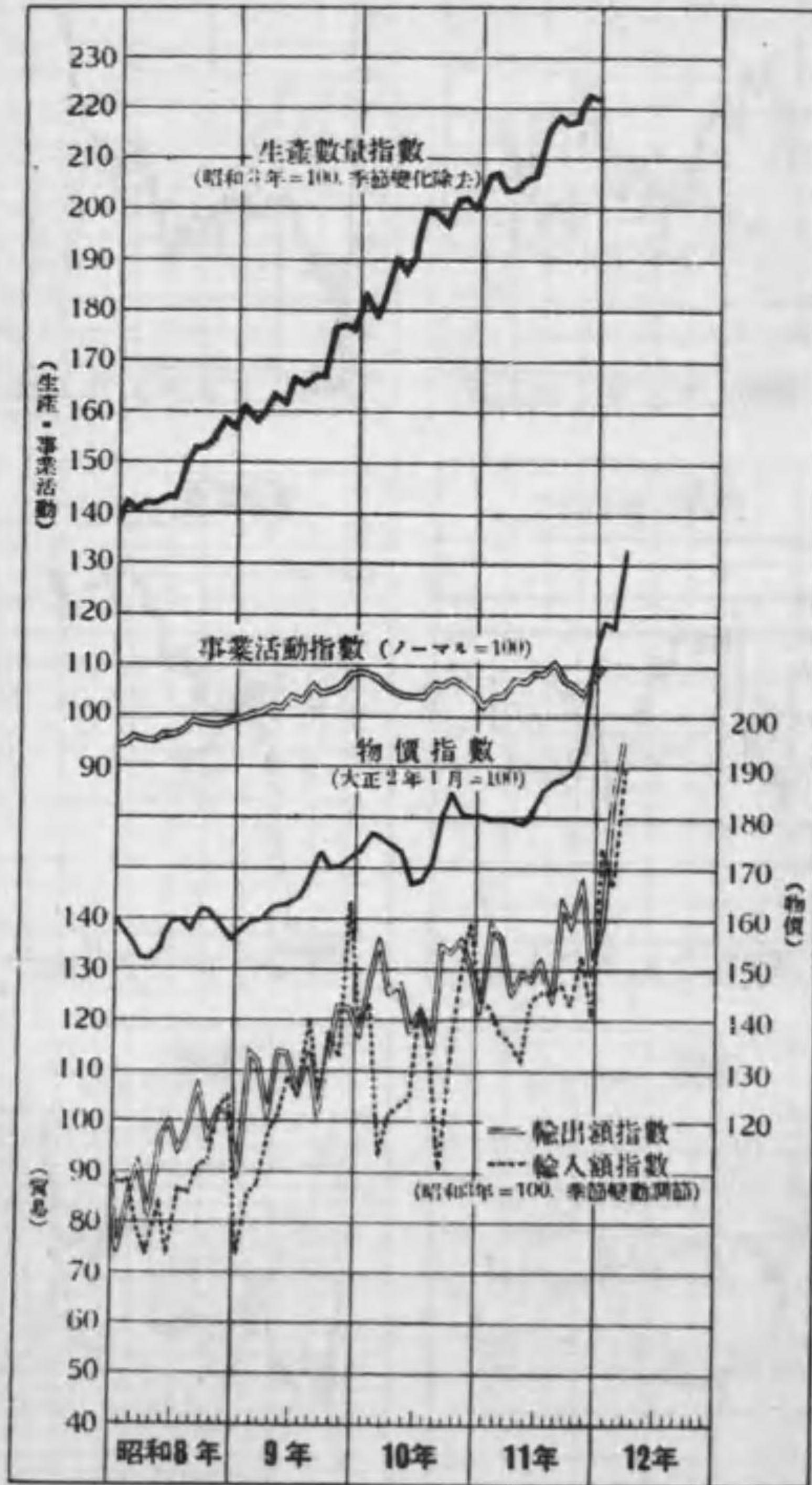
序

會社四季報の第一輯を刊行したのは昨年の六月であつた。本輯を以て丁度一ヶ年を経過したことになる。一ヶ年と云つて了へばそれまでだが、この間には平素の數ヶ年間にも價する大きな變化が政治、經濟の上に現はれた。日々刻々の息吹を知らしめやうと云ふ刊行者の意圖は、充分之を發揮する機會に恵まれたわけである。無論それには讀者諸賢の熱心な御庇護に俟つ處多いが、刊行者として喜びに耐えない。併し乍ら現狀を以て、萬全だと自負してゐるわけでは、素よらない。相變らず匆忙のうちに刊行を計らねばならなかつた爲め、吾々の計畫は本輯でも、充分具體化する事が出来なかつたが、株主數の記載、採録會社の取捨等に於て、その一部を實現した。短評欄にあつても、玉石を混肴して漠然と好景氣來の聲に累せられぬやう、投資家の注意を新にし得た積りである。倍舊の御利用を御願ひする。

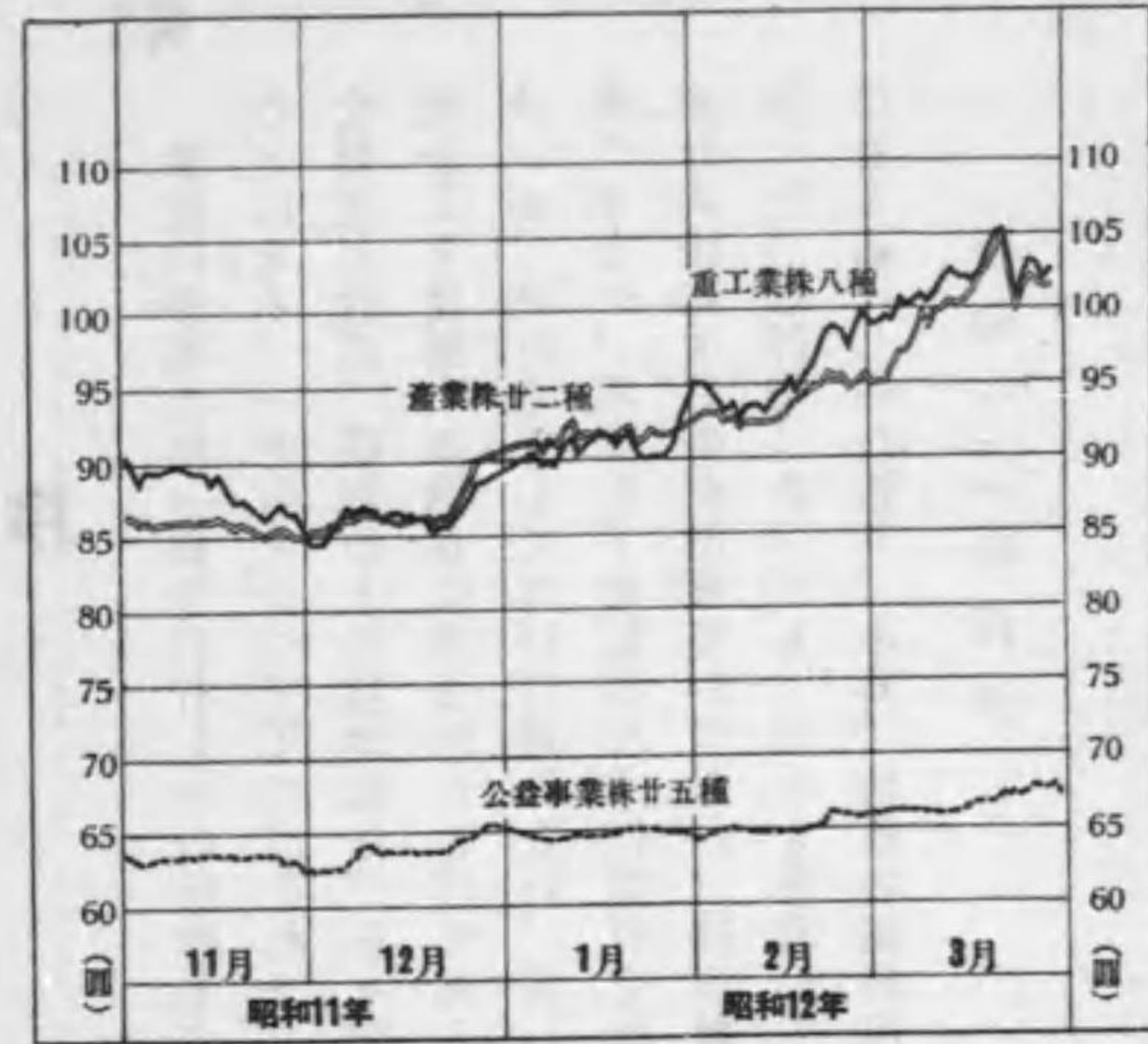
昭和十二年四月

東洋經濟新報社

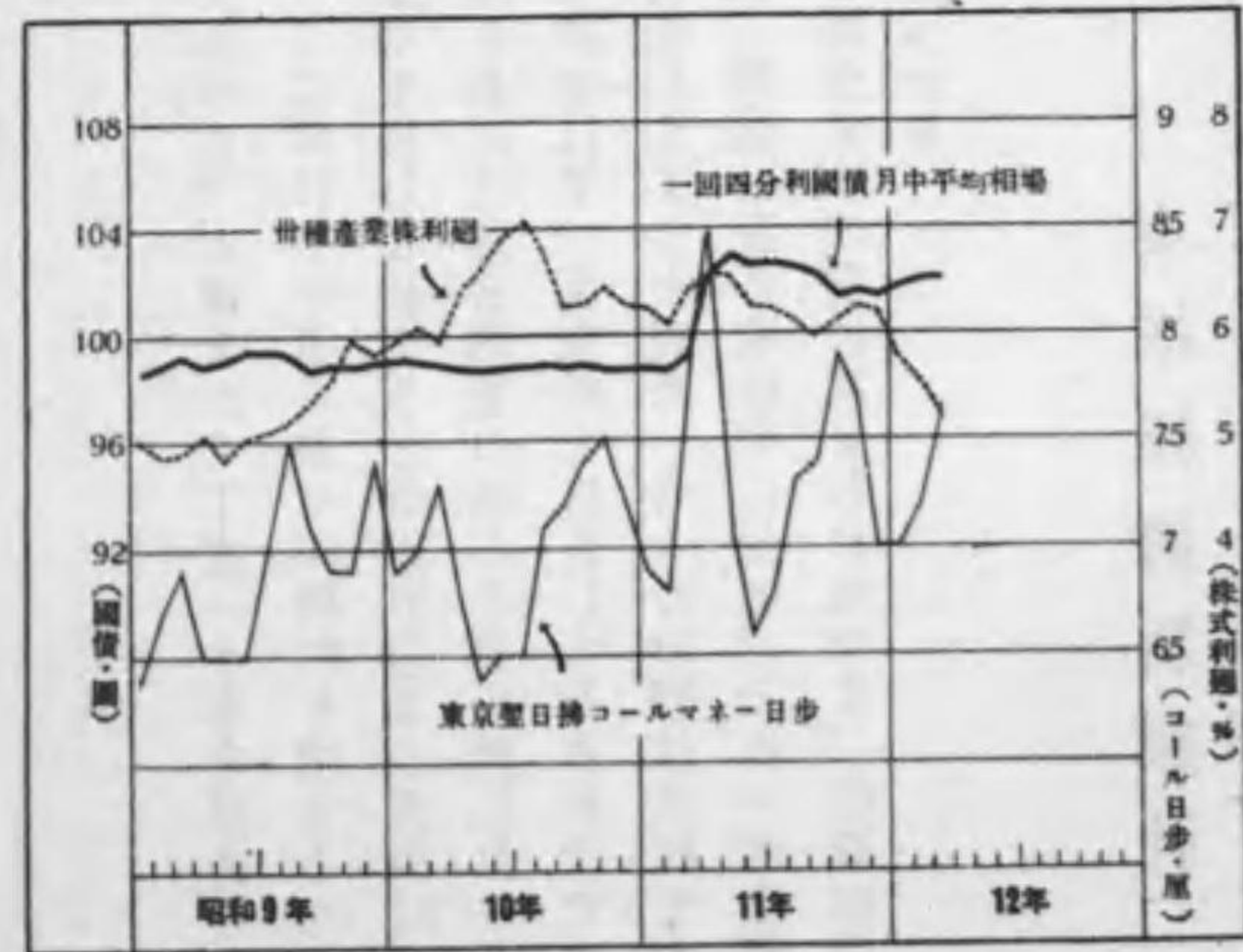
生産・物價・貿易指數



日々平均株價 (我社調)

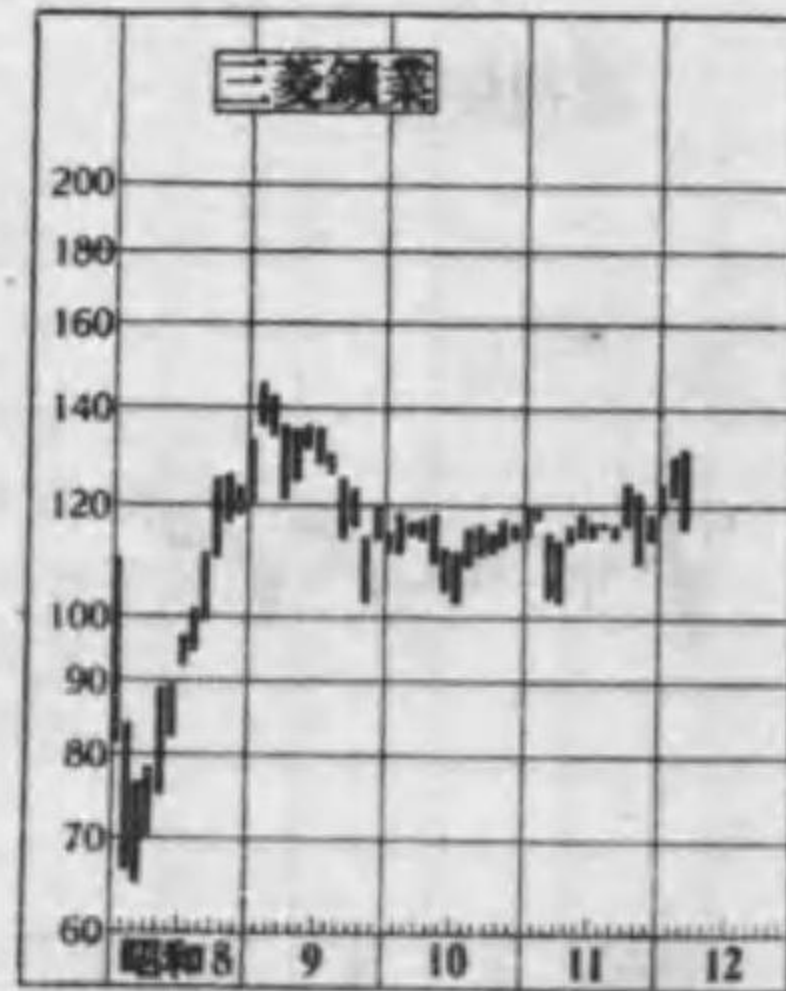


金利と株式利廻

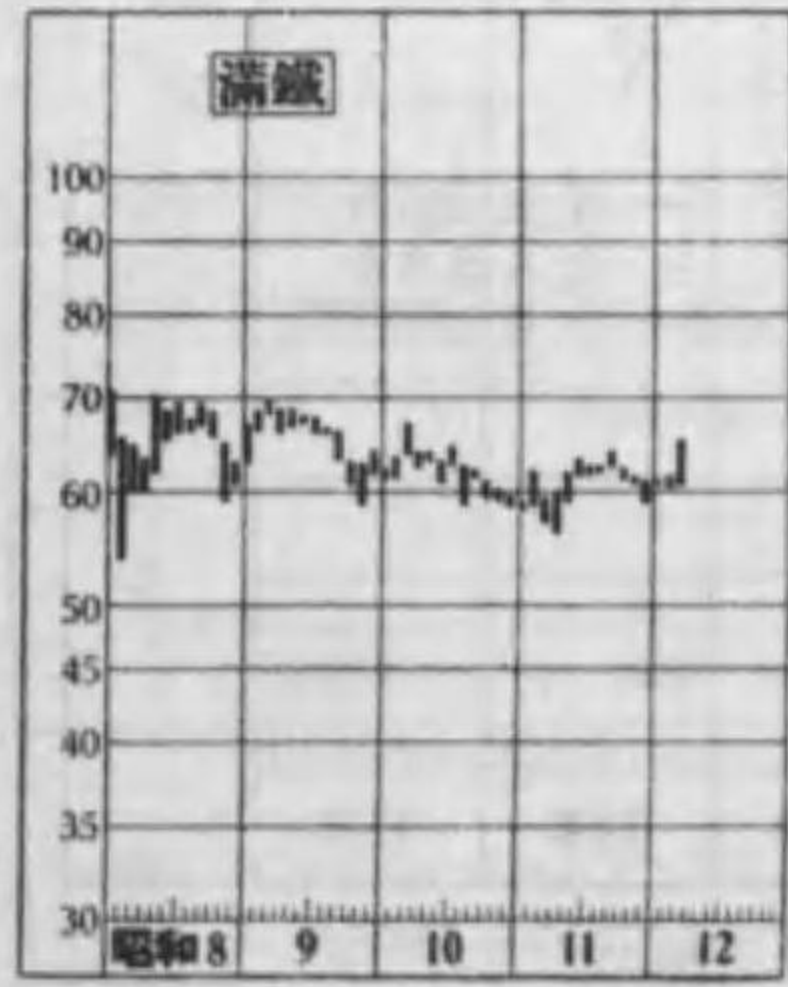
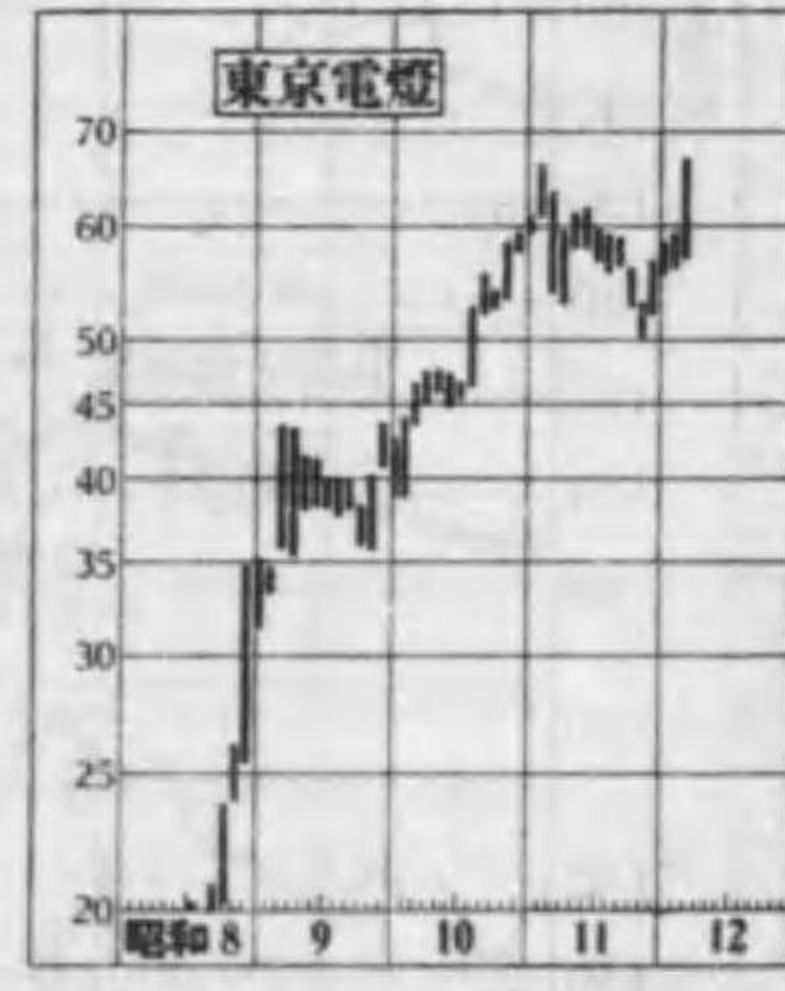


(備考) 産業株廿二種は重工業株を含まず。コール日歩は最低一日平均。
 以上は總べて三月末迄の數字に依る。

花形株最高最低相場 (東京長期、月中高低)



花形株最高最低相場 (東京長期、月中高低)



業別目次

東京株式取引所	出雲製織	片倉製絲紡績	京都電燈	東邦瓦斯	阪和電氣鐵道
大阪株式取引所	長崎紡績	郡是製絲	矢作水力	大多天然瓦斯	名古屋鐵道
東京米穀商會取引所	日出紡績	日本毛織工業	泉怒川水力電氣	南滿洲瓦斯	九州電氣鐵道
大阪米穀商會取引所	近江帆布	東洋毛織工業	關東水力電氣	東武鐵道	朝鮮鐵道
東京三品取引所	和歌山紡績	東洋モスリン	上毛電力	京成電氣鐵道	南滿洲鐵道
大阪三品取引所	名古屋紡績	大東紡績	群馬電力	王子電氣鐵道	自動車
東京三品取引所	旭紡績	昭和美絲紡績	廣島電力	京濱電氣鐵道	海運
大阪三品取引所	内外綿	伊丹製絲紡績	中國合同電氣	京濱電氣鐵道	運輸・通信
東京三品取引所	同興紡績	東洋毛織工業	山陽中央電氣	京濱電氣鐵道	船舶
大阪三品取引所	朝鮮紡績	東洋毛織工業	出雲電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	帝國人造絹絲	東洋毛織工業	日本海電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	倉敷絹織	東洋毛織工業	帝國電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	東洋レーヨン	東洋毛織工業	北海電力電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	日本レーヨン	東洋毛織工業	福島電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	旭ベンベルグ絹絲	東洋毛織工業	北水電力電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	東洋人造絹絲	東洋毛織工業	大井川電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	三重人造絹絲	東洋毛織工業	日立電力	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	錦華人絹	東洋毛織工業	京濱電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	昭和人絹	東洋毛織工業	多摩川水力電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	太陽レーヨン	東洋毛織工業	四國水力電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	福島人絹	東洋毛織工業	滿洲電力	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	岸和田人絹	東洋毛織工業	東邦電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	第二帝國人絹	東洋毛織工業	大日本電力	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	日本人造羊毛	東洋毛織工業	宇治川電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	新製人絹	東洋毛織工業	臺灣電力	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	東邦人造纖維	東洋毛織工業	大日本電力	京濱電氣鐵道	鐵道
東京三品取引所	明治レーヨン	東洋毛織工業	九州水力電氣	京濱電氣鐵道	鐵道
大阪三品取引所	日東紡績	東洋毛織工業	東信電氣	京濱電氣鐵道	鐵道

日本鋼管	住友金屬工業	小倉製鋼所	神戶製鋼所	德山鐵板	大阪製鐵	鶴見製鐵	大島製鐵	香蘭製鐵	芝浦製鐵	東海製鐵	大同電氣製鐵所	日本特殊鋼管	アルミ業	日本電氣工業	日滿アルミニウム	日本アルミニウム	三菱製業	北海道炭礦汽船	九州炭礦汽船	勢城炭礦	入山探炭	北樺太炭業	太平洋炭礦	東邦炭礦	石油	日本石油	北樺太石油	旭石油																								
産金産銅	日本産金	日本産銅	土肥金山	三菱重工業	日立製作所	東京電氣	古河電氣工業	芝浦製作所	東京瓦斯電氣工業	東京製鋼	富士電機製造	新潟鐵工所	池田鐵工所	東洋製鐵	大阪製鐵	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所	大阪機械製作所																							
製絲・絹紡	片倉製絲紡績	郡是製絲	日本毛織工業	東洋毛織工業	東洋モスリン	大東紡績	昭和美絲紡績	伊丹製絲紡績	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業	東洋毛織工業																						
肥料	日本窒素肥料	昭和肥料	滿洲化學工業	電氣化學工業	ラサ工業	住友化學工業	東洋高壓工業	東洋化學工業	日本青連	旭電化工業	保土谷青連	德山青連	大板青連	北海青連	南海青連	帝國火藥工業	日本火藥製造	日本火藥製造	合同油脂	大日本セルロイド	日本セルロイド	三共	日本カール	東海電氣製造	日本硝子	神戶電機製作所																										
セメント	日本製鐵	鐵興社	淺野セメント	小野田セメント	秩父セメント	大阪製鐵	宇部セメント	日本セメント	七尾セメント	土佐セメント	大分セメント	東洋セメント	日之出セメント	旭硝子	日本硝子	品川白硝子	王子製紙	東京セロファン紙	高崎板紙	熱帯産業	日本産業	南亞公司	スマトラ興業	スマトラ拓殖	日本製鐵	鐵興社	淺野セメント	小野田セメント	秩父セメント	大阪製鐵	宇部セメント	日本セメント	七尾セメント	土佐セメント	大分セメント	東洋セメント	日之出セメント	旭硝子	日本硝子	品川白硝子	王子製紙	東京セロファン紙	高崎板紙	熱帯産業	日本産業	南亞公司	スマトラ興業	スマトラ拓殖				
船舶	川崎造船所	浦賀造船所	東京石川島造船所	兩館船渠	日本製鐵	鐵興社	淺野セメント	小野田セメント	秩父セメント	大阪製鐵	宇部セメント	日本セメント	七尾セメント	土佐セメント	大分セメント	東洋セメント	日之出セメント	旭硝子	日本硝子	品川白硝子	王子製紙	東京セロファン紙	高崎板紙	熱帯産業	日本産業	南亞公司	スマトラ興業	スマトラ拓殖	日本製鐵	鐵興社	淺野セメント	小野田セメント	秩父セメント	大阪製鐵	宇部セメント	日本セメント	七尾セメント	土佐セメント	大分セメント	東洋セメント	日之出セメント	旭硝子	日本硝子	品川白硝子	王子製紙	東京セロファン紙	高崎板紙	熱帯産業	日本産業	南亞公司	スマトラ興業	スマトラ拓殖

財界概観

「顯著なる上昇」昨年末以來景氣上昇の速度は著しく強められた。商品や株式の相場が暴騰したばかりでなく、對外貿易は昨年同期に比べて輸出輸入共著しい増加を示して居るし、國內の通貨流通高や手形交換高も、増加頗る顯著なものがある。鐵道貨物輸送量、事業活動指數等の物量的統計は、發表が遅いのと、情勢の變化に應ずることが餘り敏感でないのとで、まだそれ程顯著な増加が分つて居ないが、判明した限り之も無論傾向はよく、實際は著しく増加しつつあるに相違ない。住宅並に工場新建築の増加、諸會社生産設備の擴張旺盛等からだけでも、それは明かに想像される。

「世界的需要超過」此の景氣上昇は、ひとり我國だけのことでなく、今や全く世界に共通の現象である。英國や米國の景氣續昇は改めて述べるまでもないとして、其の他の著しく景氣回復が後れて居た國々まで、昨年からはつきり景氣回復過程に入つた。景氣上昇は今や世界の隅隅にまで及んで居る。だから農産品と言はず、工業製品

と言はず、軍需品と言はず、總ての商品を通じて、世界的に需要が増加し、供給の相對的不足、需要超過を顯現して居る。其の結果として當然物價は騰るが、物價が騰れば生産者の利潤が増大し、企業の擴張新設が増加し若しくは購買力が増大して、そこにまた新たな需要が作り出されると云ふ、累積的膨張の強く起りつつあるのが現状だ。物價騰貴を見込んでの、非消費的中间的物資の需要も、かなりの程度まで起りつつある。それに加へて各國の軍備再編成と擴張とに依る需要がある。

「政治不安薄らぐ」だから、我國内の事情は暫く措いても、海外に引摺られて我國の景氣も上昇する可能性が甚だ強いのであるが、然し國內から見ても無論景氣を刺戟する事情が頗る多い。結城新藏相は、馬場前藏相の作製した豫算案を若干削減する方針を採つたけれども、結果に於て老豫算は豫想通り確定された。而かもかうした積極的刺戟力の依然として大きい反面に於て、電力國營案の中止、各種經濟統制の緩和等、結城藏相になつてから企業利潤の擁護が盛に行はれつつある。財界を壓迫し

つゝあつた統制不安が著しく薄らいだのである。その事はまた軍部を中心とする政治不安の稀薄化でもある。議會は最後のドタン場で遂に解散されたが、其の財界に與へた打撃は極めて輕微である。勿論内閣に對する不安は依然たりだが、それは別段目新しいことでなく、これに

フアツショ勢力が俄かに強まらうとは考へられない。對支政策も轉換しつつあるではないか。

「金現送の背景」だが一面、本年になつてとうとう政府が金の海外現送を行はなければならぬやうになつた事は、恐らく普通に考へられて居る以上に警戒を要する一つの事象だ。言ふまでもなく、これは絶対に永く續け得る状態でない。金を輸出して放つてをけば、それだけ通貨の供給源を減らすから、金利の昂騰となり、國內にデフレ的傾向を生ずる。そして其のデフレーションに依つてのみ國際收支の回復が得られる。が若しそれでも國際收支のバランスが得られなければ、金の流出は何時までも續き、遂に容易ならぬ事態に陥る危険がある。そこで之が對策の如何は極めて重大であり、従つて其の影響力

も絶対に輕視を許さないのだ。たゞ漫然と前途樂觀にのみ醉ふは危険なりと稱して過言でない。

「上げられぬ金利」然し赤字公債を多額に發行しつつある我國の現状に於て、金利を引上げることは政策的に出來ない。利率の僅かの上昇位は起るかも知れぬが、景氣動向に相當の影響を與へる程の上昇は、我國經濟の破綻を假定した上でなければ、想像し得る事態でない。

「景氣の維持か循環か」では他に如何なる類ひの對策が考へられるかと云ふに、こゝでは詳しいことは述べられぬが、物價統制策としての爲替相場引上げ、一層の大増税等が今後の新しい問題になるのではないかと思ふ。勿論然し之等は、景氣を逆轉させるのが目的ではなく、ブームから恐慌へと云ふ景氣循環を避けて、好景氣の維持を圖らうとするに過ぎない。そして現状を基準とすれば、我國の景氣は政策的に無論まだ引上げの餘地があるであらう。されば従らにブーム來を夢想するも愚だが、然し悲觀の要は更にない。三月下旬に起つた株式市場の挫折も恐らく一時的な小反動に過ぎない。

事業概観

【明瞭性加はる】前輯に於て、重工業と云はず、輕工業と云はず、事業會社に業績好轉が見込まれる旨豫想してをいたが、その後發表された昨年下期の業績を一瞥するに、愈々此の感が深い。三十二事業（百五十社）のうち、上期より利益率の低下せるものは九事業に止り、三事業は利益率不變、残り二十事業まで好轉を示してゐる。かくてその利益金總計は三億九千九百萬圓となり、前期の三億七千五百萬圓に比し二千四百萬圓、前年同期に比較するならば三千五百萬圓の増加を現はした。これには使用總資本の増加、従つて設備の擴張に基く生産増加が何がか寄與してゐること勿論であるが、右の利益を平均拂込資本に對比せしめると、十年下期は一八%一、十一年上期は一八%三、そして十一年下期は一八%九と上昇してゐる。可なり際立つた好轉で、此の間平均配當率が八%七、八%八、八%九と順次向上してゐるのも當然と云はねばならない。

【増稅案の修正】併し産業界の基調から見ると、右の

好轉はまだ序の口で、今期は更に相當の増益を來すものと豫想される。一月下旬の廣田内閣瓦解、三月末日の衆議院解散等、政治的には依然として安定性を缺いてゐるが、産業界には之が爲に累せられる懸念は殆んど見當らない。それよりも差し當り問題となるのは、増稅による負擔の増加である。議會を通過した新稅法によると、第一種所得稅（法人所得稅）のうち普通所得稅は十割の増徴となるし、法人營業收益稅は百分の三・四から百分の四に引き上げられる。また資本金の千分の一に當る法人資本稅が新設された。更に礦產稅、取引稅も引上げに決定してゐる。併しか、廣汎な稅率引上げ乃至新稅創設にも拘らず、それが事業會社に及ぼす打撃は左して大きいものではない。製造會社を例にとり、積立金をも含めた資金に對し一割五分の利益率を舉げてゐる會社を假定すると、増稅による利益率低下は一%三程度に過ぎず、三割の場合と雖も二%九に止る。これは積立金をも含めた資本金に對する負擔率だから、拂込資本に對する割合ではも少し高くなるが、今日の好調では之れ位充分増益

によつて補ひ得やう。而も懸念された百貨店賣上稅は撤回されたし、麥酒稅も消費者への轉嫁が可能となつた。新稅法より可なり重かつた馬場案を必至のものと思つてゐただけに、寧ろ明瞭性さへ加はつてゐる。

【残された問題】たゞこゝで注意を要するのは、事業界今日の好轉の一半の理由は、急激な製品の値上りにあると云ふ點だ。商品の値上りが急激であつただけに、原料乃至材料は安値で仕入れた手持が可なり多く、製品の値上りだけが思はぬ儲けとなつて各社の収益に寄與してゐるわけだ。むろんその反面には安値の約定ものを背負つてゐる會社も少くないから一概に云へぬし、また原料高が目先に見えてゐるのであつて見れば、現在好いからとて、儲けをそのまま利益として出してふことも許されまい。けれども、かうした一時的利益が今期の各社を露ほしてゐることは何としても争はれない。のみならず物價の上昇に伴つて、當然起つて來るのは賃銀の引き上げである。既に幾つかの會社では或程度その引き上げを實施した模様であるが、今後かやうな傾向は益々一般化し

て來る運命にある。彼是考へ合すと、急なことはあるまいが、今期のやうな好調が永く續くと考へることには相當の危險が伴ふであらう。

【見透しはよい】かく見て來ると、事業界の前途を青天井と獨斷することは禁物であるが、と云つて然らば急激な反動が來るか云ふと、その心配はない。採算は多少悪化するとしても、それは今日を基準としてのことである。殊に現在の事業會社が強味とするところは、製品の品不足が多くの分野に亘つて、當分解消されそうにないことであらう。これが爲め、原料乃至材料に一層の昂騰があつたとしても、その可能性は強い。その大部分は製品の値上げによつて支障なく償ふことが出来る。現在の鐵鋼や機械類の如き、その適例と云つて差支なからう。また目下瀕りに行はれつゝある設備の擴張が、漸次動き出すとこになれば、收入増加によつても或程度までは、採算の悪化を打ち消すことが可能となる筈だ。云はゞ過渡的好調から、正常的な成績に復歸するわけだ。事業によつて多少は異なるが、當分不安を持つ必要はない。

途前の界式株

【根柢ある騰貴】昨年未反騰に轉じた株式市場は、その後押目らしい押目も作らず、騰貴の途を辿り、三月に入ると人氣は白熱化しブーム的商狀を呈した。雜株に關する限り大相場出現と言つてもよい。若しこのまゝ更に市場が沸騰したら却つて大反動の危険を深めたに違ひないが、そこに至らぬ前に玉整理運動が起きたため、混亂を未前に防ぐことが出来て寧ろ幸であつた。昨年未以來の暴騰の原因はいろ／＼ある。就中根柢ある材料は言ふまでもなく、物資需要の激増に基く商品高である。それも單に重工業品に止まらず、紡績、人絹等の纖維關係品にも及んでゐる。而もそれ等の騰貴は金再禁止後に起つたやうな我國独自の事情から來たのではなく、世界的景氣昂進に原因するところが大きい。此の商品の需要増加と價格騰貴の兩方面から事業利潤は著しく増加することになり、爲めに増配力は出来るし、更に増資の必要に迫られるやうになつて來た。従つて株價高もこれ等發展性あり將來性ある株が中心である。

【解散の影響】彼岸を一應の天井として反動安が起つたけれども、右の商品の需要増と價格騰貴の傾向には少しも變化はないのみならず、金屬類は更に昂騰を示してゐる。尤も三月末になつて突如として衆議院は解散されて政局が再び動搖することになつたことは、株界にとつて勿論好材料とは言はれない。三月に入つて株界が特に活躍したのも、廣田内閣の倒壊で不安を増したが、林内閣が成立し、議會が再開せられて見ると、却つて政局は安定し市場に安心を與へたことが一つの有力な原因であつた。それが議會解散によつて政局がまた／＼動搖するのであるから、政局の見透しがつくまでは株界も明朗性を缺いて來るのは避けられない。殊に廣田内閣倒壊の當時とは違つて株價もまだ割合に高く、買難い地位にある。併し乍ら、總選舉の結果政局が何うならん、世界的好景氣の中にある日本の財界の基調が崩れる譯はない。假りに總選舉の結果政治的勢力が益々軍部的になれば、國防の強化、國民生活の安定を解散の標語としてゐるだけ、財界の膨脹は一層拍車をかけられることにならう。此の

財界基調に立つ限り株界に大反動が襲來するとは考へられない。

【休養期間】尤も暫くは中間的休養期が續くかも知れない。と言ふのは一旦整理が起きると、さう早く灰汁抜けするものではない。過去の經驗に徴しても一週間や二週間では整理運動は終了しない。昨春秋にも大した悪材料なく反落したが、その際も約三ヶ月低迷した。今回の場合に於いても三ヶ月も續騰し、その上好材料を見込めるだけを買ひ盡した株も少くなかつた。そこへもつて來て、議會解散と言ふ悪材料が出て來たのであるから、玉整理の期間を長からしめることは止むを得まい。然らば玉整理は何時になつたら終了するかと言ふことになるが、これは實際の経過を見て、その場／＼で判断する外ない。何か更に突發的に悪材料が出れば整理期間は長くかゝるし、さうでなければ、財界の基調は依然良いのであるから、早く終了する。たゞ注意してをきたいのは暴騰した後だけに、休養期間も相當かゝるものと見て、一寸株界が反撥したからと言つて、高値覺えて飛びつき買ひをし

ないだけの餘裕を持つべきである。

【選擇方針】詰り、こゝ暫くの株界の動向は、一月以來とは違つて一本調子に、そして全面的騰貴時代ではない。波瀾が豫想され、株式によつて高下區々の商狀を呈するのではないかと思ふ。財界の基調には變りはないが、一應好材料を買つた後の株界であるから簡單な動きを示さない。好材料があるからと言つて株式を買つても既にその株價が採算圏内まで騰つてゐたのでは、新たに騰貴は示さない。勿論、未だ買殘されてゐる材料含みの株や、割安株は買はれるが、一應天井相場を出した株は戻り賣りとなるものも出て來るであらう。従つて、目先は再び優良株、割安株の選擇時代と見るべきであらう。そして財界の推移を見て、景氣が一段の昂進を示すことが更に明かとなるのを待つて第二段の全面的大相場も出現しやう。要するに今後の投資方針としては玉整理安が續くものと覺悟して、大勢的樂觀の立場に立つて材料株を選択して買ふべきである。中だるみが嫌になつたり、或は持續の資力のないやうな人は投資を差控へたがよい。

株式横濱取引所

(本社) 横濱市中區本町三ノ三(電本局三三三)

【出来高新記録】近年當所の生糸出来高は殖える一方である。殊に十一月に締切つた昨年度下期の賣買は、當所開設以來の新記録を畫するに至つた。即ち當期の生糸出来高は九月を除くと毎月八萬俵を超え、十一月の如き十六萬九千俵となつて、期中合計は結局六十萬二千俵に上る盛況を示した。近年の最高だつた前年同期に比し、更に六萬九千俵を増したわけである。

【決算漸次堅實】尤も出来高は新記録を示しても、糸價は金輪再禁止前から見ると未だ頗る低いから、手数料収入はその割合に殖えない。また此の期には前年同期頃から見ると利息乃至配當収入が減つてゐる關係もあつて、結局利益金は四十七萬圓と、前年同期より却つて二萬五千圓の減益に終つてゐる。だが、それでも利益率は一割四分五厘に上り、一割一分配當には、取引所としては可なりの餘裕を残してゐる。

【今期依然好調】續く今期も相變らず好成績だ。米國の景氣昂進の影響を受けて三月廿二日までの出来高は既に三十七萬三千俵を數へてゐる。此の調子で期末まで行けば、或は前期の出来高を更に凌駕するかも知れぬ。今期から増税負擔が加はつて来るが、いまの處一割一分配當維持に支障が起るとは考へられぬ。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Establishment), '決算期' (Fiscal Year), '資本金' (Capital), '役員' (Officers), '大株主' (Major Shareholders), and '出資高' (Investment). It lists names and amounts for various periods.

Table with financial data for the company, including sections for '資産負債' (Assets and Liabilities), '收支勘定' (Income Statement), '株主資本' (Shareholder Equity), and '流動資産' (Current Assets). It provides a detailed breakdown of the company's financial position.

株式名古屋株式取引所

(本社) 名古屋市中區南伊勢町一ノ三(電中局二五八)

【下期決算】當所の十一年下期利益金は二十三萬四千圓で、前期の二十三萬六千圓に比し僅か二千圓の減益に止まつた。東京、大阪兩株取にくらべると成績は比較的良かったわけだ。利益率は一割一分で、配當は八分の据置きであつた。前年同期に比すると成績はずつと落ちるが、前期とは大體同じ成績である。

【下期業績】十一年下期の當所出来高は八百三十萬二千株で、前年同期よりは百九萬株の減少であるが、前期に比すると十一萬八千株の増加となつてゐる。尙ほ例の名株代行權を買収した權利金は、この下期中の消却三萬一千八百五十二圓で消却完了となつた。この勘定は昭和十年上期以來、一期平均六萬圓程づゝ消却して來たもので、今後この程度が利益として浮いて來る。當社今後に於ける好材料と見てゐる。

【今期業績】期初十二月以來二月十五日までの今期累計出来高は五百九十一萬三千株で、前年同期に比し二百七十四萬五千株、前年同期に比し二百三十一萬三千株の激増となつてゐる。この間の今期手数料収入は二十四萬九千圓で、前年同期の十二萬四千圓に比し十二萬五千圓の増加、即ち倍増してゐる。今後逆轉することになれば、當然二分位増配して差支へない。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Establishment), '決算期' (Fiscal Year), '資本金' (Capital), '役員' (Officers), '大株主' (Major Shareholders), and '出資高' (Investment). It lists names and amounts for various periods.

Table with financial data for the company, including sections for '資産負債' (Assets and Liabilities), '收支勘定' (Income Statement), '株主資本' (Shareholder Equity), and '流動資産' (Current Assets). It provides a detailed breakdown of the company's financial position.

株式 東京米穀商品取引所

(本社) 東京市日本橋區横須賀町一ノ一九(電字場二六三)

【前期依然不振】最近に至つて當所の成績は稍々見直してゐるが、前期までは不振の連続であつた。十一月締切の昨年同期に於ける清算取引の出来高を見ると、米穀千四百八萬七千石、綿糸八十四萬二千捆、人絹三十一萬二千枚で、米穀及び人絹の二商品は何れも前年同期より少かつた。また綿糸と雖も僅少の増加であつて殆んど問題とならない。而も前年同期が既に近年にない不振期だつたのだから、取引閑散の程が窺はれる。

【利益不増】出来高が斯く面白くないのだから、利益の擧げないのも當然である。即ち前期の利益金は、二十一萬六千圓に過ぎず、前年同期より更に六萬圓を減少してゐる。利益率にして八分に過ぎない。季節的によかるべき筈の下期が斯やうな有様だから、五分配當措置となつたのも止むを得ない。

【今期稍々見直す】右の成績から見ると、今期は稍々よい。三月二十二日迄の清算取引出来高を一瞥すると、米穀八百六十七萬石、綿糸百三萬五千捆、人絹四十七萬九千枚である。此の調子で行くと、今期全體では米穀千四百萬石、綿糸百六、七十萬捆、人絹七十六萬枚見當となり、上期としては近年にない好成績だ。但しその水増しに疑問があるから、増配には餘り期待が持てまい。

【設立】	明治九年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	米穀、綿糸、人絹清算實物取引
【資本金】	公稱 七、五〇〇
【株主数】	新(五〇〇) 六〇,〇〇〇
【役員】	理事長 早川芳太郎 常務 上田彌兵衛 理事 梅原保 神沼谷藏 監査 鈴木茂兵衛 吉田嘉四郎 渡邊 健藏
【大株主】	總數 一、七五七
【米商取引員】	有松勝吉 五、三〇〇 東京米商信用 五、〇〇〇 早川芳太郎 四、六〇〇 土井永市 三、〇〇〇 伊藤精七 三、〇〇〇 新倉多太郎 一、九〇〇 梅原保 一、七五七
【清算取引】	十年下 十年上 十年下 十年上
米穀(千石)	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
受渡(千枚)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
受渡(千捆)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
受渡(千石)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
正米取引	十年下 十年上 十年下 十年上
内(千石)	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
鮮米(千石)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
米(千石)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【手数料】	十年下 十年上 十年下 十年上
米穀取引	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
綿糸人絹	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、五〇〇 六、五〇〇 六、五〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【前期配當】	十一年十一月期 六分
【名義書換】	十 十 十

株式 大阪堂島米穀取引所

(本社) 大阪市北區堂島通一ノ三九(電北 天一)

【下期決算】當所の十一年下期の利益金は二十五萬二千圓で、前期に比しては季節的に勿論増益してゐるが、前年同期の二十五萬九千圓に比すると稍々減益した。利益率は、前年同期が一割九厘だつたのが、此の十一年下期には一割六厘五毛に止まつた。配當は四分の据置であつたこと恒例の通りである。

【下期業況】右は勿論米穀賣買が振はなかつた結果で、例へば十一年下期中の精算米出来高は一千八百六十三萬石で、前年同期の二千五百五十二萬石に比し二百八十九萬石の減少であつた。正米取引はいさゝか良かったが素より問題ではない。倉庫部の不振と共に減益を招來したのである。

【今期業績】併し今期業績は稍々良い様である。即ち期初十二月以來二月十九日までの清算米出来高は六百五萬九千石で、前年同期の五百六萬五千石より九十九萬四千石、二割近い増加となつてゐる。季節的に出来高の多い前年同期の六百一十一萬八千石からみても約六萬石程しか少くない有様である。而して米價も相當高まつてゐるので條件は尚ほ良い。かくて二月十九日までの手数料收入累計は九萬二千五百圓で、前年同期の七萬九千四百九十四圓に比し一萬二千六百二十圓の増加となつてゐる。

【設立】	明治九年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	米穀清算實物取引
【資本金】	公稱 六、〇〇〇
【株主数】	新(三三〇) 三三,〇〇〇
【役員】	理事長 實吉 支那人 戸川 巖 常務 安川 彦夫 監査 増山 忠夫 理事 須々木庄平 田中喜三治 文部部長 島武和三郎
【大株主】	總數 一、二五七
【實吉合資】	九、七〇〇 共同信託 〇、〇〇〇
三同株式	八、〇〇〇 廣代 弘孝 〇、〇〇〇
須々木庄平	三、〇〇〇 川北 正喜 一、七五七
太田嘉太郎	一、〇〇〇 山東 榮藏 一、〇〇〇
吉岡 新一	一、〇〇〇 小川泰良 一、〇〇〇
【出来高】	十年下 十年上 十年下 十年上
清算部(千石)	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
受渡高	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
正米部	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
倉庫部(千石)	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
入庫高	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
出庫高	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
期末保額	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【手数料】	十年下 十年上 十年下 十年上
賣買手数料(千圓)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
受渡手数料(〇)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
倉庫保管料(〇)	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【前期配當】	十一年十一月期 四分
【名義書換】	十 十 十

株式 大阪三品取引所

(本社) 大阪市東區北久太郎町三ノ一五(電話場型)

【下期決算】十一年下期の當所業績は前期に比しかなり良好であつた。即ち利益金は二十五萬四千圓で、前期より八萬圓増加し、利益率は一割八分五厘と五分八厘を向上した。前年同期に比しても好成績であつた。併し配當は恒例の一割に止めた。

【下期業績】十一年下期の賣買高は、人絹に於ては振はなかつたが、綿絲・棉花は相當増加した。即ち綿絲出來高は二百九十一萬圓で、前期より九十七萬五千圓を増し、前年同期に比しても十六萬圓の増加であつた。棉花も前期より五十九萬六千圓、前年同期より二十七萬圓増の百五十四萬六千圓出來た。たゞ人絹は三十六萬二千圓と獨り振はなかつた。

【今期業績】今期は昨年末以來の綿絲、人絹の大商内によつて業績は大いに良好する見込である。即ち期初十二月以降二月十七日までの綿絲出來高は前年同期及前年同期の三倍を突破する有様だ。例へば同期間の綿絲出來高は前年同期の九十八萬八千圓、前年同期の九十一萬九千圓に對し、今期は實に三百三十三萬圓に達し、人絹も前期の四倍餘、前年同期の二倍たる五十三萬七千圓を示し、棉花亦二倍を突破する百五十八萬八千圓出來てゐる。増益著しきもある譯だが、配當は恒例通りか。

株式 神戸取引所

(本社) 神戸市神戶區浪花町六〇(電話三三三六)

【下期決算】當所の十一年下期利益金は十五萬四千圓で、利益率は九分九厘であつた。前期に比し利益金六萬三千圓、利益率四分の低下である。當所の配當は、元來利益率との間に差が比較的大きかつたのだが、前期の八分五厘から七分に減配した。前年同期より悪いことも云ふまでもない。

【下期業績】十一年下期の株式出來高は九百三十三萬二千株で、前期より百三十三萬株の減少であつた。米は正米をも含めて四百九萬七千石で、季節的に條件の同じ前年同期の五百一十一萬五千石に比し百萬石餘の減少、蠶絲も下期の出來高は六千四百七十萬斤で、前期に比し二百七十萬斤、前年同期に比し四百五十萬斤を減少した。

【今期業績】今期は一月末までの累計で、株式が二百三十三萬八千株、米穀が七十二萬四千石、蠶絲が百四十一萬斤の出來高となつてゐる。これを前年同期に比すると株式が七十四萬二千株、蠶絲が二十一萬五千斤の増加に當り、米穀も前年同期より二十七萬二千石の増加となつてゐる。而して賣買手數料總高は累計十九萬四千圓で、前年同期より四萬八千圓、前年同期より四萬六千圓の増加を示してゐる。

【設立】	明治二十六年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿絲、棉花、人絹清算取引
【資本金】	株式 公稱 三、〇〇〇 新(三三三) 〇、〇〇〇
【役員】	理事 中村利三郎 清家 豊松 常務 岡島 綱雄 監査 福田政之助 理事 今西興三郎 下郷 傳平 岩田宗太郎 田附竹治郎
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 一、〇六六 一、〇六六 一、〇六六
【大株主】	日本棉花三、〇〇〇 京都殖産三、〇〇〇 福田政之助三、〇〇〇 田附政次郎二、〇〇六 加納幸太郎二、〇〇〇 今西興三郎一、〇三三 山本合資一、〇〇〇 廣瀬復太郎一、〇〇〇 岩田宗太郎一、〇〇〇 岩田保太郎一、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 出來高 綿絲(千圓) 三、五六一 一、〇六一 一、〇六一 棉花(千圓) 一、七〇七 一、〇六一 一、〇六一 人絹(千圓) 一、〇六一 一、〇六一 一、〇六一 手數料(千圓) 一、〇六一 一、〇六一 一、〇六一
【資産負債】	十一年 十一年上 十一年下 株主資本 四、〇〇〇 外部負債 一、〇〇〇 流動負債 一、〇〇〇 流動資産 一、〇〇〇 固定資産 一、〇〇〇 現金預金 一、〇〇〇
【収支勘定】	十一年 十一年上 十一年下 收入 一、〇〇〇 支出 一、〇〇〇 利益 一、〇〇〇
【株價】	十一年 十一年上 十一年下 高値 安値 高値 安値 高値 安値
【名義書換】	十 十 十 十 十 十 十 十 十

【設立】	明治二十九年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	株式、米穀、蠶絲清算取引
【資本金】	株式 公稱 三、〇〇〇 新(三三三) 〇、〇〇〇
【役員】	理事 中村利三郎 清家 豊松 常務 岡島 綱雄 監査 福田政之助 理事 今西興三郎 下郷 傳平 岩田宗太郎 田附竹治郎
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 一、〇六六 一、〇六六 一、〇六六
【大株主】	日本棉花三、〇〇〇 京都殖産三、〇〇〇 福田政之助三、〇〇〇 田附政次郎二、〇〇六 加納幸太郎二、〇〇〇 今西興三郎一、〇三三 山本合資一、〇〇〇 廣瀬復太郎一、〇〇〇 岩田宗太郎一、〇〇〇 岩田保太郎一、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 出來高 綿絲(千圓) 三、五六一 一、〇六一 一、〇六一 棉花(千圓) 一、七〇七 一、〇六一 一、〇六一 人絹(千圓) 一、〇六一 一、〇六一 一、〇六一 手數料(千圓) 一、〇六一 一、〇六一 一、〇六一
【資産負債】	十一年 十一年上 十一年下 株主資本 四、〇〇〇 外部負債 一、〇〇〇 流動負債 一、〇〇〇 流動資産 一、〇〇〇 固定資産 一、〇〇〇 現金預金 一、〇〇〇
【収支勘定】	十一年 十一年上 十一年下 收入 一、〇〇〇 支出 一、〇〇〇 利益 一、〇〇〇
【株價】	十一年 十一年上 十一年下 高値 安値 高値 安値 高値 安値
【名義書換】	十 十 十 十 十 十 十 十 十

株式 京都取引所

(本社) 京都市中京區東洞院通錦小路南入(電本局一七七)

【下期決算】當所の十一年下期利益金は二十一萬三千圓で、前年同期の二十四萬四千圓よりは不成績であつたが、前期の二十萬圓に比すると一萬三千圓の増益であつた。右下期の利益率は一割二分二厘で前期より八厘の向上であつたが、配當は勿論九分六厘の据置きであつた。

【下期業況】十一年下期の株式出来高は六百七十七萬四千株で、前期に比し二十八萬八千株、前年同期に比し百七十萬二千株の減少であつた。米穀も前年同期より二十三萬石減の二百二十萬四千石であり、倉庫部の業績も振はなかつた。併し賣買代金の増加によつて手数料収入はその割に減らず、前期の二十五萬三千圓に比し、二十五萬一千圓を維持した。

【今期業績】今月初十二月以来二月廿日までの出来高累計は株式が四百十六萬二千株で、前年同期の二百四十二萬九千株、前年同期の三百七萬二千株に比し著しく増加してゐる。米も同様で右期間の清算米出来高は七十五萬一千石と、前年同期の四十四萬三千石に比し三十萬八千石からの増加である。従つて手数料収入もこれにつれて増し、右期間のそれは、對前年同期七萬六千圓、對前年同期四萬四千圓の各増加を示してゐる。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '事業' (Business), '資本金' (Capital), '役員' (Officers), '株主' (Shareholders), '事業成績' (Business Performance), '貸入金' (Loans), '貸出金' (Loans), '負債' (Liabilities), and '資産' (Assets).

株式 廣島株式取引所

(本社) 廣島市銀山町一(電本局一三)

【下期決算】當所に於ても、十一年下期の業績は低下した。即ち十一年下期利益金は九萬四千圓で、前期の九萬九千圓、前年同期の十三萬三千圓に比すると夫々減益してゐる。併し利益率は尙ほ三割七分六厘に達したので、普通配當二割、特別配當五分、合計二割五分の恒例配當は据置くことが出来た。

【下期業況】下期株式出来高は合計五百三十八萬九千株で、前期に比し二十一萬二千株、前年同期に比し百九十三萬三千株を減少して商内は振はなかつた。爲めに手数料収入も十四萬七千圓と前期の十六萬圓に對し一萬三千圓の減收を示したが、利益金は結局以前期の如く二千圓減に止まつたのは支出減に因る。

【今期業績】今期業績の回復は可成り急激の見込みである。即ち今月初十二月一日以降二月十七日までの出来高累計は三百五十二萬二千株で、前年同期の二百十七萬七千株、前年同期の二百三十六萬三千株に比すると著しい増加である。従つて同期間の手数料収入も同様に増加し、今期は十萬七千圓で、前年同期の五萬八千圓に比し四萬九千圓、前年同期の七萬四千圓に比し三萬四千圓の増収である。増加率は夫々八割四分、五割に當り今期の利益が激増すべきこと云ふまでもあるまい。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '事業' (Business), '資本金' (Capital), '役員' (Officers), '株主' (Shareholders), '事業成績' (Business Performance), '貸入金' (Loans), '貸出金' (Loans), '負債' (Liabilities), and '資産' (Assets).

株式博多株式取引所

(本社) 福岡市天神町五五(電、三〇〇)

【上期決算】當所の十一年上期利益金は十九萬六千圓で、前期に比し六千圓の増加であつた。増益額は僅かだが、株式取引所でこの期増益したのは當所だけであらう。前年同期の二十四萬八千圓に比すれば減益だが、とにかく例外的な成績を示したわけである。下期利益率は二割六分一厘で、配當は一割八分を据置いた。

【上期業績】この好成绩はその出来高の上にも現はれてゐる。即ち十一年下期中の總出来高は六百九十二萬六千株で、前期の六百四十萬六千株に比し五十二萬株、八分餘の増加であつた。この期間に出来高が増したの株取の中で全く異例である。當所の地理的好條件に支配された結果であらう。尤も前年同期の八百七萬株には勿論及ばなかつた。

【今期業績】今期二月十五日までの累計出来高は四百六十七萬二千株で、前年同期の二百五十九萬八千株、前年同期の二百八十七萬九千株に比すると著しい増加だ。對前年同期二百七萬四千株の増加で、増加率八割である。従つて手数料収入も増加し、前年同期の十一萬五千圓、前年同期の十五萬一千圓に對し今期は二十三萬一千圓に及んでゐる。今期相當大幅に増益するは云ふまでもない。高率配當一割八分の据置も問題ない。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '事業' (Business), '資本金' (Capital), '株主' (Shareholders), '役員' (Officers), and '事業成績' (Business Performance).

Table showing '資産負債' (Assets and Liabilities) and '収支勘定' (Income Statement) for the company, detailing figures for various years and periods.

大連取引所信託株式會社

(本社) 大連市山縣通二二四(電大連三三三) (出張所) 東京市京橋區京橋三福徳生命ビル内(電京橋三三三)

【銀票取引廢止】横濱正金銀行の發行した鈔票は昨年十月一日以後發行廢止となり、同時に金券と等價引換となつた爲め、當所の取引も之に應じて、九月三十日現在取組中の建玉全部をそのまゝ、金建取引に振り替へるに至つた。

【出来高増す】従つて十一年下期は前半が銀建、後半が金建と二つに分れた譯であるが、之を合計した出来高は、予想の通り上期より可なり見直した。大豆、高粱、豆粕及び豆油の清算出来高は各々九萬三千四百四十九車、七千二百廿九車、四百五十三萬七千枚及び六十四萬四千五百兩を數へてゐる。これを前期に對比すると、豆粕、豆油の二つは減つてゐるが、大豆、高粱共に相當の増加だ。殊に手数料収入の大半を占める大豆出来高が五割の増加を招いたため、手数料収入合計は前期より五萬圓増の二十六萬圓となつた。まだ十一年下期には遠く及ばぬが、それでも結局利益金は二十四萬七千圓、利益率一割二分に上り、一割配當は割合樂につけることが出来た。

【今期豫想】今期はまだ期初二ヶ月間の成績しか判らぬが、大豆出来高は三萬五千五百車となつてゐる。この調子で行けば、前期より更に好くなる計算だ。減配の心配は要るまい。

Table with financial data for the company, including sections for '設立' (Incorporation), '決算期' (Fiscal Year End), '事業' (Business), '資本金' (Capital), '株主' (Shareholders), '役員' (Officers), and '事業成績' (Business Performance).

Table showing '資産負債' (Assets and Liabilities) and '収支勘定' (Income Statement) for the company, detailing figures for various years and periods.

株式 大連株式商品取引所

(本社) 大連市豊島町四九 (電話八、一四一)
(出張所) 東京市豊島町内幸町一ノ三 正東堂ビル内 (電話座六二六)

【再び無配】 當所は十一年下期に至つて再び無配當に陥つた。元々十一年上期の三分復配は、繰越益金を喰つてつけた無配當だつたのだから、下期の無配轉落は當然の成り行きだつたと評してよい。がそれにしても、手数料収入僅か二萬三千圓に過ぎず、これに雑収入二萬七千圓、その他合せて七萬二千圓の總収入に止つてゐるのは、御話にならない。その結果、諸税その他營業費、雜費を差し引いた利益金はたゞの一萬三千圓と云ふ心細い状態だ。

【缺損の由來】 一萬三千圓の利益金では、二百萬圓の拂込資本資金に對し、一分三厘にしか當らぬ。それでは配當の付けやうがあるまい。而も此の期には、退任役員慰勞金として五萬圓の臨時支出があつた。前理事長櫻内辰郎氏の辭任に際して交付されたものである。當社の如き業績の會社が、五萬圓もの慰勞金を支出すること自體、問題であらうが、兎も角この臨時支出で、營業上に於て得た利益を全部吐き出して尙ほ三萬七千圓の損勘定となつた。

【今期依然不振】 今年上期も引き續き不振の見込みである。期初二ヶ月間の成績によると、肝心の株式出來高(延取引)は十六萬一千株で、此のまま期末まで行けば總出來高は四萬八千株に止まる。他の商品取引も同様不振で、結局無配續續の外あるまい。

【設立】	大正九年二月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	株式、綿絲、綿布、麻袋、人絹、麥粉清算現物取引	【資本金】	株式 100,000 公積 100,000 總計 200,000
【役員】	理事 佐藤喜八郎 田中千吉 小林庄五郎 監査 相生常三郎 中村長吉 小野實雄 山本源太郎	【株主數】	十年下 1,200 十年上 1,200 十二年上 1,200 十二年下 1,200
【大株主】	松本榮吉 4,000 岡崎昌造 3,000 山田商店 2,000 松島久太郎 1,000 今井良一 1,000	【手數料】	十年下 1,000 十年上 1,000 十二年上 1,000 十二年下 1,000
【現物】	計現物 10,000 麻袋 3,000 綿絲 7,000	【支拂】	十年下 10,000 十年上 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【業績】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000	【配當】	十年上 10,000 十年下 10,000 十一年上 10,000 十一年下 10,000 十二年上 10,000 十二年下 10,000
【前配當】	十一年十一月期 無配	【名義書換】	十條【新券交付】 五十條

業事績紡

【一濟増益】 昨年秋以來の綿業界好轉により、紡績會社は正に有卦に入つた形だ。各社の利益は今、來期殆んど一齊に相當の増加を示すだらう。この上期は、製品の約定關係により大體後半しか採算好化の影響を受けなかつたが、それでも増益額は僅少でない。各社によつて増益の程度は無論異なるが、昨下期に較べると四、五割増から多い所では倍前後の利益が期待されてゐる。上期分の製品は何れも賣約濟みだから、この利益は確定したものと見てよい。

【業界の見透】 前途も大體不安ない。今年になつてから綿業界は可なり波瀾を呈し、最近では相場も一時の高値より相當下つてゐる。然し昨年末から今春にかけてのやうな活況は異常であつて、其後の市況が寧ろ常態と言へよう。尤も今後綿絲生産高は増加の傾向にあるので、需給關係には若干不安も持たれてゐる。然し需給關係が問題だとしても大したことはないだらう。綿布の輸出も一、二月はさう好成绩とも言へぬが別に悪い方でもない。ま

た採算も、綿絲相場の下落に對し、原棉相場はその割に下らず、最近ではまた強調を呈してゐるので、一時より可なり利益は減つてゐる。然し採算益が低下したと言つても今日なほ二十手一相當り約二十圓の利益となるから、まだ一有利な方だ。或ひは綿業界の前途には手放しに樂觀出來ぬ節もあり、時に波瀾もあるかも知れぬが、いまの所大勢不安ないと見てよい。

【下期更に好成绩】 各社の下期成績は一般に上期より更に良好である。既に下期の製品は大體三分の一乃至半分は約定濟みだが之が採算は何れも頗る有利になつてゐる。右の如く今後市況にさして不安ないとすれば、期全體の利益が上期以上に達することはほゞ間違ひない。

【増配・拂込盛行】 紡績會社はかく好成绩を期待されるので、増配・拂込徵收期待の會社が少なくない。既に相當よい配當を行つてゐる會社は大體現狀維持で増配は望み難いが、然し一割前後の配當の所では今、來期幾社か増配會社が現はれよう。拂込徵收會社は現に昨年來績出しつゝある状態だ。

東洋紡績株式会社

(本社) 大阪市北區堂島濱通二ノ八(電北一三〇七)

【増益多額】當社の多角的經營のなかに於いて、主要収益源は言ふ迄もなく第一に綿糸布であり、次は人絹である。その規模が大きいだけに最近の様な綿業界、人絹界が好況を呈してゐる際には増益額も大きい。四月一日に總額七百五十萬圓の拂込を徴収するので、今期の平均拂込資本は六千萬圓餘になるが、今期利益率は四、五割に上るだらう。下期成績は更に一段とよくなる筈だ。然し既に一割八分配當を行つてゐる當社では増配は期待し難い。

【擴張進行】擴張計畫は最近可なり積極的に進められてゐる。その主なるものは、内地の岩國人絹工場、朝鮮京城の綿紡工場、支那では天津、上海の綿紡工場等々である。但しこれらは目下既に工事進行中のもので、今後更に新、増設が漸次續けられる豫定だ。資金はこゝ、一兩年内に二、三萬圓は要するだらう。

【拂込・増資問題】この所要資金の大半は、前記の拂込金や今後相當多額に上る保留益によつて賄ひうる筈だが、然し利益の急増を前にしては近く最終拂込も具體化して來よう。其の後はやはがて増資が問題になる順序である。然し堅實主義の當社のことだから増資はなほ今後の情勢を見て考慮すべく、従つて時期の如きはまだ豫断し難い。

鐘淵紡績株式会社

(本社) 東京市向島區隔田町二ノ一六二(電濱田三〇一三)
(營業所) 神戸市林田區御崎町一丁目(電兵庫 〇)

【積極的擴張】當社の積極的擴張は依然續けられて居るが、各方面に亘る新、増設の資金は今年中に約一千五百萬圓乃至二千萬圓を要する豫定だ。これは去る一月の拂込徴収額一千萬圓余と今回發行の社債一千萬圓で一應賄ひ得る。然し擴張は無論これだけに止らない。津田社長の言ふ如く「鐘紡にはやれば幾らでも仕事はある」のだから、今後時期を見て更に新、増設は續行されるだらう。さうなると當然また資金が要る。

【拂込・増資】従つて最終拂込も遠くない筈だ。假りに目下計畫中の擴張が完成後、すぐ新計畫にとりかゝらないにしても、現在の借入金四千萬圓はやがて拂込か社債に振替へられるものであり、これがためにも拂込徴収を必要とする。その時期は當社の例の資金三分主義から考へると、早ければ本年下期頃、遅くも明年上期と豫想される。更に資金の必要から言つて、其の後に遠からず増資の實現も必然的だ。増資の時期は増資額の如何によつて多少異なるだらうが、今の所大體昭和十四、五年頃と思はれる。

【配當】二割五分配當に當分不安のないことは屢々述べてゐる通りである。また當局者も減配してまで増資を急がないと言ふ方針である。

【設立】	大正三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績、綿織、人絹、毛織、絹織、布、絹紡織、ステープル・ファイバー
【資本】	公稱七、七〇〇、〇〇〇 實收七、七〇〇、〇〇〇
【役員】	會長 阿部房太郎(社長) 庄司吉吉(専務) 伊藤傳七 種田健藏、關桂三、(取締役) 谷口豊三郎、中山秀一、土屋喜太郎、作川輝太郎、澤重保、山口正雄、(監査) 河部彦太郎、齋藤恒一、山邊清亮、神野金之助、九鬼教七、(相談) 齋藤恒三、飯尾一
【株主】	大株主 伊藤傳七 三、七〇〇、〇〇〇 千代田生命 三、〇〇〇、〇〇〇 帝國生命 六、〇〇〇、〇〇〇 岩谷喜兵衛 三、〇〇〇、〇〇〇 豊島 半七三三三
【事業規模】	綿紡機 一、〇〇〇、〇〇〇 人絹機 一、〇〇〇、〇〇〇 毛織機 一、〇〇〇、〇〇〇 絹織機 一、〇〇〇、〇〇〇 平均番手 一、〇〇〇 綿糸 一、〇〇〇、〇〇〇 人絹 一、〇〇〇、〇〇〇 毛織 一、〇〇〇、〇〇〇 絹織 一、〇〇〇、〇〇〇
【投資】	棉紡績、絹織工場 岩谷喜兵衛、十一年四月和泉紡績合併一五萬圓増資、十二年四月和泉紡績徴収の答

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年		
株主資本	一四、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一七、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
【收支勘定】	十年下	十一年上	十一年下
收入	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
支出	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
【名義書換】	十 十 十	十 十 十	十 十 十

【設立】	明治十九年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	紡績、綿織、毛織、生絲、更紗、人絹、製織、加工、其他
【資本】	公稱五、〇〇〇、〇〇〇 實收五、〇〇〇、〇〇〇
【役員】	社長 津田 信吾 取締役 井上 謙三、城戸 秀吉、野崎 廣太、常務 三宅 幸三、野崎 廣太、取締役 中村 和作、室田 義文、丸山 幸藏、前山 久吉、平賀恒太郎、桑谷 寛治
【株主】	大株主 第一相 五、〇〇〇、〇〇〇 三井合資會社、六東株代行業、三井物産、三井物産、明治生命、三井物産、三井物産
【事業規模】	綿紡機 一、〇〇〇、〇〇〇 人絹機 一、〇〇〇、〇〇〇 毛織機 一、〇〇〇、〇〇〇 絹織機 一、〇〇〇、〇〇〇 平均番手 一、〇〇〇 綿糸 一、〇〇〇、〇〇〇 人絹 一、〇〇〇、〇〇〇 毛織 一、〇〇〇、〇〇〇 絹織 一、〇〇〇、〇〇〇
【投資】	棉紡績、絹織工場 岩谷喜兵衛、十一年四月和泉紡績合併一五萬圓増資、十二年四月和泉紡績徴収の答

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年		
株主資本	一四、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇	一四、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一七、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
【收支勘定】	十年下	十一年上	十一年下
收入	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇
支出	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
【名義書換】	十 十 十	十 十 十	十 十 十

日清紡績株式會社

(本社) 東京市東區龜戸町二ノ七八(電話田三二一九)
(事務所) 東京市日本橋區浪花町二〇(電話花二一五二)

【昨年下半年實績】計上利益二百四十四萬圓、前期に比すれば二十萬圓の増益で、一割二分配當には幾分の餘裕が出来た。固定資産償却も一・六ヶ年賦だから健實なものである。

【本年上期】綿糸一捆平均三十圓の差益としても五萬四千圓では百六十萬圓以上の利益が出るし、製布益も方碼當り平均一錢五厘として七萬方碼では百萬圓近くにはなる。すると、隆興紗廠益金及雜收入を合して三百萬圓以上の總益が此の五ヶ月に豫想されるわけだ。拂込資本に對し三割以上の利益率を擧げ得ることとなり、現行一割二分配當は充分據置ける。

【下期以降】先約の關係で採算好化の影響を全面的に受けるのは寧ろこの下期に於いてだ。それに下期になれば改造・増設分が業績に寄與する。目下工事が進捗しつゝあるのは内地各工場の舊臺入換並に改造の外、濱松工場の六萬錘増錘、岡崎工場の人織四百臺据付、それから青島第三工場精紡機三萬錘、燃糸機九千六百臺、織機九百五十二臺の新設がある。右の建設費總額は一千萬圓程度に達するが、差詰め大部分は低利の借入金に依る模様だ。右は執れも下期中に運轉開始となる豫定で、さうなれば更に増益が見込まれ、又拂込徴収といふ段取とならう。

【設立】	明治四十年二月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布	【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 一八七,〇〇〇
【株主】	新三三〇 三〇〇,〇〇〇	【役員】	社長 宮島清次郎 常務 野尾 勇平 取締役 鈴木 誠一 取締役 岡田 四郎 監査 岩崎 清七 田邊 龍一 川崎 友之助 山本 信三 中島 伊平 西村 博八 福澤 駒吉
【大株主】	岡田 四郎 二〇,〇〇〇 明治生命 二〇,〇〇〇 丸本 謙吉 一〇,〇〇〇 中島 伊平 一〇,〇〇〇 宮島 清次郎 二〇,〇〇〇 平沼 久三郎 二〇,〇〇〇 千代田 生命 二〇,〇〇〇 遠山 借成 一〇,〇〇〇	【事業規模】	精紡機 五〇,〇〇〇 臺 燃糸機 九,〇〇〇 臺 織機 九,〇〇〇 臺 平均番手 三〇,〇〇〇 番 綿布生産 一〇,〇〇〇 萬 原糸生産 二〇,〇〇〇 萬
【投資會社】	中部電力、日新電機、青島電氣、日清レイトン、青島電氣	【資産負債】	十一月 五十二年 十一月 株主資本 三〇,〇〇〇 外部負債 一八七,〇〇〇 使用總資本 二〇〇,〇〇〇 固定資産 一〇〇,〇〇〇 流動資産 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇
【名義書換】	十錢【新券交付】五十錢	【利息】	三月二十日調 五分二厘 三月二十日調 三分七厘

錦華紡績株式會社

(本社) 金澤市大豆田町一 (電話 三、〇〇〇)
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル (電北漢 三、七)

【業績好轉】當社の強味は内容が良く、生産費の割安なことである。従つて近年の綿業不況期に於いてもスット二割以上の利益率を維持して来た。そこへ綿業界は一轉好況期を迎へて来たので、一段と増益を示すのは確實である。當上期は比較的先約を早く進めてみた方なので増益の程度もそれ程ではないが、然しなほ利益金は二百五十萬圓を下らない模様だ。二百五十萬圓としても利益率は三割二分近くになる。下期の利益は更に増加し恐らく三百五十萬圓前後に上るだらう。

【増配】當社の現行配當一割は紡績會社として低くもないが、然し高い方でもない。まだ増配の餘地はあり、殊に業績から見ても二、三分の増配は十分可能だ。然し今期は一割据置の見込みである。けれども相當の利益をあげてゐる際であり、又他社との振合もある。それに當社は本年丁度創立二十周年に當る。従つて下期に恐らく二分程度の増配を斷行するものと豫想される。

【拂込問題】加藤新社長は前社長に比し積極的である。事業の擴張も種々目論んで居り、北支へも近く進出する方針だ。之らの計畫が具體化すれば相當資金も要る。増配すれば拂込は一應問題だが、然し遠からずそれが實現する可能性は充分ある。

【設立】	大正六年六月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布	【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 一八七,〇〇〇
【株主】	新三三〇 三〇〇,〇〇〇	【役員】	社長 加藤 正人 取締役 中島 理一 専務 佐藤 正太郎 取締役 川崎 恒二 取締役 倉知 宗吉 望月 軍四郎 杉 道助 監査 高島 伊作 杉 道助 増田 義一 門田 秀 西野 幸作
【大株主】	江 商 九、八〇〇 千代田生命 七、七〇〇 西野 幸作 七、〇〇〇 望月 太郎 二、〇〇〇 望月 玉三 二、〇〇〇 佐藤 進 二、〇〇〇 帝國生命 九、〇〇〇 前田 利為 八、〇〇〇 望月 軍四郎 八、〇〇〇 望月 補夫 八、〇〇〇	【事業規模】	精紡機 三〇,〇〇〇 臺 燃糸機 七、〇〇〇 臺 織機 七、〇〇〇 臺 平均番手 三〇,〇〇〇 番 綿布生産 一〇,〇〇〇 萬 原糸生産 二〇,〇〇〇 萬
【投資會社】	錦華人相、錦華毛糸	【資産負債】	十一月 五十二年 十一月 株主資本 三〇,〇〇〇 外部負債 一八七,〇〇〇 使用總資本 二〇〇,〇〇〇 固定資産 一〇〇,〇〇〇 流動資産 一〇〇,〇〇〇 現金預金 一〇〇,〇〇〇
【名義書換】	十錢【新券交付】五十錢	【利息】	三月二十日調 五分二厘 三月二十日調 三分七厘

倉敷紡績株式会社

(本社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四(電倉敷) 〇
(出張所) 大阪市西區江戶橋北通一丁目(電土佐堀) 〇一三

【拂込徴収】未拂込残額一株廿五圓、總額四百八十五萬圓を來る六月廿六日に徴収する。これに當社は資本金二千萬圓全額拂込済みとなる。而して今回の拂込金は擴張資金の一部に充當する。

【積極的擴張】擴張については最近可なり積極的な新・増設計畫を進めてゐる。即ち伊豫北條における綿紡の新工場建設、既設綿紡工場の部分的擴張並に改善、岡山、早島、松山三綿紡工場の人織工場への轉換、津毛織工場における梳毛設備の新設、等の外、更に北支進出も決定し天津に綿紡工場を建設することになつた。これらの建設費は、一兩年内に約千六、七百萬圓を要する。この資金は今回の拂込金と、今年上、下兩期の豫想保留益約八百萬圓で大半賄ひうるが、不足分は或る程度昨年以後の保留益を充てることも出来るし、なほ足りないなら増資をもする模様だ。

【増資・増配】現に當局者は増資を考慮してゐる。今後も相當の利益が上がり配當に不安ないとすれば遠からず増資の運びに至るだらう。増資するとすれば期待されてゐた増配はや、疑問となるが、然し増配の期待も全然失はれた譯でない。今、來期の利益率は五、六割に達する好成绩だし、昨年以後の市況に激變なければ二分位の増配の實現性は残されてゐる。但し増配は増資後の豫想。

吳羽紡績株式会社

(本社) 大阪市東區安土町二ノ五(電話本町) 〇

【配當】當社は昨年同期に利益金百七十五萬圓、利益率三割一分四厘の成績で、一割二分配當を繼續した。五月末締切りの今期は、約定關係から言つて増益の割合は大きい方ではないが、それでも前期より四、五割の増益は見込んでよいだらう。下期は更に好成绩が期待される。この成績から言へば増配も十分可能だが、然し現に一割二分配當を行つて居り、また今後擴張資金が相當要るので、果して増配するかどうか、今の所一寸豫断し難い。

【人網分離】當社は昨年末人網部を分離して創立した龍山人網なる別會社を、今回昭和和網に合併せしめた。吳羽紡は之によつて昭和和網株十五萬株を所有することになり、昭和を通じて人網界に乗出すことになつた譯だ。三月廿二日徴収の拂込(總額四百四十二萬圓余)は大體右の資金に充當される。

【北支進出】擴張については内地でも若干増設を進めて居るが、北支(天津)進出も愈々決定した。資金は北支の新工場建設だけでも約四、五百萬圓を要する。これらの所要資金は或る程度手許資金及び今後の保留益で賄へるが、不足分は當分借金による方針だ。當社は資金の調達方法については拂込、借金の平行主義をとつてゐるが、前述の拂込徴収で借金の餘地も出来る。

【設立】	明治二十一年三月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 2,000,000 拂込 2,000,000
【株主数】	新 1,000 舊 1,000
【重役】	社長 大原孫三郎 取締役 石井 龍夫 常務 林 桂二郎 監査 水瀬 又七 取締役 原 澄治 小林益太郎
【株主名】	大原孫三郎 8,000 中國銀行 1,000 岡山商事 8,000 清手保太郎 5,000 直村和三郎 4,000 三宅 金作 4,000
【事業成績】	十年上 2,100,000 十年下 2,100,000
【事業規模】	工場 倉敷、玉島、早島、萬壽、坂出、岡山、松山、九島、高松、觀音寺
【投資會社】	倉敷紡績、倉敷毛織
【資本異動】	十年三月又新紡績、倉敷毛織を買収し本年六月五圓拂込徴収の豫定

【資産負債】	十一年 六十一 十一年 六十一
株主資本	2,000,000 2,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000
使用總資本	3,000,000 3,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000
流動資産	2,000,000 2,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年上 1,000,000 十年下 1,000,000
【業績】	十年上 1,000,000 十年下 1,000,000
【株主名】	大原孫三郎 8,000 中國銀行 1,000 岡山商事 8,000 清手保太郎 5,000 直村和三郎 4,000 三宅 金作 4,000
【名義書換】	十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

【設立】	昭和四年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布、加工
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 1,000 舊 1,000
【重役】	社長 伊藤忠兵衛 取締役 小島 逸平 専務 井上 富三 取締役 小島 逸平 取替 泉 久七 伊藤 清彦 豊島 久七 伊藤 清彦 山田 昌作 早瀬 太郎三郎 松岡 潤吉 大林 義雄 古橋 林司 田中榮八郎
【株主名】	伊藤忠兵衛 8,000 松岡 潤吉 7,000 小島 逸平 7,000 伊藤 清彦 6,000 豊島 久七 6,000 伊藤 清彦 6,000 山田 昌作 6,000 早瀬 太郎三郎 6,000 松岡 潤吉 6,000 大林 義雄 6,000 古橋 林司 6,000 田中榮八郎 6,000
【事業成績】	十年上 1,000,000 十年下 1,000,000
【事業規模】	工場 倉敷、玉島、早島、萬壽、坂出、岡山、松山、九島、高松、觀音寺
【投資會社】	倉敷紡績、倉敷毛織
【資本異動】	十二年三月三圓五拂込徴収

【資産負債】	十一年 五十一 十一年 五十一
株主資本	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000
使用總資本	2,000,000 2,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年上 1,000,000 十年下 1,000,000
【業績】	十年上 1,000,000 十年下 1,000,000
【株主名】	伊藤忠兵衛 8,000 松岡 潤吉 7,000 小島 逸平 7,000 伊藤 清彦 6,000 豊島 久七 6,000 伊藤 清彦 6,000 山田 昌作 6,000 早瀬 太郎三郎 6,000 松岡 潤吉 6,000 大林 義雄 6,000 古橋 林司 6,000 田中榮八郎 6,000
【名義書換】	十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

天満織物株式會社

(本社) 大阪市旭區毛馬町一〇三ノ一 (電話川 五三三)
(營業所) 大阪市北區中之島三丁目二五江商ビル (電北濱 五三一七)

【増配】當社はこの上期で丁度創立五十周年に當る。そのため二分程度の記念特配をつけるだらうといふことは既報の通りであるが、實現はほゞ確定的である。問題はこれを一期限りで落すか、下期以降これを普通配當に直すかである。この點はなほ下期の情勢を見る必要があるが、然し結局これを普通配當に直し、今後一割配當として繼續するのではないかと豫想される。

【業績好轉】二分程度の増配は、業績から見て何ら無理ではない。當社は近年の綿業不況期に於ても最低二割一分六厘の利益率を維持して來たが、當上期の利益は綿業界の好轉により可なり増加する。三月一日、一株十二圓半、總額八十七萬五千圓の拂込徴收を行つたため今期の平均拂込資本はやゝ増加するが、それでも豫想利益率は約三割五分弱となる。下期は採算好化の外に、新設の宇和島工場が愈々本格的に能率をあげる様になるので、更に好成績の見込みだ。

【増設】宇和島工場に紡機四萬錠を増設することになつたが、資金は約二百萬圓を要する。右の拂込はこの一部に充てるものだがあとは今後の保留益で賄ふ方針だ。内容にはなほ改善の餘地もあるが、増配しても前途不安はない。七十二圓揃の株價は割安。

【設立】	明治二十年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇 實收 九、〇〇〇
【株主】	野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 尾上金吉 一〇、〇〇〇 竹村清太郎 一〇、〇〇〇 中出安治郎 一〇、〇〇〇 田附政太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇
【役員】	社長 野田吉兵衛 専務 尾上金吉 取締役 江南要太郎 竹村清太郎 監査 綱島綱雄 中出安治郎 田附政太郎
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【大株主】	野田同族會三、八〇〇 野田商店七、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇
【事業規模】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【工場所在地】	大阪市旭區毛馬町 富山縣上野川郡大津野村
【事業成績】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【資本異動】	十一年一月三百萬圓増資、第一 一回拂込一二圓五徴收、同年十月第二 回拂込一二圓五徴收、十二年三月第三 回一二圓五拂込徴收、

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【收支確定】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【利益】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【名義書換】	十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十

豊田紡織株式會社

(本社) 名古屋市西區米田町一七六一 (電西豊 〇一〇)

【業績】當社の昨年九月期の成績は、利益金八十二萬七千圓、利益率一割四分餘で、配當は七分を据置いた。この三月期の利益は前期より幾分増加してゐる筈である。尤も當社の決算締切りは多くの紡績會社より二ヶ月早いので、昨年末以來の綿糸採算好化による利益も今期は比較的少ないだらう。然し來る九月期はこの採算好化の影響を全面的に受ける筈にあるので、相當の増益を見るものと豫想される。

【配當】七分配當の前期に於いても、利益の社内保留率は丁度五割に當り、決算は堅實なものであつた。今後利益が増加するとすれば、配當も比較的低率の當社のことであり、増配も問題になつて來るのではないかと思ふ。當社は現在に於いても個人經營の色彩が濃厚であり、總株數三十一萬二千株のうち約半數は豊田一家で占められて居る。従つて配當政策も當局者の意向で左右される所が多いやうだ。果して増配するかどうかは豫断出來ないが、その可能性は少なくない。

【内容堅實】それに當社では現に内容も頗る優秀だ。外部負債の少ないこと、固定資産の割安なこと、何れも當社の強味である。當分前途は樂觀してよい。

【設立】	大正七年一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇 實收 九、〇〇〇
【株主】	野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 尾上金吉 一〇、〇〇〇 竹村清太郎 一〇、〇〇〇 中出安治郎 一〇、〇〇〇 田附政太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇 野田吉兵衛 一〇、〇〇〇 野田清太郎 一〇、〇〇〇
【役員】	社長 野田吉兵衛 専務 尾上金吉 取締役 江南要太郎 竹村清太郎 監査 綱島綱雄 中出安治郎 田附政太郎
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【大株主】	野田同族會三、八〇〇 野田商店七、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇 野田吉兵衛三、〇〇〇 野田清太郎三、〇〇〇
【事業規模】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【工場所在地】	名古屋市西區米田町 愛知縣刈谷町 名古屋市中野町
【事業成績】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【資本異動】	九年九月三百萬圓増資

【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【收支確定】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【利益】	十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 十一年下 一、一三三
【名義書換】	二十 二十 二十 【新券交付】 五十 五十 五十

出雲製織株式会社

(本社) 鳥取縣新井郡今市町一九〇〇
(営業所) 大阪市東區備後町三ノ八製業合館内 (電本町三三三)

【好轉著し】昨下期の利益金は九十萬七千圓、利益率は三割五分弱であつたが、来る五月末締切りの今期利益は更に一段と増加すること確實である。綿業界がよい上に、兼營の人事事業が愈々本格的に収益期に入つて来たからだ。今期の利益は概算百六、七十萬圓見當に上る見込みである。拂込徴收のため平均拂込資本は増加するが、百六十萬圓の利益としても利益率は五割餘に上る。下期の成績は今期よりモットよくなる豫想だ。

【増設進捗】擴張も最近可なり活潑で、最近まで人相事業の確立に主力を注いで来たが、今後更に人織、人織紡績、綿紡等に互り擴張を行ふことになつてゐる。この資金は拂込金を以つて充てる。拂込は昨年十二月新株第二回として一株十二圓半を徴收したが、更に来る四月一日同額の拂込徴收を決定してゐる。

【拂込徴收】業績から見る限り増配力は十二分にある。即ち現在配當一割に對し二、三分の増配はやらうと思へば出来る。然し増配は今の所疑問のやうであり、それより拂込徴收といふことになるのではないか。資金は差當り必要としないが、現在当社には約七百萬圓近い借金があるので、これを幾分整理するといふことも考へられる。恐らく最終拂込も遠くはあまい。株價は割安。

長崎紡織株式会社

(本社) 長崎市幸町一ノ一
(営業所) 大阪市東區備後町二ノ七〇都都ビル(電北濱三三三)

【利益倍増】當社は内地に三工場ある外、青島にも一工場を持つてゐる。最近綿業界は内地、支那ともに好轉顯著なので、収益状態は何れも著しく良い。青島工場の方は、内地以上に好採算に恵まれてゐる。今期の締切りは四月末であるが、内地でも製品の賣約を有利に進めたので増益の割合は比較的大きく、結局、内外を合計すれば今期の利益は合計約百萬圓見當に達する模様だ。百萬圓とすれば昨下期の利益四十六萬圓餘に比し倍増といふ譯であり、利益率にすると三割以上になる。下期の成績は、上期より更に良好の豫想だ。採算好化の外、下期になると新設の今治工場が益々本格的に能率をあげる點も見逃せない。

【増配必至】業績から見て増配力は十分ある上に、昨上期に二分減の六分増配としたのを舊に復し度い意向である。他方また今年は丁度創立廿五周年に當るといふ如き事情もあるので、増配は必至である。但し内容充實を計る必要もあるので増配も先づ二分程度と見られる。これも今期は紀念配當とし、來期以降普通配當に直し八分増配として繼續することにならう。

【前途】規模がまたさう大きくなく、また内容にも改善の餘地少なくないが、然し漸次面目も改まらうし、増配後も不安ない。

【設立】	大正九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布、人相
【資本金】	公稱 10,000 新(資) 10,000 舊(資) 10,000
【株主】	新(資) 〇 舊(資) 〇
【重役】	社長 穴道政一郎 取締役 米益 清一 本務 四方田 寛一 監査 森山茂太郎 取締役 四方田 保 飯田重之助 取締役 佐藤 武 櫻内 幸雄 取締役 佐藤 眞 相談 山田金右衛門
【大株主】	穴道政一郎 〇、〇〇〇 穴道 寛一 〇、〇〇〇 穴道 政一 〇、〇〇〇 中澤倉太郎 〇、〇〇〇 松江銀行 〇、〇〇〇 大高 盛敏 〇、〇〇〇 出雲電氣 〇、〇〇〇 大高 盛敏 〇、〇〇〇 四方田 保 〇、〇〇〇 大高 盛敏 〇、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 綿紡績(産) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 平均番手 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 綿布生産(千疋) 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 原棉消費(千石) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 原棉(千石) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 【資本異動】 十一年十二月及十二年四月 各三圓五拂込徴收。

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、八〇〇 六、八〇〇 六、八〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
×現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【名義書換】	十一年 五、〇〇〇 十一年 五、〇〇〇 十一年 五、〇〇〇

【設立】	大正元年十二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱 10,000 新(資) 10,000 舊(資) 10,000
【株主】	新(資) 〇 舊(資) 〇
【重役】	社長 松村 丑松 本務 原 茂久雄 取締役 山田 庄平 取締役 脇山啓次郎 監査 岩田宗太郎 取締役 肥後慶之助 肥後慶三郎 取締役 肥後慶之助 肥後慶三郎
【大株主】	肥後源次郎 〇、〇〇〇 山田 庄平 〇、〇〇〇 入来屋商店 〇、〇〇〇 長崎野村 〇、〇〇〇 肥後 安雄 〇、〇〇〇 若崎 久彌 〇、〇〇〇 岩田宗太郎 〇、〇〇〇 肥後慶之助 〇、〇〇〇 肥後商店 〇、〇〇〇 日本棉花 〇、〇〇〇 脇山啓次郎 〇、〇〇〇 日本棉花 〇、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 綿紡績(産) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 平均番手 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 綿布生産(千疋) 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 原棉消費(千石) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 原棉(千石) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 【資本異動】 九年七月〇〇萬圓増資

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、八〇〇 六、八〇〇 六、八〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	三、八〇〇 三、八〇〇 三、八〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
×現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【名義書換】	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇

明正紡織株式會社

(本社) 大阪市東淀川区三津屋新町(電北五三三)

【増資】當社は愈々倍額増資を行ふ。舊株の未拂込残額一株十圓、總額七十六萬圓は去る三月一日徴收したが、續く増資で現在の資本金五百萬圓は一千萬圓となる。新株は舊株一對新株一の割合で割當てるが、割當期日は三月廿日の臨時總會で決定する。第一回の拂込は四分の一で徴收期日は来る六月一日だ。増資の目的は、第一に人織紡績の擴張と綿紡の設備改善並びに姉妹會社明正レィオンへの拂込等に要する資金を調達するにあるが、一部は株主に酬ひる意味をも含んで居る。

【擴張計畫】人織紡績の擴張規模は紡機五萬錘、綿紡の改善はまた舊式の設備が残つてゐるのを全部新規のものに取替へるのである。これらの所要資金と明正レィオンへの拂込金豫想額とを合計すると、今年中に約三百五十萬圓乃至四百萬圓の資金を要する。今回の拂込徴收だけでは足りないが、不足分は今後の保留益乃至借金で賄ふ方針である。

【配當措置】綿業界の好轉により最近の増益には著しいものがある。今期は綿紡の利益に人織紡績益其他雑益を加へると、利益總額は合計百萬圓に上る。利益率にして四割餘に達する。來期は更に良好の見込み。但し配當は當分一割割當の豫想である。

【設立】	明治四十五年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	100,000
【株主数】	100
【重役】	社長 堀 文平 常務 根木 精一 監査 松井 萬縁 取締役 石川 知足 高田 象一
【大株主】	大同生命 10,000 共榮土地 6,000 堀 文平 6,000 津田勝五郎 5,000 久野 文四郎 4,000 小泉 慎造 4,000 山本 隆太郎 3,000 長澤 エイ 3,000
【事業規模】	紡績機(錘) 一〇、〇〇〇 二、〇〇〇 織機(錘) 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【工場】	大阪市東淀川区 同 西淀川区 同 宇摩郡川之江町 同 愛媛縣宇摩郡三島町
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 綿紡績(錘) 三、九〇〇 三、九〇〇 平均番手 三〇 三〇 綿布生産(千疋) 一、八〇〇 一、八〇〇 原綿消費(千石) 一、二〇〇 一、二〇〇
【投資會社】	明正レィオン、泰成布廠
【資本異動】	十二年三月一〇日拂込徴收 六月五〇〇萬圓増資拂込二二〇萬圓徴收

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	6,000 6,000 6,000
外部負債	2,000 2,000 2,000
使用總資本	4,000 4,000 4,000
固定資産	6,000 6,000 6,000
流動資産	2,000 2,000 2,000
現金預金	1,000 1,000 1,000
【收支動向】	十年下 十年上 十年下
収入	1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十

和歌山紡織株式會社

(本社) 和歌山市傳法橋南ノ丁一(電五)

【立直る】當社は昨下期に四分配當を復活した。この期の成績は、利益金二十六萬圓、利益率一割を示し、昨上期の利益金僅か六萬四千圓、利益率二分五厘から見ると著しい立直りである。業界好轉期には小會社は小會社なりでまた有利な立場にもあるので、かく好成績をあげ得たものと見られる。

【増配】今期は六月末締切りであるが、業績は前期より更に數段よい模様だ。増配も可能である。夫に當社は現在資本金五百二十萬圓全額拂込済みであるが、當局者は増資し度い意向を持つてゐるので、配當を引上げる必要もある。たゞ一舉に大幅な増配を行ふことは問題であらうし、差當り、二、三分の増配を行ふものと観測される。其後機を見て更に考慮することになるだらう。

【増資問題】増資の目的は事業擴張資金調達のためである。擴張計畫といふのは北支進出で、既に天津に工場建設の計畫を進めてゐる。従て擴て増資も具體化して來るのではないかと思ふ。

【前途】綿業界が好調を續ける限り前途にも不安ないと思はれるが、何分當社は規模が小さく弾力性に乏しい。従來の例を見ても業界が少し悪くなると無配餘儀なしといふ状態であつた。將來にもどれ程期待してよいか、今暫く情勢を見る必要があらう。

【設立】	明治二十六年二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	100,000
【株主数】	100
【重役】	社長 川口 義宏 取締役 南 俊一 取締役 本多楠之助 取締役 大塚 伸之丞 桑原虎太郎 取締役 高橋 彦兵衛 土生 信一 吉村友之進 監査 遠藤 美之
【大株主】	川口 義宏 八、〇〇〇 南 俊一 六、〇〇〇 川口 義宏 三、〇〇〇 久兵衛 四、〇〇〇 南 幸夫 三、〇〇〇 岡本英二郎 三、〇〇〇 南 三郎 三、〇〇〇 中村 合名 三、〇〇〇 竹中 源助 三、〇〇〇 吉村友之進 三、〇〇〇
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 紡績機(錘) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 織機(錘) 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【工場所在地】	和歌山市傳法橋南之町、 同 手平、同中之島、同五筋目、 和歌山縣有田町箕島町
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 綿紡績(錘) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 平均番手 三〇 三〇 綿布生産(千疋) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 原綿消費(千石) 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	6,000 6,000 6,000
外部負債	2,000 2,000 2,000
使用總資本	4,000 4,000 4,000
固定資産	6,000 6,000 6,000
流動資産	2,000 2,000 2,000
現金預金	1,000 1,000 1,000
【收支動向】	十年下 十年上 十年下
収入	1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000 1,000 1,000
【名義書換】	十 十 十

名古屋紡績株式会社

(本社) 名古屋南區八幡町字上新谷三三八八(電南二〇七)

【好轉顯著】當社の最近の業績好轉は著しく、昨下期の利益金は五十萬一千圓、利益率は一割八分に達した。昨上期に較べ利益金は十七萬圓増、利益率は約六分三厘の向上である。これは綿絲の採算好化と共に原棉の値上りなどに恵まれる所多かつたためと見られる。この成績なら増配も可能であつたが、内容の充實を計るため、配當は六分を据置いた。

【増配】来る五月末締切の上期成績は前期より更に一段と良い。前期は採算好化も期末一部しか受けなかつたが、今期はこれを全面的に受けるからである。利益金は七十萬圓以上に上る見込みだ。七十萬圓としても利益率は二割五分に達する。斯様な成績とすれば、水らく低率配當の下にあつた株主の立場も考慮せねばならず、結局今期二分増配といふことになるものと観測される。

【増資問題】當社は新潟工場に紡機三萬錠を増設することになつてゐるが、これが資金は約百五十萬圓を要する。昨下期末の手許資金は約百七十萬圓あるからこれで一應賄へるが、さうすると手許が窮屈になる。それに未拂額も極く少なく、借金も現在社債が四百萬圓あるから、やがて増資も問題になつて来るものと思ふ。内容にはなほ改善の餘地もあるが、配當には當分不安ない。

【設立】	大正七年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績
【資本金】	公稱 五、〇〇〇
【株数】	はいろ(五〇〇) 六、一〇〇
【役員】	社長 下出 民義 取締役 田中 彌一 専務 阿部利七郎 監査 磯貝 浩 常務 上川勲次郎 下出 重喜 三郎 取締 中野四郎太 下野 三郎 下出 重喜
【株主数】	十年下 三、七二九 十年上 二、二〇〇 總數(名) 五、九二九
【大株主】	江崎 商 八、〇〇〇 松葉合名 三、〇〇〇 阿部利七郎 三、〇〇〇 小島商店 三、〇〇〇 中野 組 三、〇〇〇 下出 重喜 三、〇〇〇 仁壽生命 三、〇〇〇 上川勲次郎 三、〇〇〇 遠山 孝三 三、〇〇〇 下出 民義 一、〇〇〇
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 紡績機(錠) 三、七二九 三、七二九 三、七二九 原棉消費(噸) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【工場所在地】	名古屋市東區千種町高見 新潟市酒田山下 福島縣郡山市長者町

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、六六六 六、六六六 六、六六六
外部負債	四、八〇〇 四、八〇〇 四、八〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
固定資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 六分三厘 三月二十日調 六分四厘
【名義書換】	五、〇〇〇【新券交付】五十萬

足利紡績株式会社

(本社) 東京市日本橋區芳町二ノ二(電芳場町五二六)

【十一年下期】六萬九千圓の利益を挙げ、五分配當を据置いた。右利益の對拂込資本利益率は五分一厘にも達しないのだから、依然無理な決算といふ外ない。固定償却も依然行つてゐない。一、〇〇〇圓の固定資産(期末現在)は六十九圓五十錢の割高だ。

【十二年上期】併し業界の好轉に恵まれて他社同様、今期は前期以上の成績を挙げ得る。當社の製品は専ら内地向で、地元の内毛地方及び八王子方面に販路を持つ。綿糸出来高は四千七百圓、平均三十五番手位に當る。これから十萬圓近くの利益は出よう。昨年前橋の日本人織からステープル・ファイバーを仕入れて試紡中であつたが、最近この方の需要が増してゐるので成績は相當良い模様である。綿布と合せて三萬圓見當の利益にはなるから、今期十二萬圓以上の利益は期待出来る。すると利益率八分七厘以上となり五分配當は据置ける。

【十二年下期】現在七月九月物の先約を進めて居り、この關係で來期は更に採算好化の好影響を受けることが出来るであらう。それに目下行つてゐるハイドラフト化も來期には完成しようから、さうなれば二割見當の増産も期待せられ、それだけ増益があるわけだ。

【設立】	大正八年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績及綿織布
【資本金】	公稱 三、〇〇〇
【株数】	三、〇〇〇
【役員】	社長 萩野萬太郎 取締役 芳川 實治 常務 内田 清 監査 鈴木 敏三 取締 大橋新一郎 坂井 隆三 根津 新一郎
【株主数】	十年下 一、七二二 十年上 一、六六六 總數(名) 三、三八八
【大株主】	横山 隆 小松前之助 三、〇〇〇 田村 彦七 根津新一郎 一、〇〇〇 萩野萬太郎 一、〇〇〇 藤田 隆一 一、〇〇〇 内田 彦太郎 〇、〇〇〇 根津合名 〇、〇〇〇 新居 章三 〇、〇〇〇 萩原 ハヤ 〇、〇〇〇
【事業規模】	初木縣足利郡山邊村八幡 十年下 十年上 十年下 紡績機(錠) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 機織機(機) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 織機(機) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【工場所在地】	初木縣足利郡山邊村八幡
【資本異動】	昭和十年三月第二回五圓、 同年八月第三回五圓各換込徴収

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
固定資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 七分八厘 三月二十日調 七分八厘
【名義書換】	十、〇〇〇【新券交付】三十萬

旭紡織株式會社

(本社) 東京市日本橋區大傳馬町二丁目一傳馬ビル(電波浪電三三)

【拂込徴収】四月一日一株につき十圓、總額百二十萬圓を徴收して仙臺工場の擴張に充てる。擴張規模は二萬餘鎰で、敷地は以前から買つてあるから、工場の建増しと機械の据付けを行へば良いわけである。年内には工事を完成する豫定で、これが出来れば當社は九萬鎰の設備を擁することになるわけだ。

【十一年下期】利益は十五萬三千圓で、前期より一萬四千圓を増し、五分配當を据置いた。右増益は借金整理に負ふ所が大きい。即ち、當社は昨十一月六月末、勸銀から五分五厘借入金二百四十五萬圓の融通を受けることに成功し、七分利の社債二百三十五萬圓を返済した。それによる利拂の軽減は半期一萬五千圓位になるから、當社にとつて見れば相當の負擔軽減である。

【十二年上期】今期は製品高に恵まれて前期より更に好成績が期待される。綿糸出来高は一萬一千捆見當、平均三十二番手に當る。相當り利益は金利を差引いて二十圓位だから、全體で二十萬圓の利益は出る。外に綿布が五百萬方碼以上あるが、この方の利益は二萬圓位であらう。合計上期利益は二十二萬圓となる。前期より六萬八千圓の増益で、對拂込資本利益率一割二分九厘に當り、現行配當は据置ける。

【設立】	大正八年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株数】	(一五〇)
【重役】	取締役 後藤友五郎 常務 市川 一、監査 林 哲郎 取締役 奥村 辰三、太田 茂雄
【株主数】	十一年上 一、九〇七 十一年下 一、九〇七
【大株主】	渡邊 周 六、六六六 林 哲郎 三、〇〇〇 奥村辰三 一、〇〇〇 渡邊氏一 一、〇〇〇 重松宜彦 一、〇〇〇 米原 完 一、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 仙臺市長町 十一年上 六九、三三三 十一年下 六九、三三三
【事業成績】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【原簿消費】	十一年上 六、六六六 十一年下 六、六六六
【資本変動】	昭和十年四月第三回拂込三圓徴収

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
社債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支拂手形	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支積定】	十一年上 六、六六六 十一年下 六、六六六
【業績】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【利益】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新六六六 利七一分五厘
【新券文附】	三十條

内外綿株式會社

(本社) 大阪市北區堂島北町四一(電北 100-101)

【好調持續】支那綿業界の好轉と共に昨年来利益は急増し、計上利益は昨上期三百三十萬圓、下期三百二十萬圓にして、利益率はそれより二割七分一厘、二割六分四厘であつた。配當は一割二分据置きだから決算にも十二分の餘裕がある。更に本年上期は採算が一段と好化してゐるため前期より可なり増益を示す見込みである。昨年末の上海紡績罷業も大した影響はなかつた。

【記念配當】右の如き成績なので増配力は十分あるが、現に一割二分の配當を行つてゐることであり、當局者も自重し増配は見合はせるだらう。然し既報の如く當社は本年創立五十周年に當るのて記念配當の實現性は濃厚だ。即ち基本配當は据置きとしても、今期或は來期に記念特配をつけることは、確定的と思はれる。その率は豫断し難いが、三、五分といふ所ではないか。

【増設】最近我が紡績業の北支進出が旺盛なる際にも拘らず當社は自重的態度をとつてゐるが、最近計畫を進めてゐる模様だ。詳細にはまだ判らないが、然し擴張するとしても、豊富な手許資金を擁してゐる當社のことゝて、拂込徴収の如きは疑問と思ふ。

【内容優秀】内容は極めて良好である。當社の實質を以つてすれば今の所前途も安心して可なりだ。

【設立】	明治二十年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、綿織布加工
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 一五〇,〇〇〇
【株数】	新(一〇〇) 三〇〇,〇〇〇 舊(一〇〇) 三〇〇,〇〇〇
【重役】	事務 佐々木國藏 常務 岡田源太郎、取締役 大谷 登 山口幸三郎、監査 牛田虎之助 取締役 阿部彦太郎、中野嘉三郎 天木繁二郎、川部利兵衛 大西 喜一、十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【株主数】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【大株主】	中野台資興、川部利兵衛、三三三 阿部彦太郎、川部 兼三、三三三 大庄商店、天木繁二郎、三三三
【事業規模】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【事業成績】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【原簿消費】	十一年上 六、六六六 十一年下 六、六六六
【加工月産】	十一年上 七、七七七 十一年下 七、七七七
【事業成績】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【平均番手】	三、三三三
【綿布生産】	三、三三三
【加工品】	三、三三三

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支積定】	十一年上 六、六六六 十一年下 六、六六六
【業績】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【利益】	十一年上 二、三三三 十一年下 二、三三三
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新六六六 利七一分五厘
【新券文附】	二十條

同興紡織株式會社

(本社) 支那上海揚州浦路第一〇八六
(出張所) 大阪市北區堂島濱通二ノ六(電北三〇七)

【好調】 本社の今期締切りは来る四月末である。利益は前期の八十四萬圓に比し可なり増加する見込みだ。前期は、支那綿業界好轉による採算好化を極く一部しか受けなかつたが、今期はそれを全面的に受けると共に、更に新設の青島工場が愈々全運轉期に入つて来たからだ。利益金は總額に百萬圓以上にする模様である。百萬圓としても利益率は一割九分に達する。配當は前期に一分増配の八分配當としたが、今期は一段と餘裕を以つてこれを繼續することが出来る。

【増設】 當社の工場は従來上海のみにあつたが、昨年北支に進出し青島に新工場を建設した。前記の青島工場がそれである。増設はこの青島工場を更に擴張するのであり、その規模は紡機五萬五千錠、捻絲機二萬錠、織機八百五十臺である。資金は約四百五十萬圓乃至五百萬圓の見積りだ。この資金は社内でも一部賄へるが、大體借金を以つて充てる方針である。

【拂込徴収】 然しこの借金は、擴張が完成し、そこから利益がある様になれば、やがて拂込に振替へられる筈である。擴張は大體今年中に完成の豫定なので、明十三年になればやがて拂込が問題となつて来るだらう。

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	綿紡績、綿織布
【資本金】	公稱 一五〇,〇〇〇 拂込 一〇〇,〇〇〇
【株主数】	(株主) 三六八
【重役】	社長 飯尾 一二 取締役 島村智加造 副社長 立川 三三 監査 坂田 源太 取締役 谷口豊三郎 平井 晴雄 取締役 秋田 久
【大株主】	十年下 十年上 十年下 十年上 谷口豊三郎 七五〇 山本 源吉 六四〇 東洋紡績 四〇〇 竹中 源助 四〇〇 立川 三三 谷口 敏夫 三三〇 飯尾 一二 中村 合名 三三〇 日本生命 三三〇 秋山 大輔 三三〇
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 十年上 上海文登路工場 一〇〇,〇〇〇 英 六六,〇〇〇 上海揚州浦路工場 一〇〇,〇〇〇 日 三三,〇〇〇 青島工場(建設中) 一〇〇,〇〇〇 日 三三,〇〇〇
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 平均番手 三六 三五 三五 三五 綿布生産(千疋) 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇 八二,〇〇〇

【資産負債】	十月 十一月 十一月
株主資本	一四,〇〇〇 一四,〇〇〇 一四,〇〇〇
外部負債	三,六一 三,六一 三,六一
使用總資本	一〇,六八九 一〇,六八九 一〇,六八九
流動資産	七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇
固定資産	三,六八九 三,六八九 三,六八九
現金預金	六,六八九 六,六八九 六,六八九
【收支動向】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
支出	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下 十年上
利益	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	二十 二十 二十

朝鮮紡織株式會社

(本社) 朝鮮釜山府凡一町七〇〇(電釜山四〇五)
(出張所) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内 四六)

【前期虧損】 四十二萬九千圓の利益で一割配當を据置いた。對拂込資本利益率は一割七分だから、二、三期前からみると可成り窮屈な決算となつた。が今年上期は業績好轉を期待される。

【十二年上期】 綿絲布出来高は大體前期並みだ。人絹布は稍増し、前期の八萬反に對し現在半期十萬反位の生産高になつた。そしてこれ等の採算が良好してゐるので、繰繰利益、投資益を加へれば百萬圓以上の利益が出る。支拂利息、税金等を差引いて八、九十萬圓見當の利益は出よう。拂込資本五百萬圓に對し三割以上の利益率で一割配當には再び餘裕が出る。そしてこれを機會に懸案の増資が近く實現するのではないかと思ふ。

【増資實現か】 當社は子會社榮口紡績擴張のために増資が必然だとして(當社株金は既に全額拂込済だ)可成り以前から問題視されて来たのであるが、愈々その時期は到来した様である。一と頃低下した業績がかく立直つて来たし、榮口紡は紡機二萬錠、織機八百臺の小會社に過ぎないが、その成績も最近非常に良くなつて来たからである。これは一般に業界が好轉してゐる上に滿洲國の手厚い保護があるからである。そして右増設については政府は既に認可を下した。

【設立】	大正六年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡、綿織布加工、人絹織物
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 拂込済 一〇〇,〇〇〇
【株主数】	(株主) 一〇〇
【重役】	社長 原 安三郎 取締役 佐藤 謙吉 取締役 小室 利吉 取締役 中村 謙吉 取締役 松野 鶴平 取締役 松方 正則 取締役 韓生 治郎 取締役 野口 三郎 取締役 時 昇平 取締役 韓 相
【大株主】	十年下 十年上 十年下 十年上 中外産業 三〇〇 再製糖 六〇〇 三菱信託 三〇〇 昌榮合資 三〇〇 山本武太郎 三〇〇 昌榮合資 三〇〇 横山 興市 二〇〇 昌榮合資 三〇〇 太田 輝雄 一〇〇 山叶商會 三〇〇
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 十年上 精紡機 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 織機 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 捻絲機 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 人絹織機 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 工場所在地 釜山
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 綿絲生産(噸) 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇 綿布生産(千疋) 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 營業益(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 投資會社 營口紡績株式會社

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	九,〇〇〇 九,〇〇〇 九,〇〇〇
外部負債	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
使用總資本	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
流動資産	七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇
固定資産	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
現金預金	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
支出	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下 十年上
利益	一〇〇 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【名義書換】	十 十 十

人絹事業

【市況好轉す】人絹界は昨年十一月頃より著しく好轉した。最近の相場は一時の高値より可なり反落してゐるが、然し大體七十七、八圓弱みに保合つてゐる。昨年秋頃までの六十圓前後に較べると尙ほ相當の高値だ。この好轉の第一の原因は需給の改善である。昨年中の需給をみると十二月末の在荷は九萬九千兩で年初の在荷に比し約七萬兩を減少した。今年上半年の豫想も大體不安ない。来る四―六月の操短率は三割五分据置きに決定したので、上半期の月平均供給量は概算二十六萬五千乃至二十七萬兩と豫想される。これに對し需要は、輸出が雜品を含めて月平均十三萬四千兩、内地消費は十三萬兩、合計二十六萬四千兩と思ふ。従つて上半期の需給は大體バランスするものと考へてよい。人絹相場も自然下値は乏しいだらう。

【上期成績豫想】各社の上期利益は何れも前期より更に増加する筋合にある。各社共に大體平均三、四ヶ月の先物を賣つてゐるから、今期は高値約定が少く、そう儲つて

ゐないが、尙ほ且つ前期に比し一割乃至一割五分程度の増益が期待される。中には強氣をした倉絹、太陽、福島等の如き三割から五割見當の増益となる會社もある。そこで各社の配當だが、今期に増配期待の會社は東京、昭和錦華等で一流會社には先づない。又初配當期待の會社は太陽、岸和田、明正等で、多くは一割、少なくとも七、八分の配當が期待される。従つて上期に増配乃至初配當が期待される會社は何れも二流以下の比較的新しい會社である。

【期待される下期】然し下期になると各社の利益は上期以上に増加する。下期の製品は相場が騰つてから約定を進めてゐるからだ。それ故配當についても下期には一流會社にも増配期待のものがあつた。倉絹、日本レイヨン、第二帝人等がそれだ。日レは上期に拂込を徴收して下期に増配と云ふ順序になるだらう。二流以下の新設會社の中にも下期増配期待のものがあつた。それは上期に初配當を行つたものと、一割以下の低配當をつけてゐるものである。兎に角人絹會社は今、來期は頗る恵まれてゐる。

帝國人造絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五(江商ビル内) (電北漢道三三)
(支社) 東京市日本橋區室町四ノ五近三ビル内(電日本橋二八)

【人體進出】當社の現在人體能力は日産四・五疋である。之は人絹の休養分を振向けたもので、人體専門の設備と違つて能率は大して良くない。そこで當局者は將來専門工場を建設しようとする準備中である。まだ具體的に決定した譯ではないが、大體日産三十疋位の規模とするものゝ如くだ。すると建設費を適當に三十萬圓とみて約九百萬圓の資金が要る。

【増資・増配説】右人體工場建設が具體化すれば恐らく増資するのではないかと一部に期待してゐる向もある。が、當社は現在約一千萬圓の資金を持つてゐるし、今後も半期百萬圓以上の保留益がある見込みだから、人體工場は大體これ等の金で建てられる。自然増資期待は薄弱となつて來る譯だ。次に増配であるが、之も既に一割五分配當をつけてゐる當社のことだから、此の上の増配は一寸やらぬだらう。結局問題になりそうもない。

【業績良好】かく増資、増配は期待薄でも、現行一割五分配當には愈々確實性を加へて行く。今、來期の成績は相當向上する筋合になるからだ。恐らく今期は約四割、來期五割の利益率となるだらう。斯うに前途好調が期待されるのだから、株價は相當低利廻りに買はれても不思議はない。

【設立】	大正七年六月	【資本金】	10,000,000
【決算期】	五月、十一月	【株主数】	10,000
【事業】	ウイスコース人絹製造販賣	【重役】	社長 久村 清太 取締役 東川 善房 常務 水田 興 取締役 間室 善人 常務 泰 逸三 監査 宇田 成和 取締役 岡崎 旭 吉岡 豊
【株主】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 10,000 10,000 10,000	【大株主】	臺灣銀行 2,000,000 大株代 行 1,000,000 野村合名 1,000,000 帝國生命 1,000,000 野村B.B. 1,000,000 東株代 行 1,000,000 第百銀行 1,000,000 日本生命 1,000,000 松尾善太郎 900,000 田村駒太郎 800,000
【事業規模】	工場所在地 廣島、岩國、三原 生産設備 人絹紡績機..... 5,000機 ステイプル・ファイバー (日産能力)..... 5,000	【事業成績】	十年下 十年上 十年下 生産高(圓) 1,000,000 1,500,000 2,000,000 【投資會社】 第二帝國人絹 【資本異動】 九年十一月二日五拂込徴收
【負債】	株主資本 10,000,000 外部負債 10,000,000 社債 10,000,000 使用總資本 30,000,000 固定資産 10,000,000 流動資産 20,000,000 現金預金 10,000,000	【支支】	十年下 十年上 十年下 支入 10,000,000 10,000,000 10,000,000 支出 10,000,000 10,000,000 10,000,000 消却率 100% 100% 100%
【株價】	高値 安値 高値 安値 十一年 1,000 1,000 1,000 1,000 十一年上 1,000 1,000 1,000 1,000 十一年下 1,000 1,000 1,000 1,000 十二年 1,000 1,000 1,000 1,000 十二年上 1,000 1,000 1,000 1,000 十二年下 1,000 1,000 1,000 1,000	【豫想配當】	十二年五月期 一割五分 【利息】 三月二十日開 四分八厘 時價 新二天〇 利息 三分 【名義書換】 十錢 【新券文附】 三十錢

倉敷絹織株式会社

(本社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四
(営業所) 大阪市東區今橋三番街三番ビル (電北濱 K101)

【業績向上】今、來期の成績には著しい向上が期待される。人絹相場の昂騰と増産とに恵まれるからである。當社の増設は昨年十一月に全部完成し、今年上期は九々その好影響を受ける。その上賣値の方も、當社は昨年十月頃より強氣で押し通して来た爲め、各社より平均兩當四、五圓方高く賣れてゐる筈だ。生産高を十五萬兩と押へれば、兩當り利益を三十圓とみて四百五十萬圓の利益だ。拂込資本三千萬圓に對し三割の利益率となる。

【配當問題】今年上期の成績が右の如く好調を期待されるのだから、増配が問題となるのも當然であらう。果して當局者は今期配當をどうするか。新經營主層部の考へでは、もう一期一割配當で辛棒して、若し今後も續いて好成績が收められるようなら、その時に増配を具體化させてもよい、と云ふ社のやうだ。

【下期増配】そこで下期の成績であるが、現在迄の賣約狀況をみると下期の平均賣値は八十二、三圓となる見込みだ。原價を前期より二圓高く押へても兩三十五圓の利益となる。生産高を上期と同様と押へて全體では五百三十萬圓の利益となる。利益率は三割五分だから、二分位の増配は殆んど問題なく出来る成績である。下期は悉らく一割二分配當となるだらう。

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹製造
【資本金】	資本金 3,000,000 公積金 500,000 繰込 500,000 新(三) 500,000 新(五) 500,000
【株数】	第二新(三) 500,000 新(五) 500,000
【役員】	社長 大原三郎 取締役 三村 起一 常務 高橋 隆吉 監査 長屋 五一 取締役 原 澄治 聖堂 大原 一 福島 郁三 川口 儀一郎 吉井 伸助 中村 純一郎 梅原 得一 土村 一郎
【株主数】	十年下 七、七〇〇 十年上 七、七〇〇 總数(名) 一五、四〇〇
【大株主】	倉敷紡績(株) 〇、〇〇〇 大原三郎(株) 〇、〇〇〇 住友合資(株) 〇、〇〇〇 中國銀行(株) 〇、〇〇〇 住友信託(株) 〇、〇〇〇 大株代(株) 〇、〇〇〇 久光 傳一(株) 〇、〇〇〇 住友化学(株) 〇、〇〇〇 第一鐵兵(株) 〇、〇〇〇 原 澄治(株) 〇、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 倉敷市、新居濱、西條 生産設備 人絹紡績機……… 5,000錠 スライプル・ファイバー……… 1,000錠 (生産能力) 十年下 十年上 十年下 人絹(一) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【資本異動】 十年十一月中國レリオンを合併し二千萬圓増資

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	6,000,000 6,000,000 6,000,000
外部負債	6,000,000 6,000,000 6,000,000
使用總資本	12,000,000 12,000,000 12,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	11,000,000 11,000,000 11,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新(三) 七、四分七厘
時價	新(五) 六、四分二厘
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新(三) 七、四分七厘
時價	新(五) 六、四分二厘

東洋レリオン株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町三井物産内(電日本橋二五三)
(事務所) 滋賀縣大津市石山北大路町(電大津一五〇一五)
(出張所) 大阪市北區中之島三(三井物産内)

【拂込期待】日産三十題の人絹工場を建設することゝなつた。此の資金は大體九百萬圓と豫定してゐる。他に子會社東洋絹織への投資もある。然し之等に對する資金は當分借入金で賄つてをき、収益が見られるやうになつてから拂込と振替へる方針だと云ふ。従て當社の拂込が具體化するのには明年に入つてからと思はれるが、その期待は漸次濃厚になりつゝあることは否定されない。

【増資問題】明年に入つて人絹工場の成績がよく、前途の見透しがハッキリつくやうになれば、當社は更に増設に取りかゝると云つてゐる。さうすると現在の未拂込金一千萬圓だけでは無論足りないから、總て増資と云ふ段取りとなるだらう。

【業績好調】今期は約三百萬圓、來期は約四百萬圓近い利益が豫想される。拂込資本に對して今期三割、來期四割の利益率となるから、一割二分配當は愈々安固となる見込みである。尙ほ一部では當社の來期増配を期待する向もあるが、當局者は増配を考慮してゐないやうだ。殊に明年には拂込徴收の問題があるのだから、下期に如何に好成績が收められても、増配はしないとみるのが妥當のやうに思ふ。勿論増配するとすれば二分位は餘裕を持つて出来る成績であること云ふ迄もない。

【設立】	大正十五年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹、高級マルチ人絹
【資本金】	資本金 3,000,000 公積金 500,000 繰込 500,000 新(三) 500,000 新(五) 500,000
【株数】	第二新(三) 500,000 新(五) 500,000
【役員】	社長 安川雄之助 取締役 佐木 精 常務 井上 治一 取締役 石田 聰夫 若林 三郎 監査 岡田 省風 平田 篤太郎 林 義清 總数(名) 一五、四〇〇
【株主数】	十年下 七、七〇〇 十年上 七、七〇〇 總数(名) 一五、四〇〇
【大株主】	三井物産(株) 〇、〇〇〇 東株代(株) 〇、〇〇〇 帝國生命(株) 〇、〇〇〇 山一證券(株) 〇、〇〇〇 三井生命(株) 〇、〇〇〇 第一生命(株) 〇、〇〇〇 愛國生命(株) 〇、〇〇〇 仁壽生命(株) 〇、〇〇〇 遠山生命(株) 〇、〇〇〇 東都商事(株) 〇、〇〇〇
【事業規模】	工場 石山工場(大津市石山北大路町) 生産能力(日産) 九、〇〇〇 人絹 スライプル・ファイバー……… 1,000錠 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 生産高(一) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 【投資會社】 レリオン曹道、東洋絹織 【資本異動】 十年三月一、二圓五拂込徴收

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	6,000,000 6,000,000 6,000,000
外部負債	6,000,000 6,000,000 6,000,000
使用總資本	12,000,000 12,000,000 12,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	11,000,000 11,000,000 11,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新(三) 七、四分七厘
時價	新(五) 六、四分二厘
【名義書換】	十一年 五十二年 十一年
時價	新(三) 七、四分七厘
時價	新(五) 六、四分二厘

日本レイヨン株式会社

(本社) 京都府久世郡宇治町(電字治二〇)
(営業所) 大阪市東區北久太郎町三ノ三八(電話場 三三三三)

【拂込徴収】人機工場建設資金調達の目的から、来る四、五月頃に一株十二圓五十銭、總額三百七十五萬圓程度の拂込徴収が期待される。

【業績好調】昨年下期は絲價昂騰に恵まれ、成績は稍々好轉した。今來期は他の同業會社と同様に、更に好轉する筋合にある。尤も今期は先賣りしてゐる關係で、絲價の昂騰をそのまま受けてゐないが、それでも今期の生産高は約十五萬函の見込みであるから、面當り利益を前期より四圓増すものとみれば二十三圓で、總額では約四百萬圓の利益となる。拂込資本に對する利益率は、上期末に三百七十五萬圓の未拂株金を徴収して尙ほ約四割となる。一割配當は問題なく据置ける。

【増配問題】右のやうに上期に拂込を徴収しても利益率は依然四割となるので、一部では上期に増配を期待してゐる模様だ。然し當局者は上期の増配は見合せ、その代り拂込徴収を執行する方針だと云つてゐる。そして下期の成績を見定めて、一、二分の増配をやることになるらしい。しかし下期の成績は上期に輪をかけてよくなる筋合だから、恐らく最少二分位の増配は實現するものと思はれる。

旭ベンベルグ絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區宗室町一(電土佐堀 四三三三)

【バルブ自給】大分製紙が兼てよりポロ屑を原料として人絹用バルブの製造を研究中であつたが、此の程漸く完成した。そこで當社は同社の事業を買収してバルブ自給に進む計畫で、目下着々その準備を進めつゝある。雖て具體化すものと思ふ。バルブ自給が假に一部でも實現すると、茲に我が國に於いて初めての人絹の一貫作業が行はれることになる譯だ。

【今期成績】今期はまだ絲價昂騰の好化を全面的に受けてゐないが、それでも前期より相當よくなる見込みだ。大體利益は三百八十七萬圓位と豫想される。利益率は二割一分弱に當る。一割配當には餘裕を増すものと期待される。

【前途見透】來期は各社と同様に當社も相當顯著な増益が期待される。レイヨン、ベンベルグ合せて六百萬圓餘りの利益とならう。利益率は三割餘に上るから、多少の増配が可能だ。然し恐らく増配しないだらう。従來のやり方からみてそう思はれる。が、それだけ内部への蓄積は豊富となり、前途の發展資金は潤澤となる譯である。尙ほ來期になるとバルブ、藥品等の値上りで原價高となる懸念があるけれども、周知の如く當社は藥品自給を行つてゐるから、之を自給をしてゐない他の會社程心配は要らない。

【設立】	大正十五年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹製造販賣
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 一八七,〇〇〇
【株数】	新(五〇) 二〇〇,〇〇〇 舊(一三三) 一〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 菊地 恭三 常務 宮野原 一郎 監査 伊藤 萬助 取締役 藤本元之助 岩田宗次郎 小寺 源春 今村 奇男 森田 丁也 岡部 重三 田代 正義
【大株主】	仁壽生命三、〇〇〇 大日本紡績元、〇〇〇 菊地 文吾五、〇〇〇 大株代三、〇〇〇 伊藤 萬助三、〇〇〇 上山勘太郎九、〇〇〇 共同信託八、〇〇〇 龜岡徳太郎七、〇〇〇
【工場並生産能力】	宇治工場 日産 三〇〇 岡崎第一工場 一五〇 岡崎第二工場 一五〇 宇治工場 日産 三〇〇 スタイプルファイバー 二〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産高 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 資本異動 十一年四月三〇,〇〇〇千圓を増資、新株第一回拂込一〇〇,〇〇〇千圓を徴収

【資産負債】	十一年 五十一 十一年
株主資本	九、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	八、〇〇〇 七、〇〇〇 六、〇〇〇
社債	七、〇〇〇 六、〇〇〇 五、〇〇〇
使用總資本	一七、〇〇〇 一三、〇〇〇 一三、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	四、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支出	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
固定消却	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
消却年率	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
【業績】	十年下 十一年上 十一年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【理想配當】	十一年五月期 一割
【利】	三月二十日調 四分八厘
時價	新五八 利四分八厘
【名義書換】	十 新券交付 五十銭

【設立】	大正十一年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	ワイヤロープ製造販賣
【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株数】	新(五〇) 三〇〇,〇〇〇 舊(一三三) 一〇〇,〇〇〇
【重役】	(社長) 野口 謙一 (常務) 堀 朋近 (取締役) 市川 誠大 桐島 俊一 櫻井 直三 村上 高五 一 柳屋 佐祐 一 ヘルナルド モリア、クルト、フロウイン(監査) 堀啓 大郎、萩生 傳、金田 榮太郎、木島 鐵三郎 コントー ト、ヘルマン
【大株主】	日本窒素一七、七五〇 野口謙一四、〇〇〇 アルゲメーネ、クンズ シーデ、ウニエ 會社三、〇〇〇、アンシエタッド、レイ ヨン、コホルエシヨーン、〇、〇〇〇、ゼ、 ビー、ベルハンダー、〇、〇〇〇、ゼ、
【生産能力】	レイヨン(日産) 一〇〇 ベンベルグ(日産) 一〇〇 無水アンモニア(年産) 一、〇〇〇 苛性苛性(日産) 一〇〇 合成苛性(日産) 一〇〇 生産高(十年下) 一〇、〇〇〇 ベンベルグ(十年上) 一〇、〇〇〇 レイヨン(十年下) 一〇、〇〇〇 【投資會社】 旭染工、旭相織 【資本異動】 十年九月一二回五拂込徴収

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
外部負債	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
社債	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
使用總資本	六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇 六〇〇,〇〇〇
流動資産	三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
収入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
固定消却	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
消却年率	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【業績】	十年上 十一年上 十一年下
利益	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【理想配當】	十二年四月期 一割
【利】	三月二十日調 四分三厘
時價	新五七五 利四分三厘
【名義書換】	十 新券交付 五十銭

東京人造絹絲株式會社

(本社) 東京市日本橋區大馬路町二ノ一傳馬ビル内(電話花 一三〇)

【二倍半増資進行】人絹界の好調裡に懸案の増資は漸行された。かくて當社は資本金六百萬圓から一舉に千五百萬圓の會社となつた。増資新株に對し去る三月一日一株に付十二圓五十錢、總額二百二十五萬圓の第一回拂込徴收を行つた。この徴收資金と昨十一月十一月新規發行社債のうち二百萬圓、合計四百二十五萬圓は沼津人絹工場新設、吉原人絹工場擴張費の一部に充てられる。

【増設規模】新設される沼津人絹工場の規模は日産二十五題、この建設費六百萬圓、吉原人絹工場の擴張分は日産十題で、これには四百萬圓を要する。即ち總建設費一千萬圓見當を要するわけで、前記資金では尙ほ五百七十五萬圓不足だが、この分は増設の一分が働き出す今秋更に拂込を徴收すると共に借入金を以つて賄ふ方針だ。

【重役陣補充】大川鐵雄氏、伊藤竹之助氏、小西嘉兵衛氏の三有力者が新重役に就任。四月一日の増資報告總會で正式決定を見る。

【今來期】上期に約百萬圓の利益が豫想される。平均拂込資本七百八十七萬五千圓に對し二割五分の利益率に當り、資本負擔加重の痛痒は感ぜられず、七分配當は樂に据置ける。又、十一月十二月物の先約を進めてゐる現状で、來期は更に増益が期待される。

三重人造絹絲株式會社

(本社) 三重縣安濃郡安東村大字觀音寺

【經營陣強化】當社は從來消極的小規模經營に甘んじてゐたが、昭和九年に名古屋の豊田式織機が當社の經營に乗り込み、現在では全部豊田系の人々で占め、株式も四萬株の内八割は豊田係重役で持つてゐる。斯くて當社は經營陣を強化し、前途に期待される所が多くなつた。

【今期業績】豊田の經營に移ると同時に、豊田は自家製造機械を振付けて能率の向上と産絲の高級化に努力してゐる。最近では月産一千八、九百兩の絲を製造してゐる。産絲内容も從來の一五〇デニール一本から一二〇デニールを多少共製造出来るようになって來た。そして今期は一萬一、二萬兩の生産高と押へられる。兩當り十圓の利益とみれば十一、二萬圓の利益が出る。利益率は約三割近くになるから、配當は優先四分、普通五、六分は出來やう。

【前途の見透】各社同様に來期の業績好轉は必至である。たゞ當社は生産量が少なく、絲も一五〇デニールが全體の九割近くを占めてゐるから、業績向上の程度は比較的低い。然しそれでも二十萬圓位の利益は略々確實に收めうるものと期待される。二十萬圓の利益が擧がれば優先、普通株共に多少の増配が可能である。

【設立】	大正十五年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスクロス人絹
【資本金】	公稱 八〇〇,〇〇〇 新 一,〇〇〇,〇〇〇
【株数】	新 一〇〇,〇〇〇 舊 三〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 町田徳之助 専務 下郷 豊彦 監査 兼房重太郎 常務 渡邊 定一 小島 喜六 取締役 前川 道平 相談 市橋保治郎 鳥崎 正一 下郷 圭造 傳平
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	仁壽生命六六〇 町田徳之助五〇〇 二徳商會七〇〇 町田徳之助五〇〇 徳谷 正吉三〇〇 福井銀行二〇〇 日本共立三〇〇 染谷 徳重二〇〇
【事業規模】	工場別能力 吉原工場(静岡縣富士郡吉原) 日産能力(人絹) 一〇,〇〇〇題 沼津工場(静岡縣沼津) (計畫中) 日産能力(フアイバー) 一〇,〇〇〇題 工場敷地(フアイバー) 八,〇〇〇坪 日産能力(フアイバー) 一〇,〇〇〇題
【生産高】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【資本異動】	十一年一月一五圓拂込徴收、十一年十二月九〇〇萬圓増資、十二年三月一二月二圓拂込徴收、

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	六八八 六六六 六六六
外部負債	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
使用總資本	一〇八八 一〇六六 一〇六六
流動資産	一〇八八 一〇六六 一〇六六
固定資産	〇 〇 〇
現金預金	一〇八八 一〇六六 一〇六六
【收支動向】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
収入	一〇八八 一〇六六 一〇六六 一〇六六
支出	一〇八八 一〇六六 一〇六六 一〇六六
【業績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
利益	一〇八八 一〇六六 一〇六六 一〇六六
【理想配當】	十二年五月期 優四分 三月二十日調 普四分
【名義書換】	十 十 十 十

【設立】	大正十三年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人絹製造
【資本金】	公稱 三〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【株数】	優先新 一〇〇,〇〇〇 舊 二〇〇,〇〇〇
【重役】	社長 後松 照 取締役 青木留太郎 取締役 後松 幸三 入谷錦之助 平田 佐矩 監査 田中 林助 野崎 誠一 黒田 忠謙 益子愛太郎 渡邊久三郎
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	豊田式織機三〇〇 池田 正信二〇〇 入谷錦之助一〇〇 青木留太郎一〇〇 渡邊久三郎一〇〇 後松 幸三〇〇 黒田 忠謙 兼松 照 〇〇 田中 林助 岡 長 平 〇〇
【事業規模】	工場所在地 三重縣安濃郡安東村 生産能力(日産) 三題半
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年下 十一年上
製造益(千圓)	一三二 一六二 一三二 一六二
販賣益(千圓)	一六二 一六二 一六二 一六二
製造費(千圓)	一三二 一三二 一三二 一三二
営業費(千圓)	一三二 一三二 一三二 一三二
【資本異動】	昭和九年八月四八萬圓減資、次いで一六八萬圓を増資、第一回拂込一一二圓五徴收

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	三〇〇 三〇〇 三〇〇
外部負債	〇 〇 〇
使用總資本	三〇〇 三〇〇 三〇〇
流動資産	三〇〇 三〇〇 三〇〇
固定資産	〇 〇 〇
現金預金	三〇〇 三〇〇 三〇〇
【收支動向】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
収入	三〇〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇
支出	三〇〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇
【業績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
利益	三〇〇 三〇〇 三〇〇 三〇〇
【理想配當】	十二年五月期 優四分 三月二十日調 普四分
【名義書換】	十 十 十 十

錦華人絹株式會社

(本社) 廣島市宇品町字二番丁一〇〇
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル(電話 北濱 五七九)

【今期豫想】四月末締切の當社今期成績については、大して増益しないと云ふ者と、その反對に二分位の増配を期待してゐる向とある。今期生産高は約五萬圓と押へられる。賣値は絲價昂騰前に大分先賣してゐるので餘り高くなつてゐないが、それでも前期より一函當り二圓位は高く賣れてゐると見てよいだらう。原價は増産の關係で多少低下する筋合にあるが、手堅く前期と同様と見れば、差益は函當り二十圓となる。全體では百萬圓の利益だ。他に人繰利益を二十萬圓と押へると、百二十萬圓の總利益となり、利益率は二割七分だ。

【來期見通】來期になると更によくなる見込みだ。絲價昂騰の影響を丸々受けるからだ。記者の豫想では人繰を含めて概略百五十萬圓の利益となる。利益率は三割四分だ。

【増配期】右のやうに今、來期共に好成績が期待されるとすれば増配は當然問題となつて來よう。今期二分増配して八分とし、更に來期に二分増しの一割とするか、それとも今期は自重して來期に四分増の一割とするか。此の邊の所はハッキリせぬが、何れにしても、來期配當は一割に増加されることは殆んど間違ない云つてよからう。

昭和人絹株式會社

(本社) 東京市京橋區東町味之素ビル(電京橋 100)

【龍山人絹合併】三月末に龍山人絹を合併して公稱二千萬圓、拂込一千萬圓の會社となる。(現在公稱一千二百五十萬圓、拂込六百二十五萬圓)龍山人絹が三百五十萬圓程の金銀勘定を持つて合併されるから、差詰め今春の拂込徴収は取り止めとなつた。

【合併の目的】人絹聯合會の新錘抑制規定によつて、既設人絹會社の増設は殆ど不可能とされてゐるが、此の制限は阻進途上にある當社にとつて大きな障礙だ。龍山人絹の合併はそれに依つて新錘建設の權利を獲得するにある。

【生産増加】合併期日は三月末日だから、四月から龍山人絹の生産が増す譯だが、實際には龍山人絹はまだ工場が出来てゐない。そこで、聯合會によつて認められてゐない高萩工場八千錘の一部を振替運轉する豫定である。すると生産高は現在の日産約一萬圓から一萬五千兩見當に約五割を増すことになる。

【上期と下期】今上期は人絹六萬兩、外に人繰、藥品等があるから百五十萬圓、對拂込資本四割以上の利益となり、現行六分配當維持は勿論、二、三分の増配が期待される。下期になれば前記の人絹増産と人繰三十五兩全操業の上、人絹値上りの好影響を丸々受入れるから、資本負擔が増しても、利益率は下らぬ。

<p>【設立】昭和八年二月</p> <p>【決算期】四月、十月</p> <p>【事業】ウイスコース人絹製造</p> <p>【資本金】公稱 一〇,〇〇〇,〇〇〇 拂込 六,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【株数】(萬〇) 100,000</p> <p>【重役】 社長 加藤 正人 取締役 野村清次郎、酒井 宗吉、野村 清、野村 幸作、野村 清三郎、野村 幸作</p> <p>【株主】(名) 二〇六 一、大天 一、大天</p> <p>【大株主】 錦華紡績株式會社 野村合名 〇,〇〇〇,〇〇〇 北川同族株式會社 竹村清次郎 〇,〇〇〇,〇〇〇 千代田生命株式會社 田附政太郎 〇,〇〇〇,〇〇〇 竹村 信一 〇,〇〇〇,〇〇〇 武田銀太郎 〇,〇〇〇,〇〇〇 野村 幸作 〇,〇〇〇,〇〇〇 野村 清三郎 〇,〇〇〇,〇〇〇 野村 幸作 〇,〇〇〇,〇〇〇 野村 清三郎 〇,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【事業規模】 工場所在地 廣島市宇品町 生産設備 人絹精紡機 一、〇〇〇 錘 人絹精紡機 一、〇〇〇 錘 ステイプル・ファイバー (日産能力) 一〇〇 噸</p> <p>【生産高】十年下 十一年上 十二年下 人絹(萬) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 人絹(圓) 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【關係会社】錦華紡績の子會社 【資本異動】十一年十月二日拂込徴収</p>	<p>【資産負債】</p> <p>株主資本 六、〇〇〇,〇〇〇 外部負債 三、〇〇〇,〇〇〇 借入金 三、〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 九、〇〇〇,〇〇〇 流動資産 八、〇〇〇,〇〇〇 固定資産 一、〇〇〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【收支勘定】 十年下 十一年上 十二年下 收入 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇 支出 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 利益 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【業績】 十年上 十一年上 十二年上 下 〇・〇六 〇・〇六 〇・〇六 下 〇・〇七 〇・〇七 〇・〇七</p> <p>【株價(實價)】 九一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇</p> <p>【豫想配當】十二年五月期 八分 【利息】三月二十日調 四分八厘 【名義書換】十 額【新券交付】三十額</p>
<p>【設立】昭和九年八月</p> <p>【決算期】五月、十一月</p> <p>【事業】ウイスコース人絹、苛性曹達、硫酸、二酸化炭素</p> <p>【資本金】公稱 一〇,〇〇〇,〇〇〇 拂込 六,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【株数】(萬〇) 100,000</p> <p>【重役】 社長 高橋 保 取締役 伊藤 英夫、岩崎 清三、吉田 勇三、岩崎 清三、岩崎 清三、岩崎 清三</p> <p>【株主】(名) 一〇六 一、大天 一、大天</p> <p>【大株主】 保 〇,〇〇〇,〇〇〇 森 興 業 九,〇〇〇,〇〇〇 康 興 業 七,〇〇〇,〇〇〇 徳 本 三 興 業 七,〇〇〇,〇〇〇 山 中 一 興 業 六,〇〇〇,〇〇〇 富 西 興 業 六,〇〇〇,〇〇〇 吉 田 三 興 業 五,〇〇〇,〇〇〇 中 西 興 業 五,〇〇〇,〇〇〇 吉 田 三 興 業 四,〇〇〇,〇〇〇 竹 中 治 興 業 四,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【事業規模】 工場所在地 福島縣石城郡錦村、茨城縣松原町高萩 生産能力(日産) 〇・〇六 噸 人 絹 〇・〇六 噸 ステイプル・ファイバー 〇・〇六 噸 苛性曹達 〇・〇六 噸 硫酸 〇・〇六 噸 二酸化炭素 〇・〇六 噸 過磷酸石灰 〇・〇六 噸</p> <p>【資本異動】十年二月國光レヨン合併、十二年四月龍山人絹を合併、十二年四月増資、十二年四月龍山人絹を合併、十二年四月増資の旨</p>	<p>【資産負債】</p> <p>株主資本 六、〇〇〇,〇〇〇 外部負債 三、〇〇〇,〇〇〇 借入金 三、〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 九、〇〇〇,〇〇〇 流動資産 八、〇〇〇,〇〇〇 固定資産 一、〇〇〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【收支勘定】 十年下 十一年上 十二年下 收入 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇 支出 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 八、〇〇〇,〇〇〇 利益 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇 二、〇〇〇,〇〇〇</p> <p>【業績】 十年上 十一年上 十二年上 下 〇・〇六 〇・〇六 〇・〇六 下 〇・〇七 〇・〇七 〇・〇七</p> <p>【株價(實價)】 九一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇 十一年 一〇・〇〇</p> <p>【豫想配當】十二年四月期 八分 【利息】三月二十日調 四分八厘 【名義書換】十 額【新券交付】三十額</p>

太陽レーヨン株式会社

(本社) 大阪市東區平野町五丁目大阪瓦斯ビル(電北濱三六)

【拂込徴収】當社は三月一日一株十二圓五十錢、總額二百五十萬圓の拂込を徴収した。此の拂込金は一部を借入金返済に充當し、一部は人織増産資金に充てる方針である。

【人織増産】當社は人織を、別會社の形式で増産する筈であつたが、それを中止して自社直接に行ふことになつた。設備は目下工事中で、三月末には日産三十題の能力となる豫定。四月からは三十題のフル運轉が可能である。

【今期初配當】上期決算は五月末に締切られるが、今期は大體一割位の初配當を行ふ模様である。普通配當一本の一割配當とするか、それとも普通配當八分、特配二分と云ふ形式で一割とするかまだ判らない。が當局者は大體後者の形式をとり、そして來期に行つて特配を普通配當に直すのではないかと思はれる。何れにしても興味が多い。

【來期は好調】今期は一割の初配當可能な成績が期待されるし、來期はそれに輪をかけてよくなる見込みだ。尤もバルブの騰貴で賣値昂騰の効果を丸々受ける譯には行かぬだらうが、それでも利益率三割五分位の成績が豫想される。すると來期の増配が問題となるだらう。

【設立】昭和九年一月

【決算期】五月、十一月

【事業】ウイスクロス人絹製造並販賣

【資本金】10,000,000
株主数 10,000
株主名(一部) 田村駒治郎、取締、高田榮治郎、西岡宇兵衛、伊藤萬助、阿部市太郎、河崎助太郎、伊藤萬助、阿部市太郎、常田健次郎、田村竹治郎

【役員】社長 田村駒治郎、取締役 高田榮治郎、西岡宇兵衛、伊藤萬助、阿部市太郎、河崎助太郎、伊藤萬助、阿部市太郎、常田健次郎、田村竹治郎

【事業規模】工場所在地 岡山縣玉島町乙島、工場敷地 十萬坪、生産能力(日産) 人絹 100,000、ステイプルファイバー 50,000

【資本異動】十二年三月三圓五拂込徴収

【資産負債】十一月五十一日、十一月三十一日

株主資本 4,968,000、外部負債 1,733,000、支拂手形 1,733,000、使用總資本 6,701,000、固定資産 3,733,000、流動資産 3,000,000、現金預金 1,333,000

【收支勘定】十年下、十年上、十一年下、十一年上、十二年下、十二年上

【業績】十年下、十年上、十一年下、十一年上、十二年下、十二年上

【利息】三月二十日調、利息六分三厘

福島人絹株式会社

(本社) 山口縣佐渡郡防府町三田尻(電防府三六)
(営業所) 大阪市北區玉江町二(電土佐堀二一)

【倍額増資】當社は愈々倍額増資することとなつた。現在の資本金七百萬圓(全額拂込済)を一千万圓にするのである。これは擴張資金調達のためである。増資第一回の拂込は四分の一で、拂込期日はまだ正式発表をみないが大體四月頃となる模様だ。

【増設】擴張計画に關しては人絹日産五題、人織日産十五題の各増設を行ふこととなつた。完成は兩者共に今秋の豫定である。建設費は人絹二百萬圓、人織五百萬圓、合計七百萬圓を豫定してゐる。然しこれを賄ふためには、増資第一回拂込額百七十五萬圓であらうと五百三十萬圓ばかり足りない。此の不足分は當分借金で賄ひ、増設分が収益を擧げる様になつてから拂込と振替へる方針である。

【八分配當】當社は昨年下半年三分増の八分配當とした。成績が良好であつたからだ。今期は前期より更に成績はよくなる見込みだ。殊に當社は期近賣り政策をとつたから、平均すると各社より相當高く賣れてゐるだらう。だから四月に増資拂込資本が膨脹したからと言つて利益率は低下しない見込みだ。八分配當は持続可能である。下期になるとバルブの値上りから多少打撃を受けるであらうが、然し市況にも不安はないから、引續き相當の成績を維持出來よう。

【設立】昭和八年三月

【決算期】五月、十一月

【事業】人造絹糸、ステイプル・ファイバー

【資本金】10,000,000
株主数 10,000
株主名(一部) 八代祐太郎、取締、今橋又吉、常務、八代武夫、監査、山内實、野村徳七、河盛勲太郎、徳数(名) 十年下、十年上、十一年下、十一年上

【役員】社長 八代祐太郎、取締役 今橋又吉、常務 八代武夫、監査 山内實、野村徳七、河盛勲太郎、徳数(名) 十年下、十年上、十一年下、十一年上

【事業規模】工場所在地 山口縣防府市、生産能力(日産) 人絹 100,000、ステイプル・ファイバー 50,000

【資本異動】九年十二月第四回拂込十圓、十年五月第五回拂込七圓五徴収

【資産負債】十一月五十一日、十一月三十一日

株主資本 4,968,000、外部負債 1,733,000、支拂手形 1,733,000、使用總資本 6,701,000、固定資産 3,733,000、流動資産 3,000,000、現金預金 1,333,000

【收支勘定】十年下、十年上、十一年下、十一年上、十二年下、十二年上

【業績】十年下、十年上、十一年下、十一年上、十二年下、十二年上

【利息】三月二十日調、利息六分三厘

岸和田人絹株式会社

(本社) 大阪市東區北久太郎町三ノ三(八) 電話場 五三三―三

【**今期業績**】来る五月末締切りの今年上期成績は相當樂觀される筋合にある。生産高の増加と賣値の向上が期待されるからだ。生産高は前期の一萬七千兩に對し今期は約二萬五千兩位になるだらう。兩當り利益を十五圓とみれば三十七萬五千圓の利益となる。前期より平均賣値は二、三圓高まつてゐるようだから、兩當り利益十五圓は略々確實とみてよい。

【**初配當期待**】今期利益を右のように押へると、拂込資本に對する利益率は一割八分に當る。此の成績なら固定資産償却を考慮しても最低六分位の配當は可能と稱してよい。當社の固定資産は今期末には約五百萬圓になる。之を十五年償却とすれば半期約十六萬圓の償却金計上を要する。これを前記の利益から差引くと二十一萬圓残る。即ち純益率は約一割だ。従つて積立金、役員賞與等を考慮しても最低六分の初配當は略々確實に出来る。

【**前途の見透**】來期は絲價昂騰に惠まれ利益は更に増加する見込みだ。尤も他方には原料バルブ、藥品等の値上りで絲價昂騰の効果を丸々受ける譯には行かぬ事情もあるが、それにしても兩當り二十四圓の利益は缺けぬだらう。生産高を上期同様とみて五十萬圓の利益だ。恐らく増配が問題となるだらう。

【設立】	昭和九年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹製造並販賣
【資本金】	公稱 八、〇〇〇 拂込 四、〇〇〇
【株数】	(一〇〇) 100,000
【重役】	社長 寺田 甚吉 取締役 寺田 榮吉 専務 山田 宗三郎 監査 河野 豪雄 常務 寺田 道彦 寺田 吉之助 取締役 豊田 喜一郎 金納源十郎 寺田 元之助 小田利三郎
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 一七五 一七五 一七五
【大株主】	岸和田紡績(〇) 寺田 甚吉 二、〇〇〇 寺田 合名(八、五) 岸村 徳平 三、七〇〇 金納源十郎(三、五) 寺田 元之助 二、八〇〇 佐野 紡績(二、五) 杉田 宗助 二、〇〇〇 竹原友三郎(二、〇) 寺田 吉之助 一、〇〇〇 山田宗三郎(一、五) 寺田 榮吉 一、三〇〇
【事業規模】	工場所在地 岐阜縣大垣市郊外 生産設備 人絹紡績機……………七、七〇〇機 スライブル・ファイバー……………三〇機 (日産能力)……………三〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産高(兩) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【關係会社】	岸和田紡績の子會社
【資本異動】	十年三月第二回拂込二二圓五枚收

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	四、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	三、三三三 三、三三三 三、三三三
現金預金	八〇〇 八〇〇 八〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三
利益	〇 〇 〇
固定消却	〇 〇 〇
消却年率	〇 〇 〇
【業績】	利益 無配 無配 無配
十年上	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十年下	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十一年上	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十一年下	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
【株價】	高値 安値
十九年	一九〇 六五
二十年	二二〇 六〇
二十一年	二二〇 三五
【豫想配當】	十二年五月期 七分
【利息】	三月二十日調 利率四分七厘
【名義書換】	十 十 十 新券交付附 三十 十 十

第二帝國人絹株式会社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ二五江藤ビル内(電北濱三六―乙)

【**今期は良好**】来る四月末締切の上期成績はかなりよくなるものと期待される。生産高は格別増加せぬけれども、他方に能率の向上と賣値の昂騰が見込めるからだ。當社は昨年八月に五千錘を増設した。之が今期は丸々業績に寄與する。それに工場運轉を開始して既に一年半になるので、能率は相當向上して來てゐる。生産高は去る十二月、一月の例からみると日産約一萬一千兩だから、今期は六萬六、七千兩とならう。兩當り利益を前期より二圓増すものと押へると二十四圓見當となる。總額では百六十萬圓の利益だ。利益率は三割二分に當る。

【**増配するか**】右のような成績だから増配が問題となるのも當然である。やらうとすれば二、三分の増配は可能である。然し實際問題として今期に増配するだらうか。恐らく今期はまだ自重すると思ふ。

【**來期増配**】けれども今期に増配を見合せても、來期には三分位の増配に至るものとみられる。來期は兩當り三十圓以上の利益が期待されるから、總利益は恐らく二百萬圓を突破する。すると利益率は四割になる。従つて三分位の増配は殆んど問題なく出来る筋合だ。

【設立】	昭和九年九月
【決算期】	四月、十月
【事業】	人絹製造
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000
【株数】	(一〇〇) 100,000
【重役】	社長 秦 逸三 取締役 大橋 正五 常務 久村 清太 吉岡 正 取締役 水田 與 東川 成和 大屋 晉三 監査 宇田 義房 大屋 晉三 宇田 義房 壽人
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 三〇〇 三〇〇 三〇〇
【大株主】	帝國人絹(五、〇) 臺灣銀行(元、〇) 野瀬合名(三、〇) 日本生命(二、〇) 木村久治(一、〇) 金本光熙(一、〇) 松尾善二郎(一、〇) 日本生命(一、〇) 山丸商會(一、〇) 竹中イタ(一、〇) 富國徴兵(一、〇) 川崎信託(一、〇)
【事業規模】	工場所在地 廣島縣三原市一町 設備能力 紡績機……………六、〇〇〇機 紡績機……………六、〇〇〇機
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 生産高(兩) 一 一 一
【關係会社】	帝國人絹の子會社
【資本異動】	昭和十年十月第二回拂込三圓五枚收

【資産負債】	十一年 五十二年 十一年
株主資本	四、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
流動資産	三、三三三 三、三三三 三、三三三
現金預金	八〇〇 八〇〇 八〇〇
【收支勘定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	三三三 三三三 三三三
支出	三三三 三三三 三三三
利益	〇 〇 〇
固定消却	〇 〇 〇
消却年率	〇 〇 〇
【業績】	利益 無配 無配 無配
十年上	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十年下	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十一年上	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
十一年下	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
【株價】	高値 安値
十九年	一九〇 六五
二十年	二二〇 六〇
二十一年	二二〇 三五
【豫想配當】	十二年四月期 一割
【利息】	三月二十日調 利率二分八厘
【名義書換】	十 十 十 新券交付附 三十 十 十

日本人造羊毛株式会社

(本社) 東京市豊町区内幸町大坂ビル内(電報掛 三三三)
(事務所) 大阪市南區末吉橋通日精ビル内(電報掛 三三三)

【十一月期】去る十一月期は利益金七萬六千圓、利益率四分六厘を示したが、勿論配當は付けなかつた。去年八月に大分工場の本格的運轉を開始したばかりだから、此の程度の業績しか挙げ得なかつたのも無理はない。

【今期豫想】ところで今後であるが、當社現在の設備は人絹日産六題、ステープル・ファイバー日産三題半である。これは来る五月期には全運轉が出来ようから、人絹だけでも半期百八十萬封度の生産は出来るだらう。これ位の生産高になれば、昨今の人絹市價から見て函當り十五圓の利益は裕に納められようから、ステープル・ファイバーの分と合せて三十萬圓見當の利益は挙げ得るだらう。とすれば、利益率は二割四分弱と押へられ、一割程度の配當が出来ることになる。然し未だ収益期に入つて早々のことではあり、八分止りと押へておく方が堅實だらう。即ち固定資三百六十五萬圓に對する十年賦償却として半期十八萬圓を要するから償却後の利益金は十二萬圓、利益率九分五厘となる。先づ八分見當が良いところだらう。

【擴張】當社はステープル・ファイバーを大擴張する計畫があるが、未だ具體的には決つてゐないらしい。

【設立】昭和九年二月

【決算期】五月、十一月

【事業】高級純消人絹、空消人絹

【資本金】公稱 10,000,000
払込 10,000,000

【株主数】十年下 1,157
十年上 1,157

【大株主】
青木 一葉 三〇〇,〇〇〇
都島 茂雄 一〇〇,〇〇〇
竹岡 三三 八〇,〇〇〇
西脇 三三 八〇,〇〇〇
鬼木 房夫 四〇,〇〇〇
石川 信一 二〇,〇〇〇
山本 信一 一〇,〇〇〇

【重役】
社長 金光 庸夫
常務 青木 一葉
取締役 竹村 房吉
井上 嘉太郎
河野 吉清

【事業規模】
工場所在地 大分縣大分市大分豊河原
工場敷地 約 6,000坪
生産能力(日産) 六題

【資産負債】
株主資本 3,500,000
外部負債 3,500,000
使用總資本 7,000,000
流動資産 1,200,000
現金預金 1,200,000

【收支動向】
十年下 10,000,000
十年上 10,000,000
十一年下 10,000,000
十一年上 10,000,000

【株主】
十年下 1,157
十年上 1,157
十一年下 1,157
十一年上 1,157

【名義書換】
十 十 十
十 十 十
十 十 十

新興人絹株式会社

(本社) 大阪市東區今橋四丁目一三番信託ビル(電報掛 三三三)

【初配當】昨年下期の成績は利益金四十萬六千圓に上り、對拂込資本利益率は一割六分二厘を數へた。前期に比し利益金は二十六萬九千圓増、利益率は一割七厘の向上である。そこで六分の初配當をつけた。

【拂込期待】當社は今年中完成豫定の人絹日産二十題の工場擴張計畫を持ち、その一部は既に工事に取つかつてゐる。此の建設費は大體四百萬圓の豫定で、内百萬圓は既に支出済みであるが、あと尚ほ三百萬圓を必要とする。當局者の意向では、此の資金は近く拂込を取つて賄ふ方針である。

【前途の興味】人絹界の好轉に惠まれ前期よりよくなる見込みだ。尤も當社は人絹相場昂騰前に今期生産の大部分を賣約してゐるので、思つた程利益は増加しない。が、それでも約八十萬圓見當の利益が豫想されるから、前記の拂込徴収が今期に實現しても、利益率は約二割七分となる。六分配當は無論据置けるのみならず、二分位の増配さへ可能である。然し實際問題として今期は拂込徴収支けに止め、増配の方は來期にのばすことになるかも知れぬ。だが、何れにしても、當社の前途は拂込徴収、増配期待で頗る興味あることに變りはない。

【設立】昭和八年九月

【決算期】五月、十一月

【事業】ステープル・ファイバー及ファイバー・ヤーン

【資本金】公稱 10,000,000
払込 10,000,000

【株主数】十年下 1,157
十年上 1,157

【大株主】
新興産業 500,000
中尾 矩市 500,000
木村 慶太郎 500,000
石井 謙太郎 500,000
高橋 幸三 500,000

【重役】
社長 河崎 助太郎
常務 伊藤 好男
取締役 加美 好男
藤井 松四郎
津田 榮太郎

【事業規模】
工場 大竹工場 廣島(ファイバー工場)
岐阜工場 岐阜(紡績工場)
生産能力
ステープル・ファイバー 三題
ステープル・ファイバー (110番) 三題
精紡機 三台
總機 三台

【事業成績】
十年下 10,000,000
十年上 10,000,000
十一年下 10,000,000
十一年上 10,000,000

【名義書換】
十 十 十
十 十 十
十 十 十

【資産負債】
株主資本 3,500,000
外部負債 3,500,000
使用總資本 7,000,000
流動資産 1,200,000
現金預金 1,200,000

【收支動向】
十年下 10,000,000
十年上 10,000,000
十一年下 10,000,000
十一年上 10,000,000

【株主】
十年下 1,157
十年上 1,157
十一年下 1,157
十一年上 1,157

【名義書換】
十 十 十
十 十 十
十 十 十

東邦人造纖維株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内昭和ビル(電九ノ内三三三)
(事務所) 大阪市東區伏見町五丁目日本徴兵館内(電北濱三三)

【株價】當社の株價は一頃六十圓近くまで行つた。三月下旬で尙ほ五十四圓見當だ。二十五圓拂込の無配株にこんな値が出てゐるのだが、勿論これは八分乃至一割の配當を見越し、更に拂込徴收を豫想してゐるのである。然らば、果して何時さうした時期が来るだらうか。

【三月期】三月期業績は本稿執筆中には未だ確たることが判らな
いが、然し、八分乃至一割といふ様な配當は出來そうにない。前
期までの繰越損金や創立費等償却を要するものがあるし、また後
述する様な擴張計畫も進行中で、それらの金利負擔もかゝつて來
るといふ状態だ。今のところ配當は自重すべきものと思ふ。現在
建設中の擴張計畫が完成する迄は八分程度の配當は望み難い。

【擴張工事】當社は現在日産七噸半のステープル・ファイバー生
産能力を持つてゐるが、二十二噸半へと十五噸を擴張する。これ
が出来るのは今年秋ごろで、此の擴張設備が收益を生み始めるの
は明年三月期である。其他自家發電所新設、紡絲設備の増設等の
計畫がある。以上に五百萬圓見當の資金が必要だ。

【拂込徴收】そこで年内に拂込徴收の計畫がある。金額は未定だ
が、拂込を取ることだけは内定してゐる模様だ。

明正レィヨン株式會社

(本社) 大阪市東區川區三津屋町新町五〇(電北三三三)

【増産計畫】當社の現在日産能力は六噸であるが、近く二噸半を
増加して八噸半となす。更に年末迄に十二噸を増して合計二十噸
半の能力とする。

【拂込徴收】去る一月二十日に一株に付十圓、總額百萬圓の拂込
を徴收した。此の拂込金は親會社明正紡よりの借金返済に充てた。
當社は右擴張に約二百萬圓ばかりの資金を要する。之は當分借金で
賄つてをき、工場が運轉を始め、收益を擧げるようになってから
拂込を取つて振替へる方針である。一月に拂込を徴收したのも、
結局は親會社から更に借金する爲めに一先づ舊債を返済したまで
だ。現に右の建設費二百萬圓は、全部明正紡から融通されること
に了解がついてゐる。

【初配當期待】今期は人織界の立直りと増産に恵まれて約二十五
萬圓見當の利益が期待される。平均拂込資本は二百二十萬圓とな
るが、之に右利益金を對比せしめると二割三分の利益率となる。
初配當が問題となつて來る譯だが、當局者は大體今期配當を七、
八分位にする意向のようだ。やれば一割位迄出來る成績だが、前
途に増設工事を控へてゐるから、自重して七分乃至八分位に止め
ることになるだらう。

【設立】	昭和九年六月
【決算期】	三月、九月
【事業】	ステープル・ファイバー製造 並に紡織
【資本金】	公稱 100,000 拂込 100,000
【株主数】	100名
【重役】	社長 後宮信太郎 取締役 赤司初太郎 常務 大島 亮治 門野重九郎 監査 佐々木義彦 山口誠太郎 佐々木義彦 大島 亮治
【大株主】	後宮信太郎 20,000 鎌田紡織元 10,000 赤司初太郎 10,000 大西 喜一 10,000 山口誠太郎 10,000 望月重四郎 10,000 千代田生命 10,000 中辻善次郎 10,000 清文 10,000 藤川重五郎 10,000 佐々木義彦 10,000 大島 亮治 10,000
【事業規模】	工場所在地 徳島市郊外北島村 敷地面積 120千坪 生産能力 日産 120千坪 紡織機 10,000 錠 擴張工事 日産一五噸(十二年九月完成豫定) 事業成績 十年下 十一年上 十一年下 生産高(千封度) 1,000 1,200 1,500
【資本異動】	十年十月三圓三拂込徴收

【資産負債】	九十年 十一年 十一年
株主資本	200,000 200,000 200,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
借入金	100,000 100,000 100,000
使用總資本	300,000 300,000 300,000
固定資産	200,000 200,000 200,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支動定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	100,000 100,000 100,000
支出	100,000 100,000 100,000
利益	100,000 100,000 100,000
【株價】(實物)	高値 安値
九十年	100 80
十一年上	100 80
十一年下	100 80
【豫想配當】	十二年三月期 無配
【利息】	三月二十日調 利率一
【名義書換】	十 額【新券交附】五十額

【設立】	昭和九年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ステープル・ファイバー製造 並販賣
【資本金】	公稱 100,000 拂込 100,000
【株主数】	100名
【重役】	社長 堀 文平 取締役 中島朝次郎 取締役 堀谷 經一 監査 南郷 三郎 田中 徳藏 松井 萬壽 伊東 義人 坂口平兵衛
【大株主】	明正紡織元 20,000 大同生命 10,000 山本登太郎 10,000 神戶機織 10,000 堀 文平 10,000 堀谷 經一 10,000 吳錦堂合資 10,000 田中 徳藏 10,000 岩田商事 10,000 長澤芳太郎 10,000 南郷 三郎 10,000 坂田清次郎 10,000
【事業規模】	工場所在地 愛媛縣壬生川 生産能力(日産) 100千坪 ステープル・ファイバー 100千坪 第二次増設建設中(昭和十一年一月操業)
【関係會社】	明正紡織の姉妹會社
【資本異動】	昭和十二年一月三圓拂込徴收

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
借入金	100,000 100,000 100,000
使用總資本	200,000 200,000 200,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支動定】	十年下 十一年上 十一年下
收入	100,000 100,000 100,000
支出	100,000 100,000 100,000
利益	100,000 100,000 100,000
【株價】(實物)	高値 安値
十一年上	100 80
十一年下	100 80
【豫想配當】	十二年五月期 八分
【利息】	三月二十日調 利率五分五厘
【名義書換】	十 額【新券交附】五十額

郡是製絲株式會社

(本社) 京都府何部郡藤部町字青野(電話部一三)
(出張所) 京都市東區南區有樂町一ノ七(電話會館内)(電九ノ内(電話))

【採算好轉】今年度の原料繭仕入値段は春夏秋平均して釜入四十掛見當であつたから、その生絲一俵當り繭元は六百四十圓、工費百五十圓として七百九十圓の原價となる。この原價で九月までに一萬三千二、三百俵を賣つたが、この分は格上が五、六十圓しかとれなかつたので賣上平均七百八、九十圓に止まり、收支差引き利益無しであつた。ところが十月から生絲相場が反騰に轉じ、十月―二月の標準格平均は八百六十圓となつてゐる。期末三月を含めても大體この程度であらうから、格上げ七、八十圓を加算して今年度後半六ヶ月の賣上平均は九百四十圓程になり、一俵當り利益は百五十圓前後と見て間違ひあるまい。而してこの期間の販賣量は二萬六千俵見當の筈だから、三百八、九十萬圓利益だ。が、前年度からの持越古絲一萬八千八百俵に對しては一俵四、五十圓、總額八、九十萬圓の損勘定であつた。故にこれを差引いて、今年度利益は三百萬圓乃至三百一、二十萬圓と云ふ所であらう。

【配當は八分】今年度利益を右の通りとすれば前年度利益三百九十五萬圓に比し八、九十萬圓の減益となるが、それでも年度前半に於て豫想された所から見ると餘程見直した譯だ。右豫約利益の利益率は約二割だから、多分八分配當をするだらう。

【設立】	明治二十九年八月
【決算期】	三月(年一回)
【事業】	製絲、生絲輸出
【資本金】	公稱 二〇、〇〇〇 拂込 五、〇〇〇 新(五〇〇) 五、〇〇〇
【株主】	新(五〇〇) 五、〇〇〇
【役員】	會長 平野吉左衛門 取締役 奥村鹿太郎 常務 波多野林一 監査 高木重兵衛 常務 宅間藤四郎 監査 西垣藤松 取締 小野藏三 出口常次郎 取締 高木牛兵衛 森本吉左衛門
【株主数】	九年度 十三年三 總數(名) 二〇六三 九八六
【大株主】	三菱商事 六〇〇〇 三井物産 六〇〇〇 日本棉花 八〇〇〇 第一鐵兵 六〇〇〇 片山 正一 八〇〇 片岡久兵衛 六〇〇 波多野林一 一五〇〇 川村治郎 五〇〇 工場數 八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【設備能力】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【事業成績】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【生絲生産】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【生絲消費】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【生絲代價】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【生絲代價】	八年度 九年度 十年度 一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【投資會社】	郡是織造工業、郡是シルク、コーポレーション、朝日化學肥料、近江絹紡織
【資産負債】	九年度 十年度 十一年度 株主資本 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 外部負債 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇 一八、〇〇〇 借入金 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 使用總資本 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 固定資産 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 流動資産 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 現金預金 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【收支勘定】	八年度 九年度 十年度 收入 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 支出 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 利益 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【固定資産】	八年度 九年度 十年度 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【流動資産】	八年度 九年度 十年度 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【現金預金】	八年度 九年度 十年度 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【利息】	三月二十日調 六分九厘 時價 新天二 利通 七分二厘
【名義書換】	十 錢 【新券交付】五十錢

羊 毛 事 業

【製品値上り】羊毛製品も諸商品同様舊臘から本年一月にかけて奔騰し、その後整理期に入つたとはいへ、尙ほ市價水準は昨年末の高地位にある。例へばセル糸AG.60は舊臘二十八日には三圓二十七錢を唱へ、それですら十一月頃から見れば可成りの高値であつたが、本年一月の最高は三圓七十錢と更らに四十三錢高を示現した。その後二月、三月と整理期に入つて次第に下げて來たとは云へ、三月中の高値三圓二十九錢、安値三圓十四錢を示してゐる。

其處で今後も此のやうな高値が維持されるか何うかが問題になつて來る。併し、生産會社が原毛食ひ延しの爲めに可成り自由操短を行つて來た結果、製品供給は例年の如く潤澤ではないし、其の上に濠洲問題が解決しても、使用原毛は依然高いので、原價的にも羊毛製品は可成りの高値を維持せざるを得ない事情にある。

【本年度原毛】日濠協定が成立し、日本は一シーズン半に八十萬俵の濠毛を輸入することとなり、差詰め今年一

月より八月末の間に三十萬俵の輸入をなすことになつた。外に期初以來一月中旬迄に交替毛四十七萬俵を買付けてあつたから合計七十七萬俵だが、これでは到底間に合はない。併し商工省の輸入爲替取極許可基準決定に際して當業者の運動効を奏し、交替毛はなほ十萬俵の追加輸入を許可されることとなつた。従つて本年度原毛は總計八十七萬俵といふわけである。が設備は前年度より一割位増垂となつてゐるから、百五萬俵程度の原毛は必要で、尙ほ差引十八萬俵分不足する。一部は持越原毛で間に合はし、又一部は代用品人織によつて補充されるとは云へ、今秋當り相當の原毛不足が豫想される。尤も來年度になれば五十萬俵の濠毛が輸入されるわけであるから、それまで原毛食延しは止むを得まい。

【前途】本年初日本の買付開始以來、濠洲羊毛は三十九片(メリノ六四―七〇番)の高値に奔騰したが、それでも南阿羊毛に比較すれば幾分有利である。傍ら綿糸、人絹の環境高もあつて羊毛製品の高地位は當分續く見込だから、羊毛工業界は暫く大した不安はあるまい。

日本毛織株式會社

(本社) 神戸市兵庫區西出町六九一番屋敷(電兵庫 三三丁)
(支店) 東京市麹町區二ノビル内(電丸ノ内七)

【前期好調】當社は前期に利益金四百八十二萬三千圓、利益率三割五分と言ふ好成绩を挙げた。昨上期の利益率三割三分に比し二分の向上である。従來から配當平均主義を採つて來てゐる當社のことから、利益が少し増加したとして勿論増配などはしない。一割二分を依然据置いた。

【今期一段と好化】當社の今期はかなり良好な成績が期待される。前シーズンの原毛買付に成功した爲、今シーズンの原毛手當にはかなり裕りのある態度で進むことが出來たからだ。たゞ今シーズンの原毛手當は決して成功とは言へないやうである。船腹の關係にもよるけれども、陸揚げ後の原毛を急遽工場に送つてゐるあたり、昨年のそれとは大變な變りやうだ。あまりゆつくり構へ過ぎた爲めだらう。従つて今期原毛は後れて買つてゐる關係から比較的高くついてゐることは否定出來ないやうだ。然し何しろ製品市價は著騰を見てゐるし、前期の安値原毛もあることだから、他社と比較しても、そう劣るまい。計上利益は五百萬圓程度に止めるかも知れぬが、實際利益は六百萬圓を突破しやう。

【拂込後の配當】三月一日に七百五十萬圓の拂込を徴收したが、増税を考慮に入れても勿論配當維持に問題はない。

東洋毛織工業株式會社

(本社) 大阪市東區川中津(通)一ノ九(電北二七五)
(營業所) 大阪市北區曾根崎上二丁目四八共同ビル(電北101)

【新興毛織合併】當社は、もと／＼新興毛織が合同毛織工場立退きの場合、その據り處として新興毛織に依つて創立された會社だから、新興毛織が合同毛織工場から退却した今日、合併は當然と言ふべきだ。此の合併は當東洋毛織が新興毛織を吸収合併すると言ふ形で行はれる。合併比率は東洋毛織五に對し新興毛織は四だ。即ち四十圓拂込の新興毛織株一株に對し當社の五十圓全額拂込株式一株が交付される。合併實行期は、此の三月廿五日だ。

【工場増設】當社は新興合併後、新興所有の資金を以て工場の増設を行ふ。之に依つて能力は倍増する。完成は今年中と豫定されてゐる。能力が倍増すれば、合併後の新會社にふさはしい能力となる譯だ。然し擴張過度期の今來期は、今までの能力で二人分の配當所要金を稼がねばならぬのである。

【今期業績如何】新興毛織は生産設備を持たなかつたのだから、當分の間東洋毛織の能力だけで稼がねばならぬが、今期は製品値上りの恩恵を受けて五十萬圓位の利益は擧げられやう。合併後の拂込資本五百五十萬圓に對し一割八分二厘の利益率だ。

【配當】八分配當は幾分窮屈だが、新興の蓄積もあることから、八分は据置かれやう。舊新興の株主も今期から配當を受ける。

【設立】	明治二十九年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	絨、毛布、モスリン、毛絨、ネル、セル、メリヤス、人造絹絲
【資本金】	公稱 50,000,000 拂込 50,000,000
【株主数】	新(老) 30,000 新(老) 0
【重役】	會長 川西清兵衛 取締役 八馬兼介 専務 川西清司 監査 財田秀一 常務 小倉喜一 松本鐵次郎 取締役 小倉清 毛戸藤元 田村一郎 佐野彌三郎 小倉根貞松
【株主数】	十年上 七千上 七千下 總數(老) 八、六六三
【大株主】	本小會社合資 1,000,000 川西清司 1,000,000 澤田清兵衛 1,000,000 川西清兵衛 1,000,000 有馬市藏 1,000,000 川西三三 1,000,000 川西龍三 1,000,000 澤田龜之助 1,000,000
【事業規模】	十年下 1,000,000 十年上 1,000,000 毛織機 1,000,000 毛織機 1,000,000 紡毛機 1,000,000 紡毛機 1,000,000 梳毛機 1,000,000 梳毛機 1,000,000 人造絹絲(日本産) 1,000,000 人造絹絲(日本産) 1,000,000 生産高(千圓) 十年上 1,000,000 十年下 1,000,000 モスリン 1,000,000 毛織機 1,000,000 織機 1,000,000 織機 1,000,000
【投資会社】	共立モスリン、昭和毛織紡織、資本金 1,000,000
【資本異動】	十二年三月三十一日拂込後

【設立】	昭和九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	絨、毛布
【資本金】	公稱 100,000,000 拂込 100,000,000
【株主数】	新(老) 100,000 新(老) 0
【重役】	社長 河崎助太郎 取締役 藤井松四郎 取締役 岡田彦太郎 監査 廣澤耕作 伊藤竹之助 監査 石井鐵太郎 高橋幸三 平松徳三郎 實業 益藏
【株主数】	十年上 1,000,000 總數(老) 一、〇〇三
【大株主】	新興産業 1,000,000 代々木本一 1,000,000 田村商店 1,000,000 河崎助太郎 1,000,000 加集益藏 1,000,000 大正生命 1,000,000 田村助太郎 1,000,000 廣澤喜久也 1,000,000
【事業規模】	十年下 1,000,000 十年上 1,000,000 洗毛機 1,000,000 梳毛機 1,000,000 紡毛機 1,000,000 紡毛機 1,000,000 梳毛機 1,000,000 梳毛機 1,000,000 織機 1,000,000 織機 1,000,000 工場所在地 三重縣三重郡桶村本郷 毛糸生産(千圓) 十年下 1,000,000 十年上 1,000,000 販賣益(千圓) 1,000,000 1,000,000 資本異動 十二年三月新興毛織を合併、後50萬圓を減資し更に50萬圓を増資、
【資産負債】	十一月 十一月 十一月 株主資本 11,000,000 11,000,000 11,000,000 外部負債 1,000,000 1,000,000 1,000,000 支拂手形 1,000,000 1,000,000 1,000,000 使用總資本 13,000,000 13,000,000 13,000,000 固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 流動資産 3,000,000 3,000,000 3,000,000 現金預金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 【收支】 十年下 十年上 十年下 收入 10,000,000 10,000,000 10,000,000 支出 8,000,000 8,000,000 8,000,000 固定消却 1,000,000 1,000,000 1,000,000 消却年率 10% 10% 10%
【株價】	最高 100 最低 70 【配當】 11年 11% 11% 【利息】 三月二十六日 八分 【名義書換】 十 10 新券交付 三十 30

東洋モスリン株式会社

(本社) 東京市東區龜戸町七ノ五〇 (電話田 五二)
(営業所) 東京市東區龜戸町三丁目三三三 (電話田 七五五)

【注目すべき三重工場】目下進行中の三重工場工場擴張工事は七月末に完成する。尤も全能率を發揮するに至る迄には相當時日を要すべく、先づ七月末の毛糸月産二十萬封度、年末に於いて三十萬封度となる豫定だ。同工場の建設費總額は約四百萬圓だが、うち三百萬圓の支拂は自己資本で間に合はせた。不足分百萬圓と流動資本は自己資本の外、社債を増額して賄ふ方針だ。一鎌當り建設費は僅か百六、七十圓で済む。完成の暁、何程の収益率を擧げるかといふに、例へば梳毛糸2号で封度當り二圓五、六十錢の低コスト、賣値は現在三圓位で、今後大勢として騰ることはあつても、ひどく下る事はあるまいから、一封度に付四、五十錢の利益を出す事は困難ではない。月産三十萬封度は半年百八十萬封度の出來高で利息負擔を差引いても總益六十八萬圓乃至八十六萬圓が残る。現在の拂込資本に對し一割三分乃至一割七分の収益率だ。【五月期】差詰め今期は右の實力が發揮されないが、モスリン大減産、賣毛糸の増産へと經營方針の一大轉換を行つたので二百萬圓以上の利益が擧る。利益率四割以上で一分位の増配氣運濃厚。【謹防の當社株買替り】故梅浦建吉氏所有の二萬株を謹防で買替りした。兩社事業提携の前提として注目されてゐる。

【設立】	明治四十年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	モスリン、毛織、綿織、綿布
【資本金】	公稱 10,000,000 新 10,000,000
【株数】	新 200,000 舊 100,000
【役員】	社長 門野重九郎 取締役 松坂 徳重 専務 古澤 文作 監査 佐野 精一 取締役 河野 太郎 國部 道壽 太田 文雄
【株主】	十年下 十年上 十年下 總数 2,266 2,266 2,266
【大株主】	大倉 組 興 興 東電 證券 2,266 安田 銀行 500 内藤 仁 100,000 鈴木 儀八、毛 門野重九郎 6,000 石森安太郎 6,000 上西 克巳 4,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 精梳機 1,000 1,000 1,000 梳毛機 1,000 1,000 1,000 毛織機 1,000 1,000 1,000 綿織機 1,000 1,000 1,000 綿布機 1,000 1,000 1,000
【投資会社】	東洋毛糸、埼玉染織
【資産負債】	十一年 十一年 十一年 株主資本 2,266 2,266 2,266 外部負債 6,000 6,000 6,000 社債 6,000 6,000 6,000 流動負債 6,000 6,000 6,000 流動資産 6,000 6,000 6,000 固定資産 6,000 6,000 6,000 現金預金 6,000 6,000 6,000
【利息】	三月二十日調 九分
【名義書換】	十 十 十 新 新 新 利息 五分二厘

大東紡織株式會社

(本社) 東京市向島區吾妻町西三ノ一 (電話田 二八)
(営業所) 東京市日本橋區橋本町二ノ一六 (電話茅場町 二二五)

【經營方針轉換】當社は從來モスリンの製造を主としてゐたものであるが、これを大減産して賣毛糸を増加すると共に、人織織物、即ち新興モスへの進出を試みて局面打開に成功した。これととも、從來の社名「東京モスリン」では名實伴はぬ憾があるので、これを「大東紡織」と改めた。【今期稀有の成績】モスリン生産は前期の千五百圓からこの期は六百五十圓に減じ、従つて賣毛糸は前期の九十萬封度から二百十萬封度に増加した。採算的に不利なモスリンから有利な賣毛糸に轉じたわけである。又モスリン減産による織機の剩餘は人織織物に振向けた。一―三月は月産三百圓、四、五兩月は同七百圓の生産高になる。羅紗、綿糸布の出來高は前期と大差ないが採算的に有利となつた。特に綿糸の利益は大きかつた。彼此合して二百萬圓以上の總益が出た模様だ。尤も毎々云ふ様に當社は多額の債務を擁してゐるし、固定資産の償却もモット行はねばならぬから、堅實方針をとつて増配はすまい。すると三分配當を据置くとして五、六十萬圓の利益を表面に計上することゝならう。【下期】手持原毛が多いから不安はない。その値上益と採算良化で下期も相當の成績が期待される。

【設立】	明治二十九年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	モスリン、毛織、綿織、綿布
【資本金】	公稱 10,000,000 新 10,000,000
【株数】	新 200,000 舊 100,000
【役員】	社長 鶴見左吉雄 取締役 角田晴之助 常務 楠本吉次郎 監査 木村 雄次 杉本 徳三 金子 良吉 白石 徳三郎 大塚勝之丞 取締役 小松恒太郎 深井 三男
【株主】	十年下 十年上 十年下 總数 2,266 2,266 2,266
【大株主】	三井物産 8,000 精文三、三井 楠本吉次郎 6,000 西村 合名 5,000 堀越 勘治 5,000 杉村 合名 4,000 萬興 業 3,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 精梳機 1,000 1,000 1,000 梳毛機 1,000 1,000 1,000 毛織機 1,000 1,000 1,000 綿織機 1,000 1,000 1,000 綿布機 1,000 1,000 1,000
【投資会社】	東洋毛糸、埼玉染織
【資産負債】	十一年 十一年 十一年 株主資本 2,266 2,266 2,266 外部負債 6,000 6,000 6,000 社債 6,000 6,000 6,000 流動負債 6,000 6,000 6,000 流動資産 6,000 6,000 6,000 固定資産 6,000 6,000 6,000 現金預金 6,000 6,000 6,000
【利息】	三月二十日調 九分
【名義書換】	十 十 十 新 新 新 利息 五分二厘

昭和毛織紡績株式會社

(本社) 名古屋市東區新柳町六丁目三(電本局 三三三)

【前期業績】昨年度下期の當社の利益金は九十七萬九千圓に上り、利益率は二割四分五厘であつた。上期に比較して利益金は八千圓、利益率は二厘の向上である。然し實際利益はもつと多かつたものと想像される。と言ふのは當社の製品は毛織一本であり、而も其の毛織の採算は上期よりかなり良かった筈だ。それでみて上期と大差ない利益しか計上してゐないのだから、決算には相當の苦心が加へられてゐることが判る。少く共二十萬圓見當は手持品の評價切下げとして今期に繰越されたものと見てよい。これと言ふのも當時は尙ほ濠洲問題の見透しが困難で解決後の製品市況にも不安があり、其の準備を必要としたからだらう。

【本期利益著増】今期の利益は、製品の値上りで、著増が豫想される。前期よりの含みもさる事ながら、それを考慮に入れずとも、百三、四十萬圓の利益は期待出来そうだ。

【配當如何】斯ふ言ふ状態だから、勿論増配しやうとすれば、二、三分の増配も可能である。去る二月一日一株五圓の拂込を徴收したが、之は總額二百萬圓で、之を考慮してもまだ増配力は充分だ。然しながら親會社日毛と同様配當平均主義を採つてゐるから、俄に増配するとは思はれない。

【設立】	昭和三年六月
【決算期】	四月、十月
【事業】	毛織
【資本金】	公 債 100,000
【株 數】	株 10,000
【重 役】	社長 川西清兵衛 取締役 櫻井 端 小曾根貞松 監査 阿部 莊吉 田村市郎 三輪春吉 伊藤大郎 吉野金之助 神野金之助 富田 重助
【株主數】	十年下 十年上 十年中 十年下
【大株主】	日本毛織 100,000 川西清兵衛 10,000 日本小曾根 10,000 道山 孝三 10,000 田村市郎 10,000 西岡 謙二 10,000 大城戸傳次 10,000 澤田清兵衛 10,000 田村駒次郎 10,000 富田 重助 10,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年中 十年下
【生産高】	十年下 十年上 十年中 十年下
【事業収入】	十年下 十年上 十年中 十年下
【販賣加工費】	十年下 十年上 十年中 十年下
【關係會社】	日本毛織の子會社
【資本異動】	十年一月五日拂込徴收

【資産負債】	十年 十一年 十一年 十一年
株主資本	八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇
外部負債	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
支拂手形	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
使用總資本	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	九、六〇〇 九、六〇〇 九、六〇〇 九、六〇〇
現金預金	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年中 十年下
收入	八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇
支出	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
【業 績】	十年下 十年上 十年中 十年下
利益	一、四〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇
【株 價】	十年下 十年上 十年中 十年下
高値	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇
安値	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇
【豫想配當】	十二年四月期 一割二分
【利 潤】	三月二十日 利 潤 五分一厘
【名義書換】	十 錢 【新券交付】 三十 錢

株式會社 伊丹製絨所

(本社) 兵庫縣川邊郡伊丹町伊丹古城下一(電伊丹 四)

【業績好調】當社の最近の業績は非常に順調である。昨年度上期は八十萬八千圓の利益を挙げ、利益率は三割二分三厘に上つた。續く下期も八十萬五千圓の利益で、利益率三割二分二厘と殆ど上期と同じ成績を収めてゐる。配當は依然として一割五分据置きだから、利益處分は極めて裕りのあるものとなつた。即ち昨年度下期を見るに社内保留金四十一萬圓、其の利益金に對する割合は五十一%で、一頃から見ると非常に良くなつてゐる。固定資産償却は毎期十萬圓を當て、二十ヶ年賦の償却率を示してゐる。決算には何等の無理も見られないのである。

【今期更に増益】當社は毎期正直に其の期擧がた利益を考慮面に計上するのを常とする。従つて利益の變動が他社に比較して著しくなる譯だが、今期は他社と同様に、著しく増益する。前期は利益を一杯に出してゐるから、今期の増益額は他社に比しては少く見えるかも知れないが、少く共百萬圓は突破するものと思はれる。假に百萬圓として利益率は四割となる。三、五分の特配も付け得る状態にあると言つてよい。

【増配するか】然し果してかゝる特配を行ふかどうか。當社の從來の經營方針から見れば否定は出来ぬが、多方自重しやう。

【設立】	大正十一年六月
【決算期】	四月、十月
【事業】	毛織、ランヤ
【資本金】	公 債 100,000
【株 數】	株 10,000
【重 役】	社長 谷江 長 常務 町田一男 取締役 塚本 信雄 小曾根貞松 監査 松本 義太郎 有馬 市藏 近藤 善藏
【株主數】	十年下 十年上 十年中 十年下
【大株主】	本小曾根 100,000 谷江 長 10,000 谷江 長男 70,000 澤田清兵衛 10,000 有馬 市藏 60,000 川西 清司 10,000 谷江 敏雄 50,000 谷江 清三郎 10,000 松本 義太郎 40,000 川西 龍三 10,000 谷江 達三 30,000 谷江 みよ 10,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年中 十年下
【生産高】	十年下 十年上 十年中 十年下
【事業収入】	十年下 十年上 十年中 十年下
【販賣加工費】	十年下 十年上 十年中 十年下
【關係會社】	三重製絨所、釜山製絨所

【資産負債】	十年 十一年 十一年 十一年
株主資本	八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇
外部負債	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
支拂手形	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
使用總資本	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資産	九、六〇〇 九、六〇〇 九、六〇〇 九、六〇〇
現金預金	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年中 十年下
收入	八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇 八、七〇〇
支出	一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇 一、三〇〇
【業 績】	十年下 十年上 十年中 十年下
利益	一、四〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇 一、四〇〇
【株 價】	十年下 十年上 十年中 十年下
高値	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇
安値	一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇 一、〇〇
【豫想配當】	十二年四月期 一割五分
【利 潤】	三月二十日 利 潤 五分一厘
【名義書換】	十 錢 【新券交付】 五十 錢

東洋毛絲紡績株式會社

(本社) 大阪市東區伏見町五ノ四二(電北濱三三)

【前期利益著増】當社の昨年十一月決算は著しい増益を示した。利益金は六十萬圓に上り、利益率二割丁度と言ふ好成绩であつた。上期の二割三分の利益率に比し七分の向上だ。それでみて配當は六分を据置いた。八年上期には二割の利益率で八分の配當を付けたし、九年上期には二割二分の利益率で一割配當をしてゐた。利益率の上から見れば、當然此の期に二分程度の増配は行ひ得た筈だ。にも拘らず増配を自重したのは、當時はまだ濠洲問題の見透しがかつてなかつたからだ。

【今期は更に増益】今期は原毛高ではあつたが、製品はそれ以上に騰貴した。特に當社は毛絲一本だから、採算關係は非常に有利であつた。今期は少く共八、九十萬圓の利益は計上し得るものと豫想される。勿論、今後の製品市價を一概に樂觀することも出来ないから、製品市價が急落すれば、今後には備へる爲利益の計上を手加減するかも知れない。然し今見透される限りでは、來期がそう苦しい決算になりそうもないから、少く共八、九十萬圓の利益を計上するものと見てよからう。

【二分増配】前記の如く、十一年下期に既に二分増配は可能であつた。今期は更に増益するのだから二分増配は必至。

【設立】昭和七年三月

【決算期】五月、十一月

【事業】梳毛絲

【資本金】公稱 10,000

【株數】(株) 10,000

【重役】社長 河崎助太郎 取締役 竹村清次郎

取締役 伊藤政次郎 高津忠

田村治太郎 監査 伊藤幸三

竹中源助 高橋幸三

【株主數】十一年上 十一年下

總數(名) 一、七三七 一、七三三

【大株主】田村合名 1,000 佐々木泰 1,000

新興産業 1,000 竹中商店 800

田村治太郎 600 田村治太郎 500

伊藤忠商事 500 高橋幸三 500

河崎助太郎 500 岡田彦次郎 500

【事業規模】工場所在地 三重縣四日市龍出

主要設備 三重縣四日市龍出

工場所在地 三重縣四日市龍出

月産能力 五、六〇千封度

主要設備 三連 粗紡機 五臺

梳毛機 三臺 シヤ精紡機 三臺

梳毛機 三臺 シヤ精紡機 三臺

梳毛機 三臺 シヤ精紡機 三臺

再洗毛機 四臺 熱糸機 三臺

【事業成績】十一年上 十一年下

販賣高(千圓) 五、五七〇 六、六九九

原料使用高(千圓) 四、三六七 四、五七二

【資産負債】十一年 五十一

株主資本 六、三〇〇 六、三〇〇

外部負債 一、二〇〇 一、二〇〇

支拂手形 四、一〇〇 四、一〇〇

使用總資本 七、五〇〇 七、五〇〇

固定資産 三、五〇〇 三、五〇〇

流動資産 四、〇〇〇 四、〇〇〇

現金預金 三、〇〇〇 三、〇〇〇

【收支勘定】十一年上 十一年下

收入 七、五〇〇 七、五〇〇

支出 七、五〇〇 七、五〇〇

【固定資産】十一年上 十一年下

消却年率 五、〇〇〇 五、〇〇〇

【業績】十一年上 十一年下

利益 一、二〇〇 一、二〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十一年上 一、〇〇〇 一、〇〇〇

十一年下 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【豫想配當】十二年五月份 八分

【利息】三月二十日調 六分五厘

【名義書換】新券交換 三十錢

東洋毛糸株式會社

(本社) 埼玉縣北足立郡神根村大字根岸三、一八〇

(營業所) 東京市京橋區銀座三ノ三(電京橋三三)

【拂込徴収】四月一日、一株につき七圓五十錢、總額六十萬圓を徴収。これは埼玉縣神根工場の規模が大きくなり、流動資金の必要に迫られたからだ。即ち、當社では十一年下期中にトップ製造設備一セット、前紡設備一セット、リング精紡機八百錘の増設を完成し、その建設費五十五萬圓(機械代四十萬圓、建物十五萬圓)は既に自己資本で賄つたが、更らに運轉資金をも自己資本で賄ふ方針を採り、こゝに拂込徴収となつたわけだ。いま假りにこの拂込總額六十萬圓をその儘原毛手當に投ずるとしよう。すると濠毛メリノ七〇番ならば時價俵當り三百七、八十圓だから、千六百俵程度のもがこれで手當出来るわけである。而して當社工場の原毛消費高は月に一千餘俵だから、右資金は大體原毛一ヶ月餘の所要分量に當るものだ。

【十二年上期】前期は利益金十八萬六千圓、利益率一割八分六厘で、一割配當を踏襲したが、今期は毛糸の値上りと増産で成績は良好化する。封度當り平均差益二十五錢、毛糸出來高百封度とすれば二十五萬圓の利益が出る。其他に持越品の評價益が相當あるが、これを度外視しても前期より六萬圓以上の増益だ。平均拂込資本の膨脹にも拘らず利益率は二割三分に向上する。

【設立】昭和四年一月

【決算期】五月、十一月

【事業】毛絲紡績

【資本金】公稱 5,000

【株數】(株) 5,000

【重役】社長 門野重九郎 取締役 竹内 光直

専務 古澤 丈作 監査 佐野 精一

取締役 松下 次郎 橋爪 庸藏

植木 康吉

【株主數】十一年上 十一年下

總數(名) 六、六六六 六、六六六

【大株主】東洋毛糸 九、三三三 大倉 組 八、三三三

鈴木 謙五 五、〇〇〇 松下 次郎 五、〇〇〇

山上 九、一〇〇 東海堂 一、〇〇〇

河崎 兵一 一、〇〇〇 門野重九郎 一、〇〇〇

逸見 タカ一 一、〇〇〇 千代田生命 一、〇〇〇

【事業成績】工場所在地 埼玉縣北足立郡神根村

紡績機(錘) 十一年上 十一年下

七、八〇〇 七、八〇〇

リリング 六、〇〇〇 六、〇〇〇

燃絲機 一、三三三 一、三三三

【事業成績】十一年上 十一年下

販賣高(千圓) 二、三三三 二、三三三

毛絲(千圓) 一、三三三 一、三三三

屑物(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【關係會社】東洋モスリンの子會社

【資本異動】十一年四月七圓五拂込徴収の管

【資産負債】十一年 五十一

株主資本 三、三三三 三、三三三

外部負債 一、六六六 一、六六六

支拂手形 一、〇〇〇 一、〇〇〇

使用總資本 四、三三三 四、三三三

固定資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇

流動資産 一、三三三 一、三三三

現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支勘定】十一年上 十一年下

收入 四、三三三 四、三三三

支出 四、三三三 四、三三三

【固定資産】十一年上 十一年下

消却年率 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【業績】十一年上 十一年下

利益 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

十一年上 一、〇〇〇 一、〇〇〇

十一年下 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【豫想配當】十二年五月份 一割

【利息】三月二十日調 七分二厘

【名義書換】新券交換 三十錢

錦華毛糸株式會社

(本社) 三重縣津市大字下都田七二九(電一七一七)
(營業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル内(電北港七三六)

【初配當】當社は此の三月決算で、いよ／＼待望の初配當を執行することとなつた。配當率は六分である。創立第六期目に始めて配當をつけるやうになつたのだが、業績の上から言へば、既に操業開始の十一年三月期決算から三、五分の配當はつけ得たのである。にも拘らず敢て自重したのは將來の見透しが困難であつた爲に他ならぬ。ところが濠洲問題は片ついたし、毛糸の將來もさして悲觀を要しないと見透しが立てられる上に、此の三月期はかなりの増益を見てゐるのでいよ／＼初配當を執行することになつたのである。計上利益は二十萬圓程度に止めやうが、それでも利益率は一割六分となり、六分配當は餘裕綽々。

【拂込徴收】來る六月二十六日一株十二圓五十錢、總額二百五十萬圓の拂込を徴收する。徴收金の大部分は借金返済に充てられる。日歩一錢一厘の借金だから年九萬圓見當の利拂減となる。

【能力擴張】當社の能力擴張は五月頃完成する。精紡機の据付けだけで能力は從來の倍となるのだから有利。擴張資金は三十萬圓程度で足りる。原毛は安値時に仕入れた南阿毛で手當完了。

【今後】原毛關係は他社に比し有利だし、製品は高値の先物を相當賣つてゐる。十月決算はかなり良好。配當維持に不安なし。

【設立】	昭和九年一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	毛糸、毛織物の製造販賣
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 2,000,000
【株主名】	正人 竹村 信一 宗吉 野田 七郎 監査 安本 吉次郎 川畑 恒二 中島 理一 川畑 恒二 城田 鐵吉
【大株主】	錦華紡績 1,000,000 竹村 信一 1,000,000 野田合名 1,000,000 千代田 生命 1,000,000 佐藤 治郎 1,000,000 佐藤 進 1,000,000 宮川 四郎 1,000,000 尾崎 喜兵衛 1,000,000 小室 一平 1,000,000 岩田 十三三 1,000,000 酒井 宗吉 1,000,000 大家 商事 1,000,000 西野 幸作 1,000,000 萩原 啓助 1,000,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 紡毛機(織) 10,000 10,000 10,000 精紡機(織) 10,000 10,000 10,000 精梳機(織) 10,000 10,000 10,000 工場所在地 三重縣津市大字下都田
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 毛糸生産高(千石) 10,000 10,000 10,000 毛糸生産高(千石) 10,000 10,000 10,000
【關係會社】	錦華紡績の子會社
【資本異動】	十二年六月二二圓五拂込徴收の豫定

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	2,000,000 2,000,000 2,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
借入金	3,000,000 3,000,000 3,000,000
使用總資本	5,000,000 5,000,000 5,000,000
流動資産	7,000,000 7,000,000 7,000,000
現金預金	7,000,000 7,000,000 7,000,000
【收支】	十年下 十年上 十年下
收入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【名義書換】	十 額【新券交付】三十額

滿蒙毛織株式會社

(本社) 奉天皇姑屯(電三三三)
(事務所) 東京市麹町區丸の内東洋ビル(電銀座番五)

【十月期】昨年十月期決算は利益金三十萬八千圓となり、前期に較べて三萬三千圓を増加したが、他方昨年六月増資をして拂込資本金が増してゐるため、對拂込資本利益率は一割七分三厘となつて、對前期二分の低下となつた。然し、配當は優先八分、普通五分を据置いた。利益率は右の様に低下はしたけれども、決算には未だ充分の餘裕があるからであつて、利益金の社内保留率は五割四分九厘を示してゐる。

【増資問題】前述の通り昨年六月三百萬圓を増資したが、これは東拓から借りてゐた借金を株式に振替えたに止まつた。然し、今度新たに本格的な積極的な増資をする筈である。即ち現在の資本金五百萬圓を一千萬圓に増資する計畫で、目下拓務省に認可方を申請中である。恐らく四月上旬には實現するものと見られる。其の目的は奉天及天津に分工場の建設にあり、これにそれ／＼百萬圓見當の資金を要するのだと言はれてゐるが、具體的なことは未だ當局者によつて發表されてゐない。

【増資の方法】また増資の方法、即ち増資新株を外部に出すかどうか等の點や、拂込金額等も未だ發表されないが、兎に角、當社の北支への積極的進出は注目してよいと思ふ。

【設立】	大正七年十二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	毛糸、毛布、毛糸
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 2,000,000
【株主名】	正人 竹村 信一 宗吉 野田 七郎 監査 安本 吉次郎 川畑 恒二 中島 理一 川畑 恒二 城田 鐵吉
【大株主】	東洋紡績 1,000,000 南滿洲鐵道 1,000,000 北村 芳朗 1,000,000 加藤 乙七 1,000,000 日之出 芳會 1,000,000 相馬 成則 1,000,000 森 辨治郎 1,000,000 倉坂 定藏 1,000,000
【事業規模】	十年下 十年上 十年下 工場所在地 奉天、名古屋 同時 紡毛機(織) 10,000 10,000 10,000 精紡機(織) 10,000 10,000 10,000 精梳機(織) 10,000 10,000 10,000
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 毛糸生産高(千石) 10,000 10,000 10,000 毛糸生産高(千石) 10,000 10,000 10,000
【關係會社】	滿蒙毛織百貨店
【資本異動】	十二年六月三〇萬圓増資金額 拂込徴收十年四月三〇萬圓増資の予定

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	2,000,000 2,000,000 2,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
借入金	3,000,000 3,000,000 3,000,000
使用總資本	5,000,000 5,000,000 5,000,000
流動資産	7,000,000 7,000,000 7,000,000
現金預金	7,000,000 7,000,000 7,000,000
【收支】	十年下 十年上 十年下
收入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【利益】	十年下 十年上 十年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【名義書換】	五 額【新券交付】十五額

帝國製麻株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町一ノ一 (電日本橋二四一〇)

【十二月期】去る十二月期は特望の一分増配を行ひ、八分配當とした。利益率は二割二分九厘で、前期に比し二分を向上してゐる。利益金の社内保留率も六割三分一厘といふ餘裕ある決算をしてをり、此の増配は少しも危ないばかりか、寧ろ内輪過ぎる程度のものであつたことが判る。

【今後の業績】今後の業績にも少しの不安もない。軍需關係の受注だけでも前年に比し二割程度の増加になつてゐる模様で、亞麻製品は品不足の虞れさへある位だ。それに製品市價も上つてゐるから、今年度の原料が若干騰つても、採算は良くならう。八分配當維持には問題ない。

【拂込徴收期待】今後拂込徴收が期待される。その目的は借金の返済である。當局者は、まだ其處まで考へてはゐないと言ふが、やがて其の時期が來ると記者は豫想する。

【原料提携】それに日滿亞麻の項に書いた様に、當社は日滿亞麻と提携し、また當社自體でも滿洲に原料會社を新設する筈である。更に海外進出にも考慮してゐるから、これら事業擴張と共に、新たな資金も必要になるだらう。従つて拂込徴收は、單に時期の問題だと見られる。

東京麻糸紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町一ノ二 (電日本橋天七)

【増設計畫】業界の立直り顯著で、設備に不足を來たし、來年二月迄に一萬二千錘の増設を行ふこととなつた。その結果如何では更らに三萬錘の増設を斷行する筈である。右一萬二千錘増設の擴張資金には約百萬圓を要するが、これは今後三回の拂込徴收に依つて間に合はせる方針だ。

【拂込徴收】先づ四月一日新株第二回拂込一株につき十二圓五十錢、總額四十一萬二千五百圓を徴收したが、更らに今秋第三回、來春第四回の徴收を行つて、拂込未済資本金百二十三萬餘圓を全額拂込済とする。

【五月期二分増配】今上期は十四、五萬圓の利益が豫想される。平均拂込資本は百九十萬圓となるが利益率一割五分前後に當り、成績の最も悪かつた前期より五分餘の向上である。前途に資本負擔の増加をひかへてゐる矢先きではあるが、前々期二分、前期再び二分と減配を續けて來だ手前もあつて、當局者は二分増の八分配當とする意圖である。

【十一月期】採算は更らに良化する見込みだから、拂込は増しても八分配當は据置けやう。

【内容】固定的な借金は皆無であり、錘當り固定資産も割安だ。

【設立】	明治四十年七月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	帆布、ダック、ホリス、薄地、リネン、服地、シャツ地、飛行機翼布、敷物用糸、機物糸
【資本金】	公稱一七、二〇〇、〇〇〇圓
【株数】	新(一三、三〇〇、〇〇〇) 舊(三、九〇〇、〇〇〇)
【重役】	社長 安田善五郎 取締役 伊藤 忠三 常務 河野 實三 取締役 浦澤 安吉 下河邊 行一 監査 飯田 二郎 大橋 新太郎 監査 飯田 二郎 平塚 直治 松本 善治 玉木 誠太郎 松本 善治
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	安田保全堂、三六、〇〇〇圓 支三、〇〇〇圓 安田銀行、五〇、〇〇〇圓 日本銀行、四〇、〇〇〇圓 四國銀行、四〇、〇〇〇圓 小池合資、三、〇〇〇圓 大橋本店、三、〇〇〇圓
【事業規模】	麻糸紡績(總)七、六六、〇〇〇圓(一、九二、〇〇〇圓) 兼糸機(總)三、八三三、〇〇〇圓 工場Ⅱ大阪、鹿沼、札幌、浦和、釜山、豊山(綿布工場) 製線所Ⅱ北海道各地十六ヶ所
【事業成績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【製品販賣(萬)】	五、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓
【加工収入(萬)】	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【投資會社】	大正製麻、東洋麻工業、日本麻紡績、滿洲製麻

【資産負債】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
株主資本	三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
社債	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
借入金等	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
使用總資本	六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
固定資産	五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓
投資資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
収入	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
支出	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【業績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
利益	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
配当	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【豫想配當】	十二年六月期 八分
【利配】	三月二十日調 四分八厘
【名義書換】	五 五 五 五 五 五 五 五

【設立】	大正五年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	織糸、縫糸、漁網糸、織布
【資本金】	公稱 三、〇〇〇、〇〇〇圓
【株数】	新(三、〇〇〇、〇〇〇) 舊(三、〇〇〇、〇〇〇)
【重役】	専務 石崎 石三 取締役 穴水 熊雄 取締役 林 莊治 中島 孝夫 大橋 常次郎 渡邊 六郎 安藤 竹次郎 監査 杉山 周藏 新間 五兵衛 寺尾 芳男
【株主数】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	石崎 石三、六六、〇〇〇圓 村井安太郎、三、八〇〇圓 加藤忠太郎、三、八〇〇圓 松井 房吉、三、八〇〇圓 新間五兵衛、三、八〇〇圓 林 莊治、三、八〇〇圓 安藤竹次郎、三、八〇〇圓 松井商店、三、八〇〇圓
【事業規模】	精紡機(總) 一、〇〇〇、〇〇〇圓 工場所在地 沼津市外大岡村下石田 新淵村松町
【事業成績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【麻糸生産(萬)】	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【投資會社】	ラミー糸共同販賣
【資本異動】	十二年四月三回拂込徴收

【資産負債】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
株主資本	三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓 三、〇〇〇、〇〇〇圓
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
社債	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
借入金等	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
使用總資本	六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓 六、〇〇〇、〇〇〇圓
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
固定資産	五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓 五、〇〇〇、〇〇〇圓
投資資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
収入	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
支出	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【業績】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
利益	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
配当	一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【豫想配當】	十二年五月期八分
【利配】	三月二十日調 五分三厘
【名義書換】	五 五 五 五 五 五 五 五

日滿亞麻紡織株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町大阪ビル新館(電報掛三三)

【原料提携】今まで滿洲の亞麻原料資源は當社のみで獨占してゐたが、今後滿洲國五ヶ年計畫の線に沿つて滿洲亞麻資源の一層の開發のため、帝國製麻と提携することになつた。其の方法は、當社の子會社であり、原料供給者たる滿日亞麻株式會社の株式を帝國製麻に分譲し、此の會社へ帝國製麻が資本的參加をすると同時に、今後此の會社は、帝國製麻へも原料を供給する。

【海外進出】此の原料提携によつて、將來滿洲亞麻は増産されることになるが、さうすると内地へ供給するだけでは餘つて来る。内地の亞麻製品需要、従つてまた亞麻原料の需要には、大體現在の程度で足りるのである。そこで、勢ひ海外進出を企てねばならぬ。元來當社では既に海外市場、就中米國に目を付けて、調査員を派遣してある。當社製品の一手販賣を引受けてゐる三井物産とタイアップしてやがて輸出へ力を注ぐことになるだらう。

【二月決算】此の稿執筆中には未だ二月決算が發表されてゐないが、世間には配當を期待してゐる向もある様だ。然し記者は配當自重を奨めたい。やつと収益期に入つたばかりだから、此の際配當を急がず、内容充實に努めるがよい。但し八月期からは、最低五分程度の配當を付け得る様になるだらう。

【設立】	昭和九年四月	【決算期】	二月、八月
【事業】	厚地物(帆布、ダック、天幕地、鐵道用覆地、通信用覆地)亞麻糸	【資本金】	公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 三〇〇,〇〇〇
【役員】	會長 坂内 義雄 專務 木村 治助 常務 中川 正左 取締役 伊地知 虎彦 監査 佐々木 久二 久野 謙雄 武智 直造	【株主數】	十年上 十一年上 十一年下 十一年上 一、一三三 一、一三三 一、一三三 一、一三三
【事業規模】	原料工場(原料栽培は滿日亞麻が經營) 双城、海林、呼蘭、海倫、拜泉、克山、泰安、綏化、珠河	【事業成績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇 三、七〇〇
【投資會社】	滿日亞麻紡織株式會社	【投資會社】	滿日亞麻紡織株式會社
【資本異動】	十年七月拂込三〇〇,〇〇〇	【資本異動】	十年七月拂込三〇〇,〇〇〇
【資産負債】	株主資本 八〇,〇〇〇 外部負債 三〇,〇〇〇 借入金支子 三〇,〇〇〇 使用總資本 一四〇,〇〇〇 固定資産 一三三,〇〇〇 流動資産 七,〇〇〇 現金預金 一,〇〇〇	【收支積定】	十年上 十年下 十一年上 十一年下 共 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇三 〇・〇三	【利息】	三月二十日調 三分四厘
【株價】	實地高値 安値 九年 一七八 一七八 十年 一七八 一七八 十一年 一七八 一七八	【名義券換】	十 換【新券交付】五十換

電力燈電業

【電力法案の見合せ】頼母木前選相の立案した電力國家管理法案及びこれに關聯した三つの電力法案を、兒玉選相は遂に第七十議會には提案しなかつた。勿論民有國營を骨子とする電力國家管理法は之で解消した譯ではない。兒玉選相は此の案を以て『優秀なる案であることを失はない』とし、且つ『我國の電力問題は、この儘放任を許さず、統制強化の緊切なるを痛感してゐる爲め、來議會に提出する』と言つてゐるからだ。

【新選相と國營問題】その限り民有國營案は、單に來議會へ持ち越されただけのことで、電力界を蔽ふ暗雲は去らない。然し此の問題の底を流れるものは前選相の時代に較べると、餘程遠つて來たと見られる。即ち林内閣が成立すると、政府、軍民抱き合ひの生産力擴充といふことが政策の最前面へ押し出されて來た。従つて生産力を擴充させるどころか、反對に之を萎縮させる様な電力民有國營思想は、其の實現性が餘程稀薄になつたものと思はれる。『内容に就ては尙ほ検討を要するものあり』と

兒玉選相が言つてゐることは、其の邊の意味を多分に含んでゐるものと解し得るだらう。また選信省が、最近になつて、各電力會社の水力開發計畫をどんく許可する方針になつたと傳へられるのも、同様の意味だらう。

【此の問題の見透し】今から、先きの先きまでの、而も具體的な見透しを立てることは出来ないが、然し萬一兒玉選相が民有國營の思想を捨てないとしても、それは頼母木前選相の場合とは大分違つて來ることだけは、信じて誤りないと思ふ。或は、現存設備の運営は矢張り民間に任せ、未開發の水力に就ては國營又は半官半民の會社によつて之をどしく開發するといふ様な處に落着くのではないかと見られる。

【電力株の利通訂正】斯様に、國營問題は稍々樂觀的に考へられはするが、然し株價は依然大して伸びない。他の株が著しく騰つてゐる中に、電力株だけは依然高利廻ものには、昨今可成り活躍した株もある。手放しの樂觀は出来ないにしても、まだく利廻は訂正されてよい。

東京電燈株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一(電燈三三三)

【十一月期】去る十一月期は利益金三千二百四十三萬二千圓となつて、前期に比し百七十一萬圓、前年同期に比し七百八十萬圓の増益を示した。對拂込資本利益率は一割五分一厘だから、對前期八厘、對前年同期三分六厘の向上である。斯様な業績の著しい向上は、言ふまでもなく電燈電力収入の好調によるものだ。殊に此の期は不審期であつたにも拘はらず、斯様な好成績を挙げ得たのだから、電力界の基調の良好なことが判る。

【建設計畫】電力國營案が今議會へ提出されずに終つたこと、及び此の問題が今後どうなるだらうかに就ては、別稿に述べておいたが、國營問題と關聯して注目すべきことは、電力會社の水力開發計畫に對して逓信省が積極的に認可する方針となつて來たことである。當社では小野川、信濃川の開發を着々進行させてゐるが、例の最も大きな問題である猪苗代湖の湖面低下の問題も或は認可されるかも知れぬことだ。さうなれば、當社は一層積極的な大規模な建設に取りかゝることとなり、従つて資金をも新たに要することとなる。

【増資】一時立消えとなつた増資問題も再燃するかも知れない。増税は配當に影響なく、今年末からの料金認可制も懸念なし。

【設立】明治十六年二月

【決算期】五月、十一月

【事業】電燈、電力供給

【資本金】公稱三〇〇,〇〇〇圓 拂込二八三,〇〇〇圓

【株主】會長兼社長 小林 一三

副社長 河野 重三郎 取締役 田島 進策

常務 五十嵐 重三郎 取締役 關部 英一

取締役 廣瀬 爲久 安藤 彌三郎

大橋 新太郎 常務 伊藤 三郎

大橋 左衛門 監査 戸澤 芳樹

鈴木 忠治 取締役 芳樹

【株主数】十年上 十一年上 十一年下

總數(名) 五八三 〇〇〇 〇〇〇

【大株主】東電證券(株) 東京電燈株式會社

東電代付(株) 東京電燈株式會社

千代田生命(株) 東京電燈株式會社

東邦電力(株) 東京電燈株式會社

帝國生命(株) 東京電燈株式會社

【事業規模】發電所出力(水力) 〇,〇〇〇キロ

購入電力(水力) 〇,〇〇〇キロ

供給成績 十年上 十一年上 十一年下

取付電灯(キロ) 一八,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二二,〇〇〇

供給電力(キロ) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

電灯収入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

電力収入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【投資會社】東京電燈、關東電燈、東電

電氣、群馬電氣、多摩川電力、東京瓦

斯、昭和肥料、王子電機、東電證券

【資產負債】十一年 五十二年 十一年

株主資本 〇〇〇,〇〇〇圓

外部負債 〇〇〇,〇〇〇圓

借入金 〇〇〇,〇〇〇圓

使用總資本 〇〇〇,〇〇〇圓

固定資産 〇〇〇,〇〇〇圓

投資資産 〇〇〇,〇〇〇圓

流動資産 〇〇〇,〇〇〇圓

現金預金 〇〇〇,〇〇〇圓

【收支】十年上 十一年上 十一年下

收入 〇〇〇,〇〇〇圓

支出 〇〇〇,〇〇〇圓

【業績】十年上 十一年上 十一年下

利益 〇〇〇,〇〇〇圓

【名義書換】五 〇〇〇圓

【新券交付】五十 〇〇〇圓

東邦電力株式會社

(本社) 東京市豊島區九ノ内海上ビル内(電九ノ内 三三三)

【合同電氣合併】當社は此の三月末合同電氣を合併した。これは、逓信省の方針に従つて、電力の相互受授をなす會社間の整理統合を圖ると共に、當社の内容を強化する目的を持つたものである。此の合併に就ては種々の影響を考慮すべきだが、大局的に見て當社に好影響を及ぼすだらう。

【合併後の業績】合併條件は、合同十株對東邦九株の比率であるが、當社は合併に當つて、其の持株たる合同電氣新株(三十五圓拂込)七十萬七千三百六十五株を切捨てるから、合併後の當社資本金は公稱二億三千三百萬圓、拂込二億一千五百三十二萬九千圓餘となる。この資本金に對して何程の利益が擧るかと言ふに、當社の昨年十月期利益金は一千二百四十四萬圓、合同電氣の昨年九月期の利益金は四百九十九萬二千圓だから、兩者合併後の利益金は(今後營業成績に變化なしとすれば)一千七百十餘萬圓となる。これは合併後の拂込資本金に對し一割五分九厘の利益率に當る。去る十月期の利益率に比し一分餘の向上となる。

【合併後の内容】資産内容から見ても合同電氣の拂込資本金を三千二百八十三萬圓に切下げるのだから(當社所有の合同新株切捨と共に)二千八百四十萬圓見當を減じ、一大整理敢行の譯だ。

【設立】明治三十八年十一月

【決算期】四月、十月

【事業】電灯、電力供給

【資本金】公稱三〇〇,〇〇〇圓 拂込二八三,〇〇〇圓

【株主】會長 新井 一三

副社長 河野 重三郎 取締役 田島 進策

常務 五十嵐 重三郎 取締役 關部 英一

取締役 廣瀬 爲久 安藤 彌三郎

大橋 新太郎 常務 伊藤 三郎

大橋 左衛門 監査 戸澤 芳樹

鈴木 忠治 取締役 芳樹

【株主数】十年上 十一年上 十一年下

總數(名) 五八三 〇〇〇 〇〇〇

【大株主】東電證券(株) 東京電燈株式會社

東電代付(株) 東京電燈株式會社

千代田生命(株) 東京電燈株式會社

東邦電力(株) 東京電燈株式會社

帝國生命(株) 東京電燈株式會社

【事業規模】發電所出力(水力) 〇,〇〇〇キロ

購入電力(水力) 〇,〇〇〇キロ

供給成績 十年上 十一年上 十一年下

取付電灯(キロ) 一八,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二二,〇〇〇

供給電力(キロ) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

電灯収入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

電力収入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

【投資會社】東京電燈、關東電燈、東電

電氣、群馬電氣、多摩川電力、東京瓦

斯、昭和肥料、王子電機、東電證券

【資產負債】十一年 五十二年 十一年

株主資本 〇〇〇,〇〇〇圓

外部負債 〇〇〇,〇〇〇圓

借入金 〇〇〇,〇〇〇圓

使用總資本 〇〇〇,〇〇〇圓

固定資産 〇〇〇,〇〇〇圓

投資資産 〇〇〇,〇〇〇圓

流動資産 〇〇〇,〇〇〇圓

現金預金 〇〇〇,〇〇〇圓

【收支】十年上 十一年上 十一年下

收入 〇〇〇,〇〇〇圓

支出 〇〇〇,〇〇〇圓

【業績】十年上 十一年上 十一年下

利益 〇〇〇,〇〇〇圓

【名義書換】五 〇〇〇圓

【新券交付】五十 〇〇〇圓

宇治川電氣株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一丁目大阪ビル(電士佐堀六〇一)
(出張所) 東京市豊町區内幸町大阪ビル内(電銀座五三三)

【今期好調】 昨年九月份は利益金七百六千圓を挙げ、其の前期に比較し六十四萬三千圓の増益であつたが、拂込資本増加のため利益率は三厘低下の一割三分三厘となつた。此の三月份業績は本稿執筆中は未詳だが好化するに違ひない。第一に需要の増加がある。新規供給電力は三萬馬力程度の増加をなしてゐる。電燈収入も増加する筈だ。勿論供給増加に従つて買電も増加するが、それにしても、かなり良い成績になる。それに社債借替、借金返済等に依る利拂減がある。これは前期にも寄與してゐたのであるが、今期は全期を通じて其の好影響を受ける。結局利益は八百萬圓近くに上るのではないと思ふ。

【内容如何】 當社の資産内容は五大電力中では決して優良なものとは言へない。其の評価の高いとは随一だ。投資會社の内容も芳しくない。従つて内容的には今後改善を要するものが少なくない。勿論大和田長電發電所(出力一萬五千キロ)の完成や、後に控えた發電所の建設で單位當り評價は相當引下げられやうが、それにしても、尙ほ當分は資産評價に難點を残すことは否まれぬ。

【配當】 だが業績は非常によく、此の三月份一分程度の増配も可能だ。然し時節柄でもあり内容にも難がある事だから實現は疑問。

臺灣電力株式會社

(本社) 臺北市書院町一ノ一(臺北 電話)
(支店) 東京市豊町區内幸町三信ビル(電銀座 五三三)

【十二月期】 昨年十二月期は著しい好成績を挙げた。利益金は二百七十二萬五千圓となり、前期に比し四十八萬五千圓、前年同期に比し九十五萬一千圓を増加した。利益率は一割四分六厘となり、前期に比し二分六厘、前年同期に比し四分三厘の向上である。此の業績向上は、下掲表に明かな様に、電燈電力収入の激増による。去る十二月末の契約電力容量を見て、七萬九千キロと、前期末に比し一四%、前年同期に比し四九%の激増だ。

【拂込費】 斯うした電力需要の増大に伴つて大規模の設備擴張を必要とするので、去る二月一日、一株につき十二圓五十銭、總額二百八十一萬四千圓の拂込を徴収した。が、現在の擴張計畫からすると、これだけの金ではとて不足だ。あと五百六十萬圓ばかりの未拂込があるが、やがてこれも近々に徴収されることになりだらう。差當て今年中に要する金だけでも、日月潭第二發電所(四萬キロ)建設費七百萬圓のうち未拂込五百萬圓、北部火力三萬五千キロの建設費五百萬圓、合せて一千萬圓を要するから、差當り借金で賄はねばならぬ。

【増資含み】 明年以後三千萬圓見當の建設を行ふ計畫があるから行く行くは増資に進むべき筋合にある。

【設立】	明治三十九年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電燈、電力供給
【資本金】	公稱 300,000 拂込 219,350
【株主】	新(三五〇) 一八〇,〇〇〇 舊(一三三) 三九,三五〇
【重役】	社長 林 安繁 副社長 野山三郎 取締役 岸 國太郎 常務 野口 達 監査 大倉喜七郎 取締役 石澤 四郎 岡崎 忠雄 水井 孝三 的場順一郎
【株主数】	十年上 一、七五〇 十年下 一、八〇〇 總数(名) 三、五五〇
【大株主】	宇治川電氣株式會社 八〇〇,〇〇〇 山陽電氣 二〇〇,〇〇〇 神戸同業銀行 六〇〇,〇〇〇 第一生命 三〇〇,〇〇〇 大倉組 三〇〇,〇〇〇 阪本林業 三〇〇,〇〇〇 帝國生命 三〇〇,〇〇〇 野村生命 三〇〇,〇〇〇
【事業規模】	發電所出力(水力) 七、九〇〇 購入電力(火力) 三六、〇〇〇 事業成績 十年上 十一年上 十二年上 電燈収入(電) 四三三、〇〇〇 四三三、〇〇〇 四三三、〇〇〇 電力供給(電力) 一、五五一、〇〇〇 一、五五一、〇〇〇 一、五五一、〇〇〇 電力収入(電力) 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇 電力収入(電力) 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇
【投資會社】	山陽電氣、近江鐵道、神明自動車、神戶自動車、日本電機製造、山田電機、新興土地建物、愛油商事、大阪電機工業所、宇治川電氣株式會社、三國五拂込徴収。
【資本異動】	十一年七月、七五萬圓増資

【資産負債】	九十年 三十二年 三十二年
株主資本	2,723,000 2,723,000 2,723,000
外部負債	2,723,000 2,723,000 2,723,000
社債	2,723,000 2,723,000 2,723,000
借入金	2,723,000 2,723,000 2,723,000
使用總資本	2,723,000 2,723,000 2,723,000
固定資産	2,723,000 2,723,000 2,723,000
流動資産	2,723,000 2,723,000 2,723,000
現金預金	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【收支動向】	十年上 十一年上 十二年上
収入	2,723,000 2,723,000 2,723,000
支出	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【業績】	十年上 十一年上 十二年上
利益	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【株主】	十年上 十一年上 十二年上
株主	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【時價】	新 五〇 利 五分五厘
【名義書換】	五 新券文附 三十 舊券書換

【設立】	大正八年八月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	電燈電力、カーバイド
【資本金】	公稱 300,000 拂込 219,350
【株主】	新(三五〇) 一八〇,〇〇〇 舊(一三三) 三九,三五〇
【重役】	社長 松本幹一 副社長 安達房治郎 監事 野口 敏治 理事 能澤外茂吉 監査 後百信太郎 後藤 謙二 八條 隆正
【株主数】	十年上 一、七五〇 十年下 一、八〇〇 總数(名) 三、五五〇
【大株主】	臺灣總督府 一,〇〇〇,〇〇〇 帝國生命 六〇〇,〇〇〇 日本生命 三〇〇,〇〇〇 明治生命 三〇〇,〇〇〇 第一生命 三〇〇,〇〇〇 臺灣電力 三〇〇,〇〇〇
【事業規模】	發電所出力(水力) 七、九〇〇 事業成績 十年上 十一年上 十二年上 電燈収入(電) 四三三、〇〇〇 四三三、〇〇〇 四三三、〇〇〇 電力供給(電力) 一、五五一、〇〇〇 一、五五一、〇〇〇 一、五五一、〇〇〇 電力収入(電力) 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇 四九四、〇〇〇
【投資會社】	山陽電氣、近江鐵道、神明自動車、神戶自動車、日本電機製造、山田電機、新興土地建物、愛油商事、大阪電機工業所、宇治川電氣株式會社、三國五拂込徴収。
【資本異動】	十一年七月、七五萬圓増資

【資産負債】	九十年 三十二年 三十二年
株主資本	2,723,000 2,723,000 2,723,000
外部負債	2,723,000 2,723,000 2,723,000
社債	2,723,000 2,723,000 2,723,000
借入金	2,723,000 2,723,000 2,723,000
使用總資本	2,723,000 2,723,000 2,723,000
固定資産	2,723,000 2,723,000 2,723,000
流動資産	2,723,000 2,723,000 2,723,000
現金預金	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【收支動向】	十年上 十一年上 十二年上
収入	2,723,000 2,723,000 2,723,000
支出	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【業績】	十年上 十一年上 十二年上
利益	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【株主】	十年上 十一年上 十二年上
株主	2,723,000 2,723,000 2,723,000
【時價】	新 五〇 利 五分五厘
【名義書換】	五 新券文附 三十 舊券書換

矢作水力電気株式会社

(本社) 名古屋市東區東片端町二ノ二(電東八三三)
(支店) 豊田區丸ノ内海上ビル(電九ノ内二〇七)

【建設計畫】泰卓水力五萬二千五百キロは昨年四月全部の完成を見たが、續いて豊水力一萬三千キロが昨年末完成した。今年末には更に和合水力三千キロが完成する筈であり、明年は尾口水力一萬七千キロが完成する豫定である。其の上に平岡水力四萬キロ乃至五萬キロを建設する計畫を持つてをり、認可申請中である。斯様に積極的な開發をどしどしやるのは、充分電氣の捌け口がある爲に外ならない。

【旺盛な電力需要】泰卓水力の出力は、大同電力及び當社の子會社たる矢作工業への供給で荒方捌けて了ひ、豊水力も矢作工業へ行くもの及び其他工業會社への供給及電燈用で捌けて了ふので、和合發電所を更に建設してゐる譯だ。尾口水力は全部東電へ賣ることにしてゐる。斯うした譯で電力の捌け口には困らない。

【拂込徴收】建設計畫には多くの資金が要るので、昨年拂込を徴收する筈だったが、國營問題が喧しくなつたので拂込を止めて社債で賄つた。然し拂込徴收は既に時期の問題だ。

【將來性】右の各發電所の完成、子會社矢作工業、日清レーヨン等の電力需要増加及それらの發展性(矢作工業は大同電氣製鋼及昭和青達と共同で新機械會社を始めた)等々、好材料多し。

鬼怒川水力電氣株式會社

(本社) 東京市港區千駄谷五ノ八六二(電四谷三二一)

【十一月期】昨年十一月期は利益金百六十四萬八千圓となり、前年同期に較べて二十萬圓方を増益した。利益率は一割一分九厘となつて、對前期一分五厘、對前年同期一分七厘を向上した。配當は七分を据置いたが、社内保留率は三割七分八厘となつてゐる。前期は二分増配を執行して決算は窮屈となつたのであるが、十一月期は決算も稍々良くなつた。

【業績向上の原因】前期に二分増配を断行したのは十一月期の業績向上を見込んでゐた爲だが、それは關東水力の特配と小田急の配當復活による配當収入の増加、及び昨年四月に低利借替をした社債の利拂軽減等によるものだ。電力収入は、十一月期に於て二百十六萬三千圓になつて、前期及び前年同期に較べて大差なかつたが、右の配當収入増加によつて利益金が増したのである。

【償却の増加】斯様に利益金が増したが、勿論増配すべきではないから、償却を厚くした。固定資産償却を前期の二十六萬四千圓から四十萬圓に増加したから、償却年率も五十年賦弱となつて、先づさう悪くないものとなつた。水路清掃によつて増加した出力三千キロの東電賣込み、新水力四萬キロの建設は今後の懸案であり、楽しみだ。

【設立】	大正八年三月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電力卸賣、一般供給
【資本金】	公稱 100,000 拂込 100,000
【株数】	新 10,000 舊 10,000 總計 20,000
【重役】	社長 藤澤 勇吉 取締役 川崎友之介 副社長 杉山 榮 下出 義雄 常務 成瀬 正忠 他六名 後藤 一藏 監査 岸 義雄 小山 樹一 相談 門野櫻之進 取締役 高木 得三 他四名
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總計(名) 六六二 六五九 六四六
【大株主】	金城豐 參照(大同電力) 100,000 東京海上火災(伊藤電機) 100,000 千代田生命(三井物産) 100,000 川崎重工業(日本電機) 100,000
【事業規模】	發生電力(水力) 15,000キロ 電燈數(千燈) 10,000 一般電力(千瓩) 三 電力收入(千圓) 五,七〇〇
【投資會社】	矢作工業、大北工業、金城證券
【資本異動】	十年七月優先十圓、十一年四月優先五圓十一月新七圓五拂込徴收

【資産負債】	九月 十一月 十一月
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
社債	100,000 100,000 100,000
借入金	100,000 100,000 100,000
使用總資本	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支動向】	十年上 十一年上 十一年下
収入	100,000 100,000 100,000
支出	100,000 100,000 100,000
【業績】	十年上 十一年上 十一年下
利益	100,000 100,000 100,000
【豫想配當】	十二年三月期 優一割二分
【利息】	三月二十日調 五分四厘
時價	新六六 利七 三分三分
【名義書換】	二 新券交附 二十圓

【設立】	明治四十三年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電力卸賣
【資本金】	公稱 100,000 拂込 100,000
【株数】	新 10,000 舊 10,000 總計 20,000
【重役】	社長 利光 鶴松 取締役 利光 水松 副社長 中野寅次郎 小曾小之助 取締役 利光 學一 青村 惠吉 上杉松太郎 監査 藤野 正年 藤江 周輔 白形次郎太郎 井上敬次郎 石川 實 池邊 昭生
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總計(名) 八、五五 七、七三 七、六六
【大株主】	鬼怒川電氣會社 100,000 小川政子 小曾創之助 100,000 小川市太郎 100,000 平沼久三郎 藤江周輔 100,000 有隣生命 藤野正年 100,000 中江龍二 西野守藏 100,000
【事業規模】	發電所出力(水力) 10,000 賣電先 東京、東京市電氣局其他
【供給成績】	十年下 十一年上 十一年下 供給電力(千瓩) 100,000 100,000 100,000 同收入(千圓) 100,000 100,000 100,000
【投資會社】	關東水力電氣、小田原電行 電機、帝都電機

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
社債	100,000 100,000 100,000
借入金	100,000 100,000 100,000
使用總資本	100,000 100,000 100,000
固定資産	100,000 100,000 100,000
流動資産	100,000 100,000 100,000
現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支動向】	十年下 十一年上 十一年下
収入	100,000 100,000 100,000
支出	100,000 100,000 100,000
【業績】	十年上 十一年上 十一年下
利益	100,000 100,000 100,000
【豫想配當】	十二年五月期七分
【利息】	三月二十日調 六分九厘
時價	新三五 利七 七分
【名義書換】	十 新券交附 二十圓

關東水力電氣株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内四三三)

【金屬工業への進出】當社が佐久發電所の出力増加を計り、この電力の用途を研究中であるとは前から言はれてきたが、愈々これが具體化した。それは日本ニツケルの事業である。日本ニツケルは昨年十一月資本金五百萬圓(拂込百二十五萬圓)を以て設立された會社で、我國最初のニツケル製造會社だ。この會社の株式十萬株のうち當社副社長淺野八郎氏が三萬株を占めて第一の大株主となつてゐる外、日本ニツケルの事務取締役として當社取締役杉本好太郎氏が就任してゐる。當社系の會社であることは一見して明瞭である。

【將來性】此の事業は未だ其の緒についたばかりで、今のところ海のものとも山のものとも判らないが、然し重工業の基礎的生産部門として將來伸びるべき性質のものである。従つてこの事業が發展するならば、當社にとつては何よりも先づ電力の供給が増加する。當社にとつて大きな好材料たるを失はないだらう。而して日本ニツケルへの供給及び東電への供給増加のため、佐久發電所の出力を六千六百キロ増加及新水力の開発を行ふ筈。

【業績】去る十二月期は利益率一割二分六厘で、特配三分を落して九分配當としたが、決算は窮屈であつた。

【設立】	大正八年十月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	電力卸賣
【資本金】	公稱 500,000 實收 300,000
【株数】	新 500,000 舊 200,000
【重役】	社長 淺野總一郎 常務 野村 八郎 取締役 鶴田 勝三 山崎林太郎 監査 金子喜代太 中野寅次郎 淺野 善一 廣瀬 爲久 藤堂 大藏 太刀川平治 相談 利光 義夫 杉本好太郎 若尾 璋八
【株主数】	十年上 1,233 十年下 1,233
【大株主】	鬼怒川水力、六三三 東電證券(八八三) 關東證券(三三三) 淺野同族(三三三) 千代田生命(二九九) 明治生命(一六〇) 安田生命(二六六) 帝國生命(一七〇)
【事業規模】	發電所出力(水力) 500,000キロ 主要電力販賣先 東京電燈 責任取置量 500,000キロ時 契約期限昭和十三年十一月 キロ當年額 三圓 供給區域 横濱市鶴見區、川崎市
【投資會社】	關東證券
【資本異動】	昭和十年五月一、三〇〇萬圓増資 第一回拂込一二圓五枚收

【資産負債】	十二年 六十一 十一年 六十一
株主資本	三、三三三 三、三三三
外部負債	三、三三三 三、三三三
支拂手形	四〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇
固定資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十年下 十年上 十年下
收入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【業績】	十年上 十年下 十年上 十年下
利益	100 100 100 100
【株價】(高値)	100 100 100 100
【利息】	三月二十日調 六分三厘
【名義書換】	十 十 十 十

上毛電力株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内一丁目武州銀行ビル(電丸ノ内三三三)

【四月期】當社は毎期殆ど變化のない成績を示してゐる。それは當社の出力全部を東電へ年極めて賣つてゐるからだ。上期と下期とでは若干違ふが、上期(四月期)は六十九萬圓、下期(十月期)は六十五萬圓見當の収入が極つてゐる。従つて此の四月期も矢張り今まで通り一割一分見當の利益率を擧げて、六分配當を續けるものと見られる。

【新水力】然し現在建設中の新發電所一ノ瀬水力一萬七千キロが完成すれば、事情は大いに違つて来る。これは今年末完成の豫定だが、假りにこれがキロ年額五十圓にしか賣れないとしても、半期二十五萬圓以上の収入が入つて来る。經費を差引いても裕に十五萬圓以上の増益とならうから、利益率は四分見當を向上する。即ち少なくとも二分程度の増配は可能である。當社の現行六分と云ふ配當は他社に較べて低い部類に屬するから、いくら御時勢でも一向差聞えない。

【將來性】それに現在のところでは、キロ當りの建設費が比較的割高だが、一ノ瀬水力は地點が良いので著しく割安で出来る筈だから、これが完成すると全體のキロ當り固定資産評價が低められる。兎に角今後に楽しみのある會社だ。

【設立】	大正十四年十二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	電力卸賣、一般供給
【資本金】	公稱 1,000,000 實收 700,000
【株数】	1,000,000
【重役】	取締役 加藤 子郎 田島 雄平 小西賢治 監査 長谷川太郎 宮口 竹治 鈴木 達策 淺野 良三 杉本好太郎 淺野 八郎 石毛竹治郎
【株主数】	十年上 1,233 十年下 1,233
【大株主】	關東證券(八八三) 大川合名(三三三) 安田保全(三三三) 田中榮八郎(三三三) 安田信託(三三三) 小西合名(三三三) 正隆銀行(三三三) 安田銀行(三三三)
【事業規模】	發電所出力(キロ) 1,000,000 一ノ瀬(工事中) 10,000 千鳥(二二二) 計 三、三三三 主要電力販賣先 東京電燈 (契約期限昭和十四年四月キロ年六圓) 事業成績 十年上 十年下 十年上 十年下 同收入(圓) 三、三三三 三、三三三 電力(キロ) 三、三三三 三、三三三 同收入(千圓) 三、三三三 三、三三三
【投資會社】	上毛森林土地

【資産負債】	十年上 十年下 十年上 十年下
株主資本	1,000 1,000 1,000 1,000
外部負債	1,000 1,000 1,000 1,000
社債	1,000 1,000 1,000 1,000
借入金	1,000 1,000 1,000 1,000
使用總資本	1,000 1,000 1,000 1,000
固定資産	1,000 1,000 1,000 1,000
流動資産	1,000 1,000 1,000 1,000
現金預金	1,000 1,000 1,000 1,000
【收支勘定】	十年上 十年下 十年上 十年下
收入	1,000 1,000 1,000 1,000
支出	1,000 1,000 1,000 1,000
【業績】	十年上 十年下 十年上 十年下
利益	100 100 100 100
【株價】(高値)	100 100 100 100
【利息】	三月二十日調 七分
【名義書換】	十 十 十 十

群馬水電株式會社

(本社) 東京市日本橋區吳服橋三ノ七(電日本橋二五九九)

【十一月期】去る十一月期は利益金五十二萬九千圓となつて前年同期と殆ど變りがなかつたが、昨年九月に總額百十萬圓の拂込を徴收し、此の拂込資本負擔が九、十、十一月の三ヶ月間加つたので、利益率は一割五分三厘となつて對前期六厘、對前年同期一分八厘を低下した。

【今來期】當社は下掲表に示した様に、其の出力全部を東電へ年極めて賣つてゐる。だから毎期収入が判で押した様に一定してゐるから、拂込資本が増しただけ、それだけ利益率は低下するのである。殊に來る五月期は前述の資本負擔がまるまる影響するし、また元來五月期は収入の減る期だから、決算は稍々窮屈となるだらう。現行一割配當はやつてやれなくないし、後述の建設計畫が完成すれば収入も増すから、それ迄は窮屈でも一割配當を維持するかも知れぬが、兎に角過渡期は少し苦しい。

【建設】原町水力(二萬四千キロ)、川中水力(一萬二千五百キロ)を建設中で、前者は年内、後者は昭和十四年十月完成の豫定である。その建設費に一千三百萬圓の資金を要し、前記の拂込資金も其の一部に充當される。工事の進行と共に拂込が次ぎ次ぎに徴收される筈にある。

【設立】	昭和元年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電力卸賣
【資本金】	公稱 二,000,000 払込 7,000,000
【株数】	(壹〇)
【重役】	社長 田島 達策 取締役 田島庄太郎 専務 佐竹 義文 淺見 章吾 取締役 宮口 竹雄 石井 林次郎 本間 利雄 監査 丹治 經三
【株主数】	十年下 二十一年上 二十二年下 總數(名) 一〇九
【大株主】	安田保壽社 〇〇〇 東電證券 〇〇〇 田島合名 〇〇〇 東京電氣 〇〇〇 安田生命 〇〇〇 東京火災 〇〇〇 安田信託 〇〇〇 宮口 竹雄 〇〇〇
【事業規模】	發電所(水力) (常時尖頭出力) 松谷發電所 三,000キロ 川中發電所 (工事中) 三,000キロ 原町發電所 一〇,000キロ 賣電先 東京電氣 〇〇〇 賣電先 東京火災 〇〇〇 契約期限 昭和二十二年五年毎に更改 契約料金 〇〇〇年額五九四圓五
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 賣電量(キロ) 三,000 三,000 三,000 電力料(千圓) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 資本異動 十年二月拂込三圓、十一年 九月七圓徴收

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	七,000,000 八,000,000 八,000,000
外部負債	〇 〇 〇
借入金	〇 〇 〇
使用總資本	七,000,000 八,000,000 八,000,000
固定資産	三,000,000 三,000,000 三,000,000
流動資産	四,000,000 五,000,000 五,000,000
現金預金	〇 〇 〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
支出	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
消却年率	〇% 〇% 〇%
【業績】	利益 〇% 〇% 〇%
十年上	〇% 〇% 〇%
十年下	〇% 〇% 〇%
十一年上	〇% 〇% 〇%
十一年下	〇% 〇% 〇%
【利益】	十二年度四月期 八分 十二年度五月期 一割 十二年度三月二十日調 六分五厘
【名義書換】	十 十 十

京濱電力株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ二(電銀座二天千四)

【安泰な業績】毎々述べる様に當社は全く問題のない會社である。當社は完全な東電の子會社、といふよりも寧ろ東電の水力發電所を單に別會社にしてあるといふだけのものだから、經營は全く呑氣なものである。即ち當社發電所出力合計四萬三千七百十キロを三萬九千二百キロと査定し、其の全部をキロ年額五十六圓五十錢で東電へ賣つてゐる。東電との契約更改期は昭和十八年二月、料金の改更期は明年三月である。だからそれ迄は、毎期百三十萬圓前後の電力料金及電力輸送料が入つて來る。従つて業績に著しい變化の起り様がないのである。

【三月期】従つて此の三月期も殆ど前期或は前年同期と變りのない決算をするだらう。尤も此の冬は、十年來に見ない豊水であつた爲、若干利益は増すだらうが、果して増配などをするかどうかは疑問である。

【料金更改】といふのは東電との料金更改期が來年三月に來る。現行料金は安い方だから、今以上に下げられもすまいが、兎に角斯うした問題が前途にあり、また新水力建設計畫もあつて資金も要るから(手許資金・借入金及社内保留で賄ふ)、先づ増配はせぬと見るが穩當だらう。が、それだけ内容は良くなる。

【設立】	大正十四年六月
【決算期】	四月、十月
【事業】	電力卸賣
【資本金】	公稱 三,000,000 払込 10,000,000
【株数】	第一新(一〇〇) 一〇,000 第二新(三〇〇) 三〇,000
【重役】	常務 廣瀬 爲久 取締役 本間 利雄 取締役 上野吉太郎 小野 耕一 取締役 河西野太郎 監査 佐々木久二 山田康太郎 木場貞一郎
【株主数】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 二〇〇
【大株主】	東電證券 三,000,000 帝國生命 三,000,000 片倉生命 10,000,000 第一生命 八,000,000 板谷生命 六,000,000 清水三井 三,000,000 日本海兵 五,000,000 信濃電氣 五,000,000
【事業規模】	發電所出力(水力) 〇〇〇、七〇〇キロ 發電所所在地 湯川、前川、奈川渡、大白川、釜無 川第一、第二、小武川第三、同第四 主要販賣先 東京電氣 〇〇〇、〇〇〇 (契約期限八年二月、十年下、十年上、十年下) 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 供給電力(千圓) 〇〇〇、〇〇〇 〇〇〇、〇〇〇 〇〇〇、〇〇〇 電力收入(千圓) 〇〇〇、〇〇〇 〇〇〇、〇〇〇 〇〇〇、〇〇〇 【投資會社】 東京電氣、甲府電力、駒電力 【資本異動】 九年七月小武川電力を合併 一六〇萬圓増資

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三,000,000 三,000,000 三,000,000
外部負債	〇 〇 〇
借入金	〇 〇 〇
使用總資本	三,000,000 三,000,000 三,000,000
固定資産	〇 〇 〇
流動資産	〇 〇 〇
現金預金	〇 〇 〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
支出	〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇
消却年率	〇% 〇% 〇%
【業績】	利益 〇% 〇% 〇%
十年上	〇% 〇% 〇%
十年下	〇% 〇% 〇%
十一年上	〇% 〇% 〇%
十一年下	〇% 〇% 〇%
【利益】	十二年度四月期 八分 十二年度五月期 一割 十二年度三月二十日調 六分五厘
【名義書換】	十 十 十

中國合同電氣株式會社

(本社) 岡山市上西川町一五(電話五三三)

【業績順調】去る十一月末締切の十一年下期決算に於ては、利益金二百七十三萬九千圓を挙げ、前期より二十萬三千圓、前年同期に比して二十二萬三千圓の増益を示した。尤も對拂込資本利益率は一割六分四厘と、前期より四厘の低下となつた。しかしこれは當社が過般資本金三千一百萬圓を五千萬圓に増加し、その第一回拂込金合計四百七十五萬圓を、去る九月一日に徴收したので、それだけ拂込資本が膨脹したからである。だが九分配當にはなほ充分餘裕があり、電力會社としては頗る好成績だ。

【内容充實】内容も改善され、益々充實してきてゐる。尤も短期借入金は前期より七百九十萬圓ほど増加したが、しかし他方に於て社債が、前期に比し九百五十萬圓減少した。これは第十六回社債を償還した結果だが、この低利借入金への借替乃至借金返済によつて、今後はそれだけ利拂が軽減される譯だ。

【前途も安定】借入金の返済は今後も行はれる見込みだ。而も電燈、電力収入は、引き続き好調である。電力料値下げの影響も、既に前期に於て大體試験済みだから不安はない。増税による負擔の増加は看過出来ないが、利益率と配當率の間に餘裕のある當社のことだから、現行九分配當の維持は確實。

【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈、電力供給
【資本金】	公稱一〇〇〇,〇〇〇圓 拂込一〇〇,〇〇〇圓
【株主数】	新(三三) 天〇,〇〇〇
【重役】	社長 坂野鉄太郎 副社長 牛尾健治 監査 有本立 事務 榮谷十郎 吉村 廣男 取締 乾利一 今井 茂夫 清水榮太郎 木原 通一 速水 太郎 土居 精治
【株主名】	十年上 十一年上 十一年下 總數(名) 三三三 三三三 三三三
【大株主】	山陽中央電氣 三〇〇,〇〇〇圓 鳥取電燈 三〇〇,〇〇〇圓 山陽商事 三〇〇,〇〇〇圓 牛尾健治 三〇〇,〇〇〇圓
【事業規模】	電力供給 三〇〇,〇〇〇圓 電燈供給 三〇〇,〇〇〇圓
【投資所出資】	鳥取電燈 三〇〇,〇〇〇圓 山陽商事 三〇〇,〇〇〇圓 牛尾健治 三〇〇,〇〇〇圓
【資本異動】	十年六月二日五拂込徴收、 九月十九日五拂込増資三〇〇,〇〇〇圓

【資産負債】	十一月 五十一月 十一月
株主資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
社債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
使用總資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支】	十年上 十一年上 十一年下
収入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【利益】	三月二十日調 七分 三月二十日調 七分 三月二十日調 七分
【名義書換】	五錢 新券交付附二十錢

山陽中央水電株式會社

(本社) 大坂市南區末吉橋通二ノ三日間ビル内電燈場(電話一八)

【順調】去る十一月末に締切つた十一年下期の決算に於ては、利益金は二百五萬一千圓に達し、前期に比し八萬七千圓、前年同期に比すれば實に三十一萬八千圓の増加であつた。尤も拂込資本に對する利益率は、前期より三厘を低下して一割五厘となつた。だがこれは、十一年上期に増資を断行したため、一時拂込資本の膨脹が影響したからに外ならない。

【増益理由】右の如き増益は、電燈収入の増加による勿論だが、配當金並びに利息収入等も殖え、而も支拂利息が減少されることも與つて力がある。殊に支拂利息は、前期より二萬九千圓、前年同期に比し十萬四千圓の減少だ。これは昨年上期に、資本金六百萬圓を増加して三千九百萬圓とし、増資新株の拂込みを一舉全額徴收して六分利社債五百萬圓の償還を行った結果である。たゞ電力料収入が減少し、他方僅かながらも諸経費が増嵩してゐるのは、余り芳しからざる傾向だ。

【前途興味】しかし前途には次第と興味もてる。といふのは當社は、最近節電所隣接地十三萬坪を一般工業家に分譲し、工場誘致を企圖してゐる。節電所の改築工事も完成が近いから前途興味が多い。増税の影響もあるが、現行七分配當は持續されん。

【設立】	大正八年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈電力供給
【資本金】	公稱一〇〇〇,〇〇〇圓 拂込一〇〇,〇〇〇圓
【株主数】	新(三三) 天〇,〇〇〇
【重役】	社長 井上 周 取締 志津野直文 常務 土井 精治 河手 捨二 取締 梅田 雄三 高島 三郎 清水榮太郎 牛尾 健治 南郷 三郎 監査 木間 龍三 木原 通一 八馬 兼介 總數(名) 三三三 三三三 三三三
【大株主】	山陽中央電氣 三〇〇,〇〇〇圓 早川電力 三〇〇,〇〇〇圓 牛尾合資 三〇〇,〇〇〇圓 鳥取電燈 三〇〇,〇〇〇圓
【事業規模】	電力供給 三〇〇,〇〇〇圓 電燈供給 三〇〇,〇〇〇圓
【投資所出資】	鳥取電燈 三〇〇,〇〇〇圓 山陽商事 三〇〇,〇〇〇圓 牛尾健治 三〇〇,〇〇〇圓
【資本異動】	十年六月二日五拂込徴收、 十一月六日五拂込増資三〇〇,〇〇〇圓

【資産負債】	十一月 五十一月 十一月
株主資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
社債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
使用總資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【收支】	十年上 十一年上 十一年下
収入	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
【利益】	三月二十日調 七分 三月二十日調 七分 三月二十日調 七分
【名義書換】	十錢 新券交付附三十錢

日本海電氣株式會社

(本社) 富山市櫻橋通一(電富山二六一)
(出張所) 東京市麹町區丸の内一(帝國生命館内)(電丸ノ内、九九)

【記念配當】去る十一月期は當社創立滿四十週年に當るので、普通配當八分の外に、記念配當六分を付けた。勿論、記念配當は五ヶ月期には落ちて、普通配當八分に戻すものと見られる。そのほか去る二月一日に第一新株、第二新株とも十二圓五十錢宛、總額四百六萬圓の拂込を徴収した。色々株主に酬ひてゐる譯である。

【業績】十一月期業績は取り立て、言ふ程のことではない。利益金は百六十一萬三千圓で、前期及前年同期に較べて大差なく、利益率も一割三分四厘となつて、これ亦前期に比し二厘、前年同期に較べて一厘を向上したに止まる。従つて記念配當とも一割四分の配當を付けた爲に、社内保留率はマイナスになつてゐる。其の限り、十一月期の決算は全く餘裕がないが、然し固定資産償却は四十萬圓を續けたから、償却状態は悪くない。

【將來性】當社は補給用火一萬三千キロを建設しつゝあり、これは明年中に完成する豫定だ。其の爲に前記の拂込を徴収したのだが、更に多角經營化に進みつゝあるので、其の點は注目してよい。日本曹達と提携してステープル・ファイバー事業に進出するのが一つ、他の一つは化學工業への進出だ。下掲表にもある様に既に種々な事業に手を出してゐるが注目を要する。

【設立】	明治三十一年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈、電力及瓦斯供給
【資本金】	公稱 三、〇〇〇、〇〇〇
【株主名】	第一新株 〇、〇〇〇、〇〇〇 第二新株 〇、〇〇〇、〇〇〇
【役員】	社長 山田 昌作 取締役 深尾 貞 常務 新田 興一 監査 藤野 右衛門 取締役 谷 欽太郎 中田 清兵衛 橋爪 謙太郎 青木 善四郎 島山 小兵衛 馬場 正治
【株主名】	十年上 十年下 總數(名) 七、〇〇〇 七、〇〇〇
【大株主】	十二銀行三、〇〇〇 金田又五郎門元、七〇〇 馬場 正治三、〇〇〇 金澤野村、〇〇〇 田田元吉郎七、〇〇〇 運沼安太郎七、〇〇〇 橋爪合名七、〇〇〇 山田 昌作七、〇〇〇
【事業規模】	發電所出力(水力) 三、二〇〇キロ 供給區域 富山縣、石川縣、新潟縣
【事業成績】	十年上 十年下 電燈收入(千圓) 三、三三三 三、三三三 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力収入(千圓) 三、三三三 三、三三三 買入電力(千圓) 三、三三三 三、三三三 瓦斯供給(千圓) 三、三三三 三、三三三
【投資會社】	黒部川電力、小松電氣、風 至電氣、日本カーバイド工業、富山電氣 鐵道、日露アルミニウム、果材紡績其他
【資本異動】	十二年一月第一、二新株各一 二圓五拂込徴収
【資産負債】	十一月 五十一月 十一月 株主資本 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 外部負債 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 借入金 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 使用總資本 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 固定資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 流動資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 現金預金 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【支拂】	十年上 十年下 十年上 十年下 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	十二月 三月二十日 三月二十日 時價 新△五五 利 七分二厘 時價 新△七〇 利 五分九厘
【名義書換】	五錢【新券交附】二十錢

帝國電力株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座四丁目三(電京橋 三五七)
(營業所) 函館市東雲町二二八(電函館一、九〇)

【十一月期業績】昨年十一月期は利益金百九萬一千圓、利益率一割二分七厘を挙げた。前期に較べて利益金は六千圓の減少、利益率は一厘の低下だが、前年同期に較べると利益金は四萬五千圓、利益率は五厘の向上である。順調な業績と言つてよい。函館市の復興事業が續き、また金鑛、硫化鑛、其他の鑛産景氣で電燈電力収入が増加しつゝあるためだ。即ち電燈収入は餘り伸びなかつたが、電力収入は四十萬三千圓となつて、對前期三萬六千圓、對前年同期二萬三千圓のそれぞれ増加で、悪くない。

【今來期】今後と雖も差當り斯うした業績に變化を起す様な事情はないから、依然一割二、三分見當の利益率を挙げ、現行八分配當を動かす様なことはないだらう。内容的に言つても、當社は外部負債が著しく少なくて、全資本を殆ど自己資本で賄つてゐることは電燈電力會社としては珍らしく、且つ固定資産償却の如きも近年は大分良くなつて來た。例の函館市民との爭議が生んだ事業未収入金は、大分減つて來た。

【當社の問題】函館市の買收問題は何時解決が付くか知れない。當社としても不安なことだが、やがては兩者間で妥協せねばならぬ問題であらう。

【設立】	明治三十九年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈、電力供給、電燈運轉
【資本金】	公稱 六、〇〇〇、〇〇〇
【株主名】	新株 三、〇〇〇、〇〇〇 舊株 三、〇〇〇、〇〇〇
【役員】	會長 穴水 熊雄 取締役 岡田伊太郎 取締役 石津 龍輔 監査 杉浦 遠藏 渡邊又四郎 岡野 義夫
【株主名】	十年上 十年下 總數(名) 一、二〇〇 一、二〇〇
【大株主】	早川電力(元) 北電興業 元、〇〇〇 北海電力 元、〇〇〇 穴水興業 七、〇〇〇 道南電氣 三、〇〇〇 穴水興業 七、〇〇〇 有隣生命 九、七三三 鳩山一郎 九、七三三
【事業規模】	發電所出力(水力) 三、二〇〇キロ 事業成績 十年上 十年下 電燈收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力収入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力供給(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資會社】	道南電氣、早川電力、山中電燈、 資本異動
【資産負債】	十一月 五十一月 十一月 株主資本 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 外部負債 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 借入金 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 使用總資本 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 固定資産 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 流動資産 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 現金預金 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【支拂】	十年上 十年下 十年上 十年下 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 支拂 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	十二月 三月二十日 三月二十日 時價 新△五五 利 七分二厘 時價 新△七〇 利 五分九厘
【名義書換】	五錢【新券交附】二十錢

北海水力電気株式会社

(本社) 札幌市大通東一ノ二
(出張所) 東京市麹町區有樂町三信ビル(電報掛) 二五七

【十ヶ月業績】去る十ヶ月は前期及前年同期と殆ど變化のない業績を示した。即ち利益金は百五十三萬五千圓で、前期に比し五千圓、前年同期に比し十九萬五千圓の増加であつたが、利益率は一割四分一厘となつて對前期一厘の向上、對前年同期三厘の低下である。前年同期に較べて利益金が増加してゐるにも拘はらず、利益率が低下してゐるのは、一昨年十一月に三百十一萬圓の拂込を徴収して、資本負擔が増した爲である。

【今來期】更に昨年十一月に再び同額の拂込を徴収したから、又此の資本負擔が増加する。尤も此の四ヶ月は、利益金が増加する筋合にある。即ち建設中だつた藻岩発電所一萬二千キロが完成したので、これが業績に寄與する様になる。假りにキロ當り五十圓の収入増加としても半期六十萬圓の収入が増加し、支出を差引いても四十萬圓見當の増益となるだらう。然し之が九々利益増加となるのは十ヶ月からであつて、四ヶ月は、資本負擔増と相俟ち、利益率の向上は云ふに足るまい。

【拂込徴収】それに、右の様に利益が増しても、増配は餘り期待出来ない。餘裕が加つて來れば、次ぎ次ぎに拂込をとつて借金を返済する方針と見られるからである。

【設立】	大正十五年十一月	【株主数】	三、三三三
【決算期】	四月、十月	【役員】	社長 藤原銀太郎 取締役 高田 直屹 専務 櫻井久我治 足立 正 取締役 大橋新太郎 田中 治朗 寺田 省三郎 濱田 東昭 板谷 宮吉 監査 遠藤 國明 岡崎 久太郎 一柳 貞吉 大瀧 英太郎 田中 傳太 村田 不二三 渡邊 道太郎 高島 菊次郎 十一年上 一、六五五 十一年下 一、六五五
【事業】	電燈、電力供給	【大株主】	王子 三三三、三三三 遠藤 石太郎 八、〇〇〇 第一生命 二、〇〇〇 三井生命 三、〇〇〇 藤原 合資 八、〇〇〇 平井 國英 七、〇〇〇 板谷 宮吉 七、〇〇〇 村田 不二三 五、〇〇〇
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇 拂込 一〇、〇〇〇	【事業成績】	供給區域 札幌市、小樽市外十八郡 電燈數(千燈) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 電力(千キロワット) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 収入(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 支出(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 同收入(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇
【投資會社】	札幌運送、樺太電氣、東洋電氣、定山溪鐵道、帝國電力、其他	【貸付】	十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇
【資本異動】	十一年十一月五日拂込徴収	【株主資本】	十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇

福島電燈株式會社

(本社) 福島縣福島市置賜町七〇(電二七〇)

【配當復活】去る十一月に愈々特望の配當を復活した。それも當初は四分と豫定してゐたが、五分の配當とした。周知の様に前社長の不正手形三百七十萬圓の整理が既に前期に於て殆ど完了し、業績は依然として良好だつたからである。

【業績】即ち十一月期の利益率は一割二分八厘で、五分配當をしても社内保留率は六割五厘を示したから、決算には餘裕があつた。尤も前期の利益率は一割五分五厘であつたから、前期に較べると二分七厘の低下である。利益金で云へば九十萬四千圓となり、前期に比し四萬七千圓を減じたことになる。が、併し此の減益の理由は、營業成績の悪化を物語るものではなく、前期収入には鹽那電氣合併の關係で、舊鹽那電氣の電燈、電力収入が七ヶ月分入つてゐた爲に、斯う云ふことになつたのだ。つまり去る十一月期の決算報告が當社の平常的な業態を示すわけであり、毎半期九十萬圓見當の利益が平常的のものだ。

【前途】去る三月七日一千百萬圓の舊社債(利率年五分)と長期借入金三百萬圓を合せて一千四百萬圓の低利社債(利率四分二厘)と借替へた。此の利拂軽減、電力供給増加、新水力の建設等、前途興味があり、現行配當は安泰だ。

【設立】	明治二十八年十月	【株主数】	三、三三三
【決算期】	五月、十一月	【役員】	社長 西形吉次郎 取締役 太田秋之助 専務 鈴木 文七 監査 木村重三郎 取締役 山森佐太郎 神谷 啓三 濱田 忠喜 岩澤 岩次郎 近藤 光三 中井 秀夫 櫻木 甲 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇
【事業】	電燈、電力供給	【大株主】	東北電氣 二、〇〇〇 共同證券 七、〇〇〇 鈴木 文七 六、〇〇〇 親愛證券 四、〇〇〇 加藤 藤太郎 三、〇〇〇 加藤 相秀 三、〇〇〇 西形 吉次郎 二、〇〇〇 角田 兵衛 二、〇〇〇
【資本金】	公稱 一〇、〇〇〇 拂込 一〇、〇〇〇	【事業成績】	水力發電(千キロワット) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 電力(千キロワット) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 収入(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 支出(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇 同收入(千圓) 十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇
【投資會社】	新上山電氣	【貸付】	十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇
【資本異動】	十一年三月鹽那、新田川兩電氣を合併三、〇〇〇千圓増資。五月川、桑折兩電氣を合併六萬圓を増資	【株主資本】	十一年上 一、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇

日立電力株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内三番十五號館(電丸ノ内二四二)
(事務所) 茨城縣多賀郡日立町(電日立館山〇)

【三月期】三月期決算は本稿執筆中には未だ判らないが、恐らく昨年九月期よりは業績が向上するだらう。と言ふのは木戸川水力一萬キロが完成して今年初から動き出した。未だ完成早々だし、三月期は後半三ヶ月が影響されるだけだから、大した期待は持たないが、然し業績向上することは間違ひない。従つて現行一割配當も維持されるだらう。更に今年九月期には、木戸川水力の好影響をまるまる受けるから、一層良くなる。

【拂込徴収】新様にして新發電所が完成し、それが業績に寄與して来れば、やがてまた、拂込徴収が問題になつて来ると豫想される。元來當社は既に充分な償却をしてゐるから、増加した利益金を償却へ廻すといふこともこれ以上余り出来なない。建設資金は大體賄つてあつた様だが、然し株主優遇の意味で、拂込が徴収される方向にある。既に一割といふ配當ではこれ以上の増配も出来なないから、尙ほ更だ。

【償却】償却の状態が良いといふことは、昨年九月月末の固定資産(建設工事假勘定及建設利息を除く)八百七萬三千圓に對し十九萬五千圓の償却をしてゐることと判る。即ち二〇・七ヶ年賦と云ふ優秀なものである。

【設立】	昭和二年九月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電力卸賣
【資本金】	公稱 10,000 株 6,000
【株数】	新(三〇〇) 100,000 舊(三〇〇) 100,000
【重役】	社長 結川義介 常務 玉河久雄 取締役 淺原源七 友田壽一郎 監査 下河邊建二 加藤充記 山田敬亮
【株主数】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 二五三 三五三 二五三
【大株主】	日本産業六、六〇〇 東京田舎名 三、三〇〇 安田生命三、〇〇〇 帝國生命三、〇〇〇 愛國生命六、〇〇〇 田中龍夫三、八〇〇 昭和生命三、〇〇〇 第一衛兵三、〇〇〇
【事業規模】	平均最大供給電力(水力) 一四、四〇〇キ 受電 八、八六六キ
【發電所】	夏井川第一、第二、第三 石岡第一、第二
【買電先】	木戸川發電所 植田電力、大日本電力、 平電力
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 供給電力(キ) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電力收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 購入電力(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 買電料(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【資本異動】	十年十月五〇〇萬圓増資三〇〇萬圓 徴收十年二月三〇〇萬圓拂込徴収

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	六、〇〇〇 七、五〇〇 七、五〇〇
外部負債	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇
固定資産	八、八〇〇 八、八〇〇 八、八〇〇
流動資産	二、七〇〇 二、七〇〇 二、七〇〇
現金預金	二、七〇〇 二、七〇〇 二、七〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【理想配當】	十二年三月期 一割
【利息】	三月二十日調 七分九厘
【名義書換】	十 五 新券交附 五十 五

京城電氣株式會社

(本社) 朝鮮京城府南大門通二丁目(電本局 三〇〇)
(支店) 東京市日本橋區本町博文館ビル(電日本橋 三〇〇)

【増資】當社は現在の資本金一千五百萬圓を半額増資して二千二百五十萬圓とし、四月一日現在の株主に、舊二株に對し新一株を割當て、五月一日に増資新株一株に付き十二圓五十錢の拂込を徴収する。總額百八十七萬五千圓の拂込を徴収する。

【増資の目的】増資の目的であるが、勿論借金の返済ではない。元來當社は殆ど借金を持たず、去る十二月期に於ても株主資本二千九十二萬圓に對し、外部負債百十四萬圓といふ僅かなものだ。然し乍ら斯様に借金をしない主義だから手許は可成り窮屈で、去る十二月末の金銀勘定は十四萬五千圓しかない。そこで、目立つて大きな建設計畫もない様だが、兎に角若干の擴張をやるにしても、直ぐ資金に詰るので、此の際増資をすることになつた譯だ。

【十二月期】去る十二月期の業績は前年同期と大差なく、利益金百五十七萬一千圓、利益率二割九厘を擧げた。配當は一割据置きで、利益金の社内保留率は四割九分一厘である。

【増資後の業績】増資後の拂込資本金は一千六百八十七萬五千圓となるから、現在程度の利益金ならば利益率は一割九分見當になり、現行配當は稍窮屈となる。また元來一割の配當は電氣會社としては高いから増資は減配の前提とも見られぬこともない。

【設立】	明治四十一年九月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	電燈、電力、瓦斯供給、電車、 乗合自動車經營
【資本金】	公稱 15,000 株 100,000
【株数】	新(五〇〇) 100,000 舊(五〇〇) 100,000
【重役】	社長 大橋新太郎 取締役 福島甲子三 事務 武者鍊三 監査 福島行信 常務 見目徳太 監査 福島行信 取締役 藤澤恭三 木本倉二 石坂恭三 木本倉二
【株主数】	十年下 十年上 十年下 總數(名) 一、二六三 一、二六三 一、二六三
【大株主】	第一相 五、六〇〇 大橋本店 五、〇〇〇 朝鮮商銀 七、三〇〇 西川武三郎 六、〇〇〇 朝鮮貯銀 五、〇〇〇 朝鮮信託 五、〇〇〇 高橋株式會社 五、〇〇〇 仁壽生命 四、三〇〇 【事業規模】 供給區域 京城、仁川、 發電力(火力) 龍山 一、〇〇〇キ 唐人里 一、〇〇〇キ
【電氣營業科】	十年下 十年上 十年下 電燈數(千燈) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣收入(圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣自動車 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 電氣自動車 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收入(千圓)】	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【資本異動】	十二年五月七〇萬圓増資第 一回拂込一二〇萬圓徴収の管。

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	十年下 十年上 十年下
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【理想配當】	十二年六月期 一割
【利息】	三月二十日調 四分八厘
【名義書換】	五 新券交附 二十 五

多摩川水力電気株式会社

(本社) 東京市京橋區銀座西四ノ五(電報六九二)

【配當復活】去る十一月期は久し振りで低率乍ら二分配當を復活した。昭和六年十一月期に建設配當を止めてから十期目である。業績も幾らか良くなつて来たから、株主に酬ひた譯だ。

【業績】十一月期の利益は十二萬三千圓となつて、前期に比し三萬八千圓、前年同期に比し七萬六千圓を増加した。利益率は四分四厘で、對前期一分三厘、對前年同期一分七厘の向上である。これは一方に於て、東電へ賣つてゐる電力の収入が増加して来たと共に、他方経費の節減を圖つた爲であつて、電力収入は十九萬八千圓と對前期及前年同期三萬圓餘の増収となり、他方に於て總支出は八萬一千圓と、對前期一千圓、對前年同期一萬六千圓の減少となつてゐる。

【將來性】規模は小さいし、建設費が高い上に今まで殆ど償却をやつてをらぬといふ缺陷がある。が、東京市の小内貯水池建設工事が進行すると共に、地元の當社の電氣も使はれるだらうから追々本式の經營になるだらう。東京市への買収は何時のことか判らぬが、これも當社にとっては大きな問題だ。
【資産内容】が、何しろキロ當り建設費が七百圓にもついでゐるから、償却に力を注ぐ必要あること勿論だ。

【設立】	大正十二年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電力卸賣一般供給
【資本金】	電力卸賣一機供給 公稱 七、五〇〇 拂込 五、五〇〇
【株主】	中島 守利 取締 木村源兵衛 立川 太郎 監査 天野 健吉 村尾 重孝 清水 憲太郎 山崎 龜吉
【大株主】	東電 〇、〇〇〇 對馬 誠也 〇、〇〇〇 大野 朝夫 〇、〇〇〇 京王 電氣 〇、〇〇〇 八巻 弘一 〇、〇〇〇 三木 憲良 〇、〇〇〇 對馬 信三 〇、〇〇〇 中島 守利 〇、〇〇〇 内野 萬藏 〇、〇〇〇 氏川 五郎 〇、〇〇〇 木村源兵衛 〇、〇〇〇 山下 由雄 〇、〇〇〇
【事業所出力】	三田發電所 六、〇〇〇 十口 水川發電所 六、〇〇〇 十口 供給區域 東京府 西多摩郡 山梨縣 北都留郡
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 電燈収入(電) 一、二〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇 供給電力(電) 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 電力収入(電) 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 電力収入(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資会社】	水川電氣

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	五、五〇〇 五、五〇〇 五、五〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	六、五〇〇 六、五〇〇 六、五〇〇
固定資産	六、五〇〇 六、五〇〇 六、五〇〇
流動資産	〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
現金預金	〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 四分九厘
【名義書換】	二十錢【新券交付】三十錢

四國水力電氣株式會社

(本社) 香川縣仲多度津町大字多度津甲四八四(電四〇)

【内容充實】當社は地方電燈電力會社としては、かなり内容の充實した會社である。十一年十一月末使用總資本千九百八十九萬四千圓のうち、株主資本は千九百三十四萬圓に上り、外部負債は只の五十五萬五千圓に過ぎない。而もそのうち利拂を要する借金は長期借入金七千圓に止つてゐる。火力、水力合せた一キロ當り發電設備の平均が二百七十六圓に過ぎないから、固定資産の内容も極めて優良なことが判る。

【成績良好】當社は電燈電力業のほか、電鐵及び瓦斯の兩事業を兼業してゐる。前者は高松市を中心として十六軒七の營業線を持ち、後者は丸龜、高松、琴平等に供給を行ふものである。併し兩者合せて昨年同期の利益金は僅か二萬一千圓だから、業績は矢張り電燈電力業で決せられる。處が此の本業は頗る好調で、昨年同期には百三十六萬圓の利益を挙げた。副業利益と合せて百三十八萬一千圓となり、利益率は一割七分六厘に當つてゐる。これも餘り類のない高率である。

【特配は薄すか】特別配當二分、普通配當一割、合計一割二分と電力會社としては稀に見る高率配當を附けたのも無理もない。併し時節柄特配には勿論持続性はあまい。

【設立】	明治三十一年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈、電力、瓦斯供給、電鐵
【資本金】	公稱 三、九〇〇 拂込 三、九〇〇
【株主】	新(一、七〇〇) 舊(二、二〇〇)
【役員】	社長 山本右衛門 取締役 高橋 正忠 常務 田中 隆 監査 鎌田 太郎 取締役 合田房太郎 監査 武田 謙 藤川 恒貞 武田 謙 藤澤 勲吉 藤田 謙 大西虎之助 藤田 謙
【株主数】	十一年上 十一年下
總数(名)	一、三三三 一、三三三
【事業所出力】	(大少) 一、七〇〇 十口
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下
電燈収入(電) 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇	
供給電力(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
電氣収入(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
電氣乗客(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
瓦斯供給(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
瓦斯供給(電) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇	
【投資会社】	琴平電氣其他
【資本異動】	十一年七月第三回拂込金徴収。

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三、九〇〇 三、九〇〇 三、九〇〇
外部負債	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
借入金	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
使用總資本	一二、八〇〇 一二、八〇〇 一二、八〇〇
固定資産	一二、八〇〇 一二、八〇〇 一二、八〇〇
流動資産	〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
現金預金	〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【收支勘定】	十年上 十一年上 十一年下
収入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 四分九厘
【名義書換】	十錢【新券交付】三十錢

滿洲電業株式會社

(本社) 新京大同街三〇一
(出張所) 東京市麹町區丸の内丸ビル内 (電丸ノ内五〇三)

【十二月期】十二月期決算は利益金三百六十六萬圓を計上した。前期に比し約二十八萬圓を減少し、前年同期に較べると殆ど變化がない。が然し、當社の利益金は固定資産償却、財産除却、特別償却等を差引いたものだ。發送電費、變電費、營業費、總係費等の内で諸償却を落してゐるから、計上利益金だけを見たのでは、本當の成績は判らない。記者の推算では、實際利益は前期に比し、少なくとも百萬圓位は増加してゐる様子である。

【料金値下げ】斯うした良好な成績だから、去る一月一日から可成り思ひ切つた値下げを斷行したのだが、現行六分配當には問題ない。即ち奉天城内、安東舊市街、新京國都區域、新京城内區域、吉林及齊々哈爾の六區域に於て、可成り大幅の料金値下げを行ひ、この結果半期六十五萬圓余の電燈電力收入を失ふが、然し他面にはこれによつて産業開發や電燈使用が刺激されるだらうし、また前述の様なかくれた利益があるから、其のために減配する必要は起らぬと思ふ。

【増資】鴨綠江の開發が滿洲國、朝鮮總督府等々の手によつて愈々具體化して來たし、當社もこれに参加する筈で、それに關聯して増資が具體的に問題となつて來た。近く實現しよう。

瓦斯事業

【自發的料金引下】瓦斯會社に對する商工當局の料金引下げ、配當率低減の態勢は、事業の公共性から見て、當然の事である。最近の傾向としては、各瓦斯會社は當局の意の存するところを汲み、自發的に料金の高いものは料金の引下げを、配當率の高いものは配當率の引下げを斷行しつゝある。各社經營當局が時世の要求に適合すべく努力してゐる跡が窺はれる。東京瓦斯の値下げは、自發的とは言へないが、神戸、京都兩瓦斯會社が、公示熱量の引上げによつて、實質的料金の引下げを行ふほか、更に器具貸付料も引下げ、消費者へのサーアッスに努めることになつた。

【京都瓦斯減配】更に京都瓦斯は、從來の一割二分配當を二分減じて一割とした。これで瓦斯會社中には一割以上の配當をするものはなくなつた。勿論右の減配は別稿にも示す如く、業績低下の爲ではなく、専ら對社會的考慮からなされたものである。

【瓦斯會社の行方】然らば、今後の瓦斯會社の行く可き

途は如何。官的統制強化は俄に實現するものとは思はれない。勿論事業其のもの性質からして公營には他種事業と比較すれば適してゐると言へる。現に横濱がそうだ。従つて公營乃至官營化の可能性は決して無いとは言へないが、之が急に實現するとは思はぬ。現に各社が卒先して自ら料金引下げを行つたり、高率配當を遠慮してゐるのだから、その必要もあるまい。強制的に國營又は公營となるやうな心配は、従つていま問題とするに足らぬ。

【配當並に配當策】料金の實質的引下げで、各社の利益は減少を免れないであらう。然し他方消費量の増加に依つて補はれる部分も相當あることも見逃すべきでない。従つて減益すると言つても大した事はあるまい。尤も、増税を考慮に入れねばならぬが、之がため一層負擔は増加する。然らば減配するかと言ふに、記者はそうは思はない。從來の各社の決算は極めて裕りあるものであつたから、利益處分を少し手加減すれば充分現行配當は維持出来る。それに配當制限的空氣も稀薄になつて來てゐる。各社は現配當を維持するものと見てよい。

【設立】	昭和九年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	電燈及電力供給
【資本金】	株式 10,000,000
【株主数】	1,000
【役員】	社長 吉田 豊彦 副社長 入江正太郎 取締役 温 和 常務 小池 寛 古泉 光男 高橋 仁一 奥村 喜平次 石橋 未一 藤村 徹夫 王 勝之 監査 高橋 買一 取締役 林 金藏 巴 英一 岡村 金藏 谷川善太郎 【株主数】 十一年上 十一年下 【大株主】 三 九 【事業成積】 十一年上 十一年下 【事業成積】 十一年上 十一年下 【電力契約】 十一年上 十一年下 【電力料】 十一年上 十一年下 【合同参加社】 南滿洲電氣、營口水道電氣、北滿電氣、奉天電燈、新京城電燈、吉林電燈、哈爾濱電業局、齊齊哈爾電燈、安東電業 【投資會社】 瓦房店電燈、大石橋電燈、遼陽電燈、鐵嶺電燈、開原電氣、大同電氣、新滿洲電氣、其他共計三五社
【資産負債】	十二年 六十年 十一年 株主資本 10,000,000 10,000,000 10,000,000 外部負債 10,000,000 10,000,000 10,000,000 社債 10,000,000 10,000,000 10,000,000 借入金 10,000,000 10,000,000 10,000,000 使用總資本 20,000,000 20,000,000 20,000,000 固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 投資資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 流動資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 現金預金 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【收支動向】	十年上 十年下 十一年上 十一年下 收入 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 支出 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 利益 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 利益 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【株主】	十一年上 十一年下 利益 10,000,000 10,000,000
【利息】	十二月 三月二十日 時間 五〇分 利息 五分一厘
【名義書換】	【新券交付】

神戸瓦斯株式会社

〔本社〕神戸市海東區相生町五丁目一七二ノ四
〔事務所〕神戸市東區北本町二丁目(電報合字三〇一三)

【業績順調】當社の業績は引續き順調である。十一年下期決算は利益金百五十五萬六千圓で、上期の百五十九萬四千圓に比し三萬八千圓の減益となるが、之は瓦斯賣上が減少したためでは勿論ない。此期の瓦斯賣上総量は二千四百九十二萬三千立方メートルで、之を前年同期のそれと對比すると六%一七の増加を示してゐる。減益は専ら、諸材料騰貴に依る製造費の増加と、擴張過渡期に於ける諸経費の膨脹に依る。利益率二割七厘、配當一割、固定資産償却年限十四ヶ年賦、と決算には少しの無理もない。

【熱量引上其他】ベルベット石鹼賣却に依つて、從來毎期二十萬圓の償却を行つて來た同社勘定の償却が不必要となつたので、當社は之を消費者への奉仕に向ける。公示熱量を此の四月一日から從來の三千七百冠カロリから、四千冠カロリに引上げることにした。即ち含有熱量は八%一だけ多くなる譯だ。更にメートル貸付料も一個に就き五錢の引下げを行ふ。斯くして消費者へのサービス改善が行はれる。

【今後】需要は依然として増加を辿るであらう。炭價昂騰は之に依つて相殺される。一割配當に不安はない。懸案の拂込徴収は諸種の事情で延びくになつたが、速からず實現するものと思ふ。

【設立】	明治三十一年六月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	瓦斯供給、副生物販賣
【資本金】	公稱 100,000 新(三三三) 100,000
【株数】	新(三三三) 100,000
【重役】	社長 小曾根貞松 取締役 長尾 貞吉 常務 藤崎 昇 監査 辰馬 悦蔵 取締役 川西清兵衛 松葉 恭助 瀧川 英一 前田 勇
【株主数】	十一年上 十一年下 總數(名) 三二二 三二二
【大株主】	本小曾根合資會社 〇〇〇〇〇〇 大同生命 〇〇〇〇〇〇 商會 一〇〇,〇〇〇 松島吉左衛門 〇〇〇〇〇〇 第一生命 一〇〇,〇〇〇 朝野報徳會 〇〇〇〇〇〇 辰馬 悦蔵 八〇,〇〇〇 瀧川 武八〇〇〇 十五銀行 七〇,〇〇〇
【事業規模】	一晝夜製造能力(方米) 二六、九六〇 供給區域 神戸市、西宮市、兵庫縣武庫郡の大部分、川邊郡の一部
【事業成績】	十一年上 十一年下 計量器數(個) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 瓦斯供給(方米) 二、四〇〇、〇〇〇 二、四〇〇、〇〇〇 熱炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 破安產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 消費(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【事業能力(方米)】	十一年上 十一年下 製造能力(方米) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【事業成績】	十一年上 十一年下 引用戶數(千戸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 人口數(千口) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 瓦斯製造(方米) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 熱炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 石炭消費(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 副生物() 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【資本異動】	十一年二月五圓拂込徴収 十二年四月三圓五拂込徴収の豫定

【資産負債】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
株主資本	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
固定資産	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
流動資産	四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
收入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【業績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
利益	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 五分七厘 新調 三分八厘
【名義書換】	十錢 【新券交付】二十錢

京都瓦斯株式会社

〔本社〕京都市下京區中堂寺坊城町二三(電下八〇〇一)

【二分減配】當社は本年一月の決算で、ついに從來の一割二分配當を二分減の一割とした。久しく業界最高の配當を續けて來た當社が二分減配して、大阪、神戸、東邦なみの一割配當としたのは注目に値する。

【減配理由】この減配は、何ら業績の悪化によるものではない。業績は却つて好轉を示してゐる。即ち此の期の利益金は百十九萬圓に上り、利益率は二割二分一厘に當る。前數期間の中では最も良い成績だ。減配が減益の爲でないことは明かだ。では何故か。先づ第一に商工省の懇諭と對社會的考慮とを其の主因として挙げねばなるまい。之と共に同業者の勸説のあつた事も見逃してはならぬ。然しそれにも増して當局者をして減配を決定せしめたものは、二・二六事件以來の株價の著しい下落であると云つてよい。株價が下つてゐたから減配も容易に出來た譯だ。

【一割配當安泰】以上の如く減配はしたが、他方株主の利益も大いに考慮してゐる。四月一日を期して新株に對し十二圓五十錢の拂込を徴収することにしたのは全くこのためだ。此の徴収金總額二百萬圓は今後二ヶ年間の擴張費を賄ふに足る。今後は公示熱量の引上げ等で支出も殖へるが、一割配當は安泰。

【設立】	明治四十二年十一月
【決算期】	一月、七月
【事業】	瓦斯供給、副生物販賣
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000
【株数】	新(七七七) 10,000
【重役】	社長 岡田 保 取締役 岡田 保 小泉 修 取締役 内田清兵衛 田中 一馬 取締役 津田榮太郎 登查 田中 一馬 平井仁兵衛 下郷 傳平
【株主数】	十一年上 十一年下 總數(名) 二〇〇 二〇〇
【大株主】	朝香宮家 〇〇〇 仁壽生命 三〇,〇〇〇 豐島牛七三 〇〇〇 津田 三郎 六〇,〇〇〇 第百銀行 八、〇〇〇 六鹿 清治 七、〇〇〇 奥主一郎 六、〇〇〇 第一生命 六、〇〇〇 津田合資 六、〇〇〇 平井同族 六、〇〇〇
【事業規模】	十一年上 十一年下 製造能力(方米) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【事業成績】	十一年上 十一年下 引用戶數(千戸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 人口數(千口) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 瓦斯製造(方米) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 熱炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 炭產出(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 石炭消費(噸) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 瓦斯收入(千圓) 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 副生物() 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【資本異動】	十一年二月五圓拂込徴収 十二年四月三圓五拂込徴収の豫定

【資産負債】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
株主資本	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
固定資産	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
流動資産	四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
收入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【業績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
利益	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 五分七厘 新調 三分八厘
【名義書換】	十錢 【新券交付】五十錢

大多喜天然瓦斯株式會社

(本社) 東京市豊町區有樂町一ノ三(電九ノ内美堂)

【事業】當社の事業は千葉縣大多喜、茂原地方に於ける地底からの天然瓦斯採集並に各工場への販賣とである。當社の強味は、瓦斯がや、多量に發生してから既に十四、五年の歴史を持つ事、學者から七、八十年の壽命があると云はれてゐる事、理研の大河内博士が參觀してゐる事の三である。

【収益期に入る】この天然瓦斯は今迄自社用及び附近工場に販賣するのみだったが、昨年八月天然瓦斯使用の自動車エンジン製作に成功しこれを愈々實用化することとなつた。差當り京成バスがこれに賛しバス二百臺にこれを取附ける。そのための井戸開鑿費、タンク費、ポンペイ(壓縮容器)、壓縮機械費に、昨年増資した優先株十二圓半拂込、合計五十萬圓が宛てられる。諸般の準備は十一月末迄に完成し、その曉にはこの第一期擴張だけで二期二十三、四萬圓の利益が豫想されてゐる。利益率一割三分余だ。

【今期増配率】今上期は勿論まだ利益少く、僅に投資勘定(千葉天然瓦斯)からの配當金が増すだけだから増配は二分が精々だ。

【警戒點】瓦斯發生は必ず六、七十年の壽命を有するはと限りぬので、經營者は銷却を多くする豫定であると云ふ。多少利益金が殖えても大幅増配は期待されぬ。

【設立】	昭和四年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	天然瓦斯の供給
【資本金】	公稱 3,000,000 拂込 3,000,000
【株数】	新(100) 30,000 舊(100) 30,000
【重役】	專務 林達賢一郎 取締役 手島 鐵司 取締 山野政太郎 井田 榮造 岩崎恒二郎 安藤 兵部 早川久右衛門 淺見 勇 豊田 秀實 矢野 又吉 大河内正倫
【株主数】	十年下 102 十年上 102
【大株主】	古門 恒彌 400 安藤 兵部 315 簡井市太郎 280 早川久右衛門 200 手島 鐵司 200 林達賢一郎 200 新倉多太郎 100 岡 秀實 100 井田 榮造 100 東京ライオン 100 金子 房枝 100 井井右衛門 100
【事業規模】	瓦斯井 高井 工場所在地 千葉縣茂原 大多喜 一ノ宮 國吉
【投資勘定】	製造品は全部千葉天然瓦斯へ販賣す。 【資本勘定】 千葉天然瓦斯 【資本異動】 十年三月三〇萬圓増資、第一 回三圓半拂込徴収、

【資産負債】	十一年五月十一日
株主資本	3,000,000
外部負債	3,000,000
借入金	3,000,000
支拂手形	3,000,000
使用總資本	3,000,000
固定資産	3,000,000
流動資産	3,000,000
現金預金	3,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上
収入	1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000
【業績】	十年下 十年上
利益	1,000,000 1,000,000
【株價】	高値 安値
十一年	100
十一年	100
十一年	100
【豫想配當】	十二年五月期 二分
【利】	三月二十日調 二分
時價	五二
【名義書換】	五二 利二分八厘
【新券交附】	十五二

南滿洲瓦斯株式會社

(本社) 大連市西通一七(電八六)

【上期】本年上半年決算は三月末を以て締切られたが、當期の成績も引續き良好であつた。例へば二月下旬に於ける瓦斯供給設備戸数は六萬七千餘戸で、前年同期に比し七千餘戸、前期末に比べると約三千九百戸の各増加、また二月中の瓦斯賣上量も對前年同期一割の増加を示した。決算發表前のため収益の詳細は尙不明であるが、八分配當の持續には些かの懸念もない。

【前途】寧ろ一、二分の増配も可能であるが、増配は當分行はれない見込だ。然し當社には將來増資が豫想せられる。當社の事業地の内、殊に新京、鞍山などは滿洲に於ける所謂新興都市で、今後の發展に期待すべきものあり、また二、三年後には當社の手で哈爾濱に瓦斯供給事業の創設が爲される見込だから、彼は擴張の爲の事業資金を必要とするのである。増資の時期は無論確定してゐる譯ではないが、前途の好材料と見て置いてよい。

【再賣出し】當社株式はもと全部を滿鐵が保有してゐたが、去年十二月滿鐵は十萬株を開放し、内五萬株を十圓のプレミアム付の六十圓で公募した。滿鐵では近く更に幾分の再賣出しを行ふ模様である。現在の株價六十七圓半、利週六分を標準に賣出價格が決定されるとしても、好個の投資物と云ふべきである。

【設立】	大正十四年七月
【決算期】	三月、九月
【事業】	瓦斯製造販賣、礦生物精製
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新(100) 100,000 舊(100) 100,000
【重役】	社長 白濱多太郎 常務 志村 徳造 取締役 三浦 又三 齊藤 勲七 監査 富田 租 取締 宮澤 惟重 榎本 壽
【株主数】	十年下 1,133 十年上 1,133 總數(名) 2,266
【大株主】	南滿洲鐵道 2,000,000 仁壽生命 6,000,000 滿洲銀行 5,000,000 白濱多太郎 3,000,000 日本生命 3,000,000 大同生命 3,000,000 愛國生命 3,000,000 第一生命 3,000,000 帝國生命 3,000,000 明治生命 3,000,000 志村 徳造 3,000,000 安田生命 1,000,000
【事業規模】	一晝夜製造能力(立方尺).....三三 供給區域 大連、鞍山、奉天 安東、新京
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上
設備戸數	1,133 1,133 1,133 1,133
賣上高	1,133 1,133 1,133 1,133
瓦斯收入	1,133 1,133 1,133 1,133
製造費	1,133 1,133 1,133 1,133
營業費	1,133 1,133 1,133 1,133

【資産負債】	九十月三十一日 九十一月
株主資本	10,000,000 10,000,000
外部負債	10,000,000 10,000,000
借入金	10,000,000 10,000,000
支拂手形	10,000,000 10,000,000
使用總資本	10,000,000 10,000,000
固定資産	10,000,000 10,000,000
流動資産	10,000,000 10,000,000
現金預金	10,000,000 10,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上
収入	1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000
【業績】	十年下 十年上
利益	1,000,000 1,000,000
【株價】	高値 安値
十一年	100
十一年	100
十一年	100
【豫想配當】	十二年五月期 二分
【利】	三月二十日調 二分
時價	五二
【名義書換】	五二 利二分八厘
【新券交附】	十五二

京成電気軌道株式会社

(本社) 東京市本所區向島押上町二〇三番地(電機田六〇)

【食料品工業進出】 舊藤千葉縣藤張町に工場敷地一千坪を借受け、水産加工及化学薬品工場を第一、六工場に分けて逐次建設を企圖す。既に第一番加工工場は昨年十二月落成し製品は市販中だが、一ヶ月四萬餘圓の賣上だと云ふ。此計畫の成否はまだ判らぬが前途は好望される。右の建設資金は全部で二十萬圓位だし、先般成立せる社債の一部で賄へるから資金には心配ない。

【十一年下期】 昨年同期の本業及副業利益を前年同期に比較すると、電車部は五十六萬六千圓で二千圓減、自動車部は九萬六千圓で二萬五千圓増、電燈電力部は三十四萬一千圓で七萬七千圓増、土地家屋遊園地は十一萬一千圓で六千圓減となつてゐる。結局合計して九萬四千圓増の百二十二萬三千圓、對拂込資本利益率九分六厘となり、七分配當を据置いた。

【前途】 主業の電車業は省線電化による壓迫も底を入れ収益期に入りつつある。更に土地の賣却も激増し、電燈電力も昨年十一月始の電燈料金引下は影響なく、最近共給區域には工場移轉、新設が行はれ、他方常磐線電化で今後増収の筋合にある。それに本年成田山の一千年祭、投資會社成田鐵道の復配見込の好材料がある。前途に増税もあるが、現行七分配當に餘裕を加へると見てよい。

【設立】	明治四十二年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電線運轉業、電燈電力供給、 乗合自動車業、食料品工業
【資本金】	公稱 五〇,〇〇〇 新 三〇,〇〇〇
【株数】	新 (五〇) 〇〇〇 舊 (七五) 〇〇〇
【重役】	社長 本田貞次郎 取締役 望月軍四郎 専務 後藤 國彦 監査 板谷宮吉 取締役 吉田 秀彌 監査 井上敬次郎 高梨 博司 八木 逸郎 津田 昇吉 後宮新太郎 大株主 (名) 十一年上 十一年下 成田鐵道(公) 後藤 國彦(公) 河野 通(公) 野村生命(公) 千葉合同銀行(公) 東電證券(公) 高梨 博司(公) 有隣生命(公) 大正生保(公) 津山 昇吉(公) 【事業規模】 上野-成田、津田沼-千葉 押上-青砥、高砂-金町 【乗客数】 (千人) 十一年上 十一年下 同運賃 (千圓) 三、三〇〇 三、二〇〇 電灯数 (千灯) 一、三〇〇 一、三〇〇 電力收入 (千圓) 八、〇〇〇 八、〇〇〇 電氣收入 (千圓) 八、〇〇〇 八、〇〇〇 自動車 (人) 三三三 三三三 【投資會社】 渡良瀬水電、成田鐵道

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
固定資産	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年
收入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 七分 三月二十日調 六分八厘 三月二十日調 六分八厘
【名義書換】	十 十 十

王子電気軌道株式会社

(本社) 東京市豊島區西巢鴨三ノ九六五(電大塚四六六)

【増資】 去る二月一日一千萬圓を増資して公稱資本金二千四百萬圓となつた。増資新株は二十萬株で、内十九萬六千株を二月一日現在株主に十對七の割合で割當て、第一回拂込一株五圓は二月二十日株式引受證據金を振替充當した。増資の目的は直接的には社債(昨年同期末六百五十萬圓、利率四分五厘)の返済だが、業績好調を機會に自己資本に振替へる堅實經營策と、同時に株主に酬ゆる意味を含んでゐる。

【昨年同期】 十一年下期の収入は、軌道、電燈電力、自動車、土地の四事業を合せ二百九十八萬一千圓で、前年同期に比し二十六萬八千圓の増加である。支出は二百七萬圓で差引九十一萬圓の利益であつた。對拂込利益率一割六分で前年同期と變化なかつたのは、拂込金が殖へたからである。増益の原因は電燈電力業の好調と、電車業の回復のためである。

【今後】 最近郊外道路網の完成で、當社供給區域に新工場の建設が殖へるから、電燈電力業、電車業とも増収は必至だ。増資による配當金の増加は問題ない。尤も電燈電力料金値下が、東京市内に及べば打撃は輕くない。公共事業で高率配當をしてゐる故、或は減配するかも知れぬが現状から見ると一割配當は安泰だ。

【設立】	明治四十三年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電線運轉業、乗合自動車業、 電燈電力供給
【資本金】	公稱 四〇〇,〇〇〇 新 (五〇) 〇〇〇
【株数】	新 (五〇) 〇〇〇 舊 (七五) 〇〇〇
【重役】	社長 本間 利雄 取締役 新井 章治 常務 小平 保造 取締役 金光 義邦 取締役 佐々田 徳 監査 宇都宮政市 後藤 國彦 監査 萩原 幸吉 河野 通(公) 十一年上 十一年下 大株主 (名) 十一年上 十一年下 東電證券(公) 大正生保(公) 帝國生命(公) 日本教育生命(公) 宇都宮生命(公) 佐々田合名(公) 【事業規模】 營業行程 一六、五五軒 三ノ輪-早稲田、面影橋-早稲田、 王子-駒前-赤羽 【事業成績】 十一年上 十一年下 電車乗客 (千人) 七、〇〇〇 七、〇〇〇 同運賃 (千圓) 三、三〇〇 三、二〇〇 同運賃 (千人) 一、三〇〇 一、三〇〇 同運賃 (千圓) 七、〇〇〇 七、〇〇〇 電燈数 (千灯) 一、三〇〇 一、三〇〇 電力收入 (千圓) 八、〇〇〇 八、〇〇〇 電氣收入 (千圓) 八、〇〇〇 八、〇〇〇 【投資會社】 東京環状乗合自動車、東京 高速鐵道 【資本異動】 十一年十二月一七圓五拂込 【増収】 全額拂込済一千萬圓増資十二年 二月五圓拂込徴収

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇 四〇,〇〇〇
固定資産	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
【收支勘定】	十一年上 十一年下 十一年
收入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
【利益】	三月二十日調 七分 三月二十日調 六分八厘 三月二十日調 六分八厘
【名義書換】	十 十 十

京王電氣軌道株式會社

(本社) 東京市四谷區新宿三ノ四八(電四谷三三一)

【經營權移動】去る一月中旬、大正生命名義の當社株式は大日本電力に肩替りされた。其の結果、大日本電力系は當社株式のうち三分の一以上を所有して、大日本電力専務水熊雄氏が社長に就任し、完全に當社の支配權は大日本電力に移行した。經營者は變更しても、經營方針には格別の變化はない。が、従前より積極化せる經營策に出ていることは事實である。

【成績】昨年八月の電車乗客料金の値下げで昨年同期は軌道収入が約、電氣供給事業の好調にもかゝらず、利益總計は五十二萬八千圓で、前年同期に比し一十圓の増益に止まり、對拂込資本利益率一割三厘となつた。しかし今期は、二月末迄の三ヶ月概算で總収入は、前年同期に比し六萬九千圓増の一百五萬四千圓程である。期全體では相當の増益を見込まれるが、擴張工事を控へてゐること故、現行七分配當は据置きだらう。

【地下線計畫】當局者は四谷新宿起點より天神橋間一・三杆の地下線化と、起點ビルの擴張とを計畫してゐる。着工時期は具體化せぬが、こゝ一、二年だらう。擴張資金は兩方で七、八百萬圓見當だが、借入金で賄ひ一部は拂込を徴収する意圖だ。擴張過度期の業績が問題となるが、七分配當は何か持續して行けやう。

京濱電氣鐵道株式會社

(本社) 川崎市堀川町二九(電川崎 三〇七)
(事務所) 東京市芝區高輪南町一七(電高輪 二〇九)

【十一年下期】昨年十一月決算では、利益金五十一萬三千圓(利益率七分九厘)擧げ、五分配當を据置いた。社内保留率は三四%だから、従前に較べて可成り裕りのある決算であつた。

【今期良好】今年五下期の營業狀態は極めて良好だ。即ち昨年十二月—本年二月の乗客収入を前年同期と比較すると、電車は六萬九千圓(一二%)、自動車は四萬一千圓(三六%)の各増加で、期半ばにして既に、十一萬圓餘の増収振りである。之は舊臘末から實現を見た品川—上大岡間の急行運轉で、省線利用客を相當吸収した爲めと見られる。而して三月も續いて好調の模様だから、結局上期乗客収入は、前年同期に比し二十二萬圓(一四%)以上の増収とならう。

【一分増配可能】尤も収入増に伴れて經費も多少増滿するし、四月からガロン當り五錢のガソリン消費税が實施されるから若干打撃となる。併し最近の収入増の程度は、之等の支出増を賄つて餘りあると共に、今期から子會社湘南電鐵の配當(三分)收入三萬八千圓が入つて来る。斯う見て来ると上期豫想利益は、對前期一三%増の五十八萬圓(利益率九分弱)見當に上り、一分増の六分配當は充分可能となる。

【設立】	明治四十三年九月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	電氣運輸業、電燈電力營業	【資本金】	公稱 三、〇〇〇、〇〇〇 新 三、〇〇〇、〇〇〇
【株主】	新 三、〇〇〇、〇〇〇	【役員】	會長 井上篤太郎 社長 穴水熊雄 専務 正太郎 常務 渡邊孝 取締役 田中榮、相談、木村篤太郎、山下又三郎
【事業規模】	新 三、〇〇〇、〇〇〇	【大株主】	大正生命 〇、〇〇〇、〇〇〇 北電興業 〇、〇〇〇、〇〇〇 大日本電力 〇、〇〇〇、〇〇〇 平沼久三 〇、〇〇〇、〇〇〇 帝國生命 〇、〇〇〇、〇〇〇 内田信吉 〇、〇〇〇、〇〇〇 山口恒吉 〇、〇〇〇、〇〇〇 井上篤太郎 〇、〇〇〇、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下	【投資會社】	南武鐵道、東京高速鐵道、高尾遊覽自動車、甲州街道聯合自動車、多摩川水力電氣、京王砂利
【株主】	十年下 十一年上 十一年下	【負債】	株主資本 三、〇〇〇、〇〇〇 外部負債 九、〇〇〇、〇〇〇 社債 一、〇〇〇、〇〇〇 借入金 一、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	十年下 十一年上 十一年下	【配當】	十年下 十一年上 十一年下
【名義書換】	十 十 十	【時價】	三月二十日調 五分七厘 三月二十日調 五分六厘

【設立】	明治三十一年三月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	電氣運輸業、自動車營業	【資本金】	公稱 一、〇〇〇、〇〇〇 新 一、〇〇〇、〇〇〇
【株主】	新 一、〇〇〇、〇〇〇	【役員】	會長 望月軍四郎 社長 生野 團六 専務 藤田 成亮 常務 小川 太郎 取締役 原 善一郎、井坂 清助、總數(名) 一、七三三
【事業規模】	新 一、〇〇〇、〇〇〇	【大株主】	日本鐵道 〇、〇〇〇、〇〇〇 太平洋生命 〇、〇〇〇、〇〇〇 望月軍四郎 〇、〇〇〇、〇〇〇 望月太郎 〇、〇〇〇、〇〇〇 日清生命 〇、〇〇〇、〇〇〇
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下	【負債】	株主資本 一、〇〇〇、〇〇〇 外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇 社債 一、〇〇〇、〇〇〇 借入金 一、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	十年下 十一年上 十一年下	【配當】	十年下 十一年上 十一年下
【名義書換】	十 十 十	【時價】	三月二十日調 五分七厘 三月二十日調 五分六厘

湘南電気鐵道株式會社

(本社) 横浜市區金町三ノ一四(電長者町 三三三)
(事務所) 東京市芝區高輪南町一七 (電高 輪 三三九)

【十一年下期】昨年十一月期は利益金三十四萬五千圓(利益率七分五厘)を挙げ、餘裕裡に三分配當を復活した。

【十二年上期】来る五月締切の今上期も續いて好調を辿つてゐる。去る二月末迄の三ヶ月間の成績を前年同期と較べると、電車は三萬七千圓(一〇%)、自動車は五萬一千圓(一五%)の各増加である。而して此の増收傾向は三月以降も持續されると見られるから、上期豫想利益は結局三十八萬圓(利益率八分三厘)見當に上り、前二期の利益率五分四厘及び七分五厘に比し著しい増益となる。斯くて一分程度増配は當然問題化して来る譯だ。

【増益の原因】増益の原因は、(一)京濱線の急行運輸の好成績なること、(二)沿線が工場地帯化したこと、(三)其の結果定期乗客が著しく増加したこと、(四)二月から實施した料金の値下が、案外早く從來にも増して乗客を吸収し得たこと等に基くのである。

【今後】尤も四月からガロン當り五錢の消費税が課せられるから、當社の支出増は、半期一萬四千圓だ。併し之も當社自動車収入の-%七に過ぎず、大したものではない。此の際寧ろ注目すべきは、京濱地下鐵の完成を待つて、再來年秋頃實現される淺草-浦賀間の直通運轉だ。之は當社將來の樂觀材料である。

目黒蒲田電鐵株式會社

(本社) 東京市渋谷區大和田町一番地(電話青山 五五五)

【成績】昨年同期の業績は前年同期に比し、三千圓の減益となり對拂込資本利益率は一割一分六厘で、前年同期利益率一割一分七厘に比し、一厘の低下となつた。それに配當一割を据置いたのだから、窮屈な決算たること勿論だ。本年上期は二月末迄の三ヶ月間の概算では、鐵道業に於いて六十八萬一千圓、對前年同期八萬五千圓程の増收となつてゐる。然し其他目星しい兼業の電燈電力、田園都市及び乗合自動車の各業も大した増收は望めそうにもないから、矢張り大きな期待は持てない。尤も五反田に建設中のビルディングは、本年二月より白木屋に貸借することになつた。その収入も加はるから一割配當の踏襲はやるだらう。

【前途】當社最近の業績は下表に示す如く伸び悩みの傾向にある。即ち當社線の沿線は既に開發し盡された観があるからで、只自然的發展を持つのみだ。尙ほ將來にも何等好材料は無い。打開策を構するとすれば、結局東横及び玉電と合併して三會社一體の經營策を採るべきだが、それも東横及玉電が七分配當の現在では實現も困難である。

【配當】今後現行一割配當の繼續は出來ぬことはないが、現状から見て八分が至當、株價の高利廻にあるのもそのためだ。

【設立】	大正十四年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電鐵運輸自動車營業
【資本金】	公稱 二,〇〇〇,〇〇〇 拂込 九,〇〇〇,〇〇〇
【株主】	優 (五〇〇) 普通 (五〇〇) 三,〇〇〇,〇〇〇
【役員】	會長 望月軍四郎 専務 生野 剛六 取締役 中川登代吉 取締役 野村龍太郎 稲垣平太郎 近藤 賢二 監査 大倉 榮馬 谷口 守雄 澤崎 健吉 原 善一郎 赤司初太郎
【株主】	十年下 一,〇〇〇,〇〇〇 十年上 一,〇〇〇,〇〇〇 總數(名) 一,七三三
【大株主】	東京電氣鐵道(株) 東京鐵道(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 京濱電氣鐵道(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 湘南電氣鐵道(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 望月軍四郎(株) 大川合名 〇,〇〇〇,〇〇〇 田中百秋(株) 其浦 宗吉 〇,〇〇〇,〇〇〇
【事業概況】	營業概況 橫濱-浦賀、金澤-返子 營業成績 十年下 十年上 十年下 電車部 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 自動車部 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 乗客數(千人) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【資本異動】	十年七月至萬圓買入減資 十一年二月湘南バス合併萬圓増資
【關係會社】	京濱電鐵の子會社
【資産負債】	十一年 五十一月 十一年 十一年 株主資本 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 借入金 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 支拂手形 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下 收入 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 支出 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 利益 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 利益 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【株價】	高値 安値 新高 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【豫想配當】	十一年五月期 一分
【利息】	三月二十日調 六分九厘 三月二十日調 六分五厘
【名義書換】	十錢【新券交付】五十錢

【設立】	大正十一年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電鐵運輸業、電灯電力供給、 乗合自動車營業
【資本金】	公稱 一,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一,〇〇〇,〇〇〇
【株主】	新 (五〇〇) 一,〇〇〇,〇〇〇 舊 (五〇〇) 一,〇〇〇,〇〇〇
【役員】	第三新 (五〇〇) 〇,〇〇〇,〇〇〇 専務 五島 慶太 取締役 丹羽 武朝 常務 藤原三郎 監査 藤原 秀雄 取締役 緒原 圭造 小川善太郎 中川 正左 石川 次郎 總數(名) 一,八二二
【大株主】	服部玄三(株) 第一生命(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 藤原圭造(株) 目黒蒲田(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 大正生命(株) 藤原三郎(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇 帝國生命(株) 藤原三郎(株) 〇,〇〇〇,〇〇〇
【事業概況】	營業概況 目黒-蒲田、五反田-蒲田 營業成績 大井-二子玉川、野ヶ谷-新奥澤 乗客數(千人) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 同收入(千圓) 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【資本異動】	十年七月至萬圓買入減資 十一年二月湘南バス合併萬圓増資
【關係會社】	京濱電鐵の子會社
【資産負債】	十一年 五十一月 十一年 十一年 株主資本 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 外部負債 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 借入金 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 支拂手形 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 使用總資本 八,〇〇〇,〇〇〇 八,〇〇〇,〇〇〇 固定資産 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 流動資産 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支動向】	十年下 十年上 十年下 收入 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 支出 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 利益 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 利益 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【株價】	高値 安値 新高 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 十一年 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇 〇,〇〇〇,〇〇〇
【豫想配當】	十一年五月期 一分
【利息】	三月二十日調 六分九厘 三月二十日調 六分五厘
【名義書換】	十錢【新券交付】五十錢

東京横濱電鐵株式會社

(本社) 渋谷區大和田町一番地(電神山 芝芝一四)

【倍額増資】當社は昨年十一月倍額増資を決定し公稱資本金三千萬圓となつた。増資新株第一回の拂込は三月一日に一株十圓宛三百萬圓を徴收した。この三百萬圓は支拂手形一千八百餘萬圓の一部返済に當てられる。今回の増資は内容整備の意味もあるが、實は玉電合併後の諸積極政策を進める準備工作である。

【今後の諸計畫】玉電合併は時日の問題だが、合併後は第一に東京高速と東横、玉電兩線の聯絡に依る東横ビル擴張計畫がある。第二は二幸ビルの擴張、第三は澁谷―祐天寺線と祐天寺―小田急成城學園線の新線計畫である。右の資金は通計大約千四、五百萬圓だが、必要に應じ借金で賄ひ漸次成績向上と共に拂込を徴收して、自己資本に振替へる豫定だ。

【合併後の配當】當局者は合併を機會に八分配當を行ひたい心算である。東横は最近二期は極めて顯著な利益増加であるし、玉電の業績も増益傾向にある。それに合併後は總體的に經費の節減に恵まれ、多少決算は窮屈でも八分配當は出來ぬ事もなからう。

【問題】だが、手放しの樂觀は禁物だ。當社は茲二、三年は發展過渡期であり、玉電支配の爲め採算を無視して買入れた株の償却も必要だ。尙増税問題もある。配當偏重政策は警戒すべきだ。

【設立】	明治四十三年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電鐵運輸、百貨店、自動車營業
【資本金】	公稱 3,000,000 拂込 1,800,000
【株主数】	新 (10,000) 800,000 舊 (10,000) 800,000
【役員】	専務 藤原三郎 取締役 丹羽武朝 常務 藤原三郎 取締役 波島利一 取締役 中川正左 波島利一 小宮次郎 守田眞一郎 大株主 (名) 七名 九元
【大株主】	第一生命 〇〇〇〇〇 精明 圭造 三〇〇〇〇 日本生命 六〇〇〇〇 湯澤同族 四〇〇〇〇 服部 玄三 〇〇〇〇 第一砲兵 四〇〇〇〇 泉 武次 三〇〇〇 三宮 四郎 三〇〇〇 【事業規模】 澁谷―横濱線 木町 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 乗客人員 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 同運賃全額 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 貨物數量(色) 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 自動車營業 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 百貨店營業 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 主給利益全額 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 政府補助全額 〇〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇 【關係會社】 日黒田電鐵の子會社 【投資會社】 玉川電鐵、湘南電鐵、帝都電 鐵、東京高速川崎聯合、東横映畫劇場 【資本異動】 十年八月五日、十一月七月 一〇〇圓拂込徴收、十一月東横聯合を合 併四〇〇萬圓増資、十二月倍額増資、 十二年三月一〇圓拂込徴收

【資産負債】	十一月 五十一月 十一月
株主資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
外部負債	800,000 800,000 800,000
社債	800,000 800,000 800,000
支拂手形	1,800,000 1,800,000 1,800,000
使用總資本	2,000,000 2,000,000 2,000,000
固定資産	3,000,000 3,000,000 3,000,000
流動資産	3,000,000 3,000,000 3,000,000
現金預金	3,000,000 3,000,000 3,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
利益	0 0 0
【名義書換】	十 十 十 新 新 新 時價 時價 時價 新 新 新 時價 時價 時價

東京地下鐵道株式會社

(本社) 東京市神田區須田町一ノ一六(電神山 三六一志)

【十二年五月期】昨年同期決算では、利益金は前期並みの五十一萬圓(利益率三分九厘)で、相變らず苦しい三分五厘配當を据置いた。が本年上期の成績は幾分向上する見込みだ。即ち昨年十二月―本年二月の運輸収入は四十六萬六千圓に上り、前年同期に比し約八分の増收を示した。三―五月も此の程度の収入増は續け得ると見られるから、上期總収入は兼業(地下鐵ストア)及び雜收入を含めて百二十八、九萬圓に達しよう。一方、支出は物價高などで多少増加するだらうが、本年三月及び昨年九月に五分利債各二十萬圓宛を償還したから、それだけ利拂は輕減し、結局支出計は七十萬圓見當に止まらう。すると、上期豫想利益は手堅く見ても五十八萬圓(利益率四分五厘)にはならう。但しまだ無理決算の域を脱したとは云へない。

【増配未だし】それに支拂利息の一部を依然建設費に繰入れて居る。これを改めなければならぬ。とすれば、多少増益したとしても、増配と迄はなかく行かない。

【今後】尤も今後に期待される。來春から高速鐵道と連結して澁谷―淺草直通運轉が行はれ、新宿線連絡も十四年秋の京濱地下鐵に依る淺草―浦賀直通運轉開始前後に實現されるからだ。

【設立】	大正九年十月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鐵道運輸、地下鐵ストア
【資本金】	公稱 200,000 拂込 200,000
【株主数】	新 (10,000) 200,000 舊 (10,000) 200,000
【役員】	社長 根津嘉一郎 取締役 中島孝夫 専務 早川徳次 監査 星野 錫 取締役 野村義太郎 穴水 熊雄 増田 義一 相談 阪谷 芳郎 【株主数】 十年下 十年上 十年下 總數(名) 7,000 7,000 7,000 【大株主】 北電興業 〇〇〇 東部證券 〇〇〇 穴水 熊雄 〇〇〇 武州銀行 〇〇〇 大川合名 〇〇〇 相澤 一郎 〇〇〇 早川電力 〇〇〇 安川松本合名 〇〇〇 増田 義一 〇〇〇 月森 俊寛 〇〇〇 【事業規模】 淺草―新橋 營業線 淺草―新橋 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 免許線 新橋―品川 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 三田―馬込 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 大崎―馬込 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 【事業成績】 十年下 十年上 十年下 乗客數(千人) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 同運賃全額 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 一日平均 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 【投資會社】 東京聯合自動車 【資本異動】 十年八月新、舊各株式に對 し五四圓拂込徴收

【資産負債】	十一月 五十一月 十一月
株主資本	200,000 200,000 200,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
社債	100,000 100,000 100,000
支拂手形	100,000 100,000 100,000
使用總資本	100,000 100,000 100,000
固定資産	200,000 200,000 200,000
流動資産	200,000 200,000 200,000
現金預金	200,000 200,000 200,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
收入	100,000 100,000 100,000
支出	100,000 100,000 100,000
利益	0 0 0
【名義書換】	十 十 十 新 新 新 時價 時價 時價 新 新 新 時價 時價 時價

東京高速鐵道株式會社

(本社) 東京市赤坂區表町二ノ十五(電赤坂三三)

【拂込蓄收】當社は第三回拂込(五圓宛、總額三百萬圓)を來る五月一日徴收するに決した。澁谷線完成接近、新宿線着工接近、借入金の一部返済等に資金を要するからだ。

【工事】澁谷線は既に山下附近及び青山表町附近迄は隧道が完成した。残る宮益坂―澁谷驛間は工事に着手全線四哩を本年中に完成すべく努力中。然し完成は來春とならう。新宿線は赤坂見附―新宿間二哩六分だ。赤坂見附―四谷見附の鐵道敷設認可は、漸く去る二月十二日認可された許りだし、全線の施工認可は未だ下りぬが、八月頃には着工とならう。

【建設資金】昨年十一月に發表した兩線の建設費豫定額は、澁谷線一千七百五十萬圓、新宿線千一百萬圓、合計二千八百五十萬圓である。この内千五百萬圓は拂込金、残額は借金による豫定で、三井信託及三井銀行から必要に應じ千四百萬圓(利率五分)を借入れる契約だ。うち三百五十萬圓は既に借入れた。尤も建設費豫定額は、其後の建築材料の暴騰で多少は増嵩を免かれぬだらう。

【配當と將來】澁谷線開通後現在の建設利息配當五分を、利益配當に直し得れば上々の部である。然し東京地下鐵との直通や澁谷方面の諸電車との連絡で、將來に興味がある。

【設立】	昭和九年九月
【決算期】	三月、九月
【事業】	地下鐵道運輸
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 8,000,000
【株主】	10,000名
【役員】	社長 門野重九郎 取締役 和野 謙 常務 藤田 啓 五島 慶太郎 井上篤太郎 井上敬次郎 利光 鶴松 松本 滋治
【大株主】	千代田生命 1,000,000 大倉 組 1,000,000 三井合名 1,000,000 明治生命 1,000,000
【事業計画】	第一期工事 〔澁谷―赤坂見附〕虎門―新宿(四哩) 〔新宿―四谷見附〕赤坂見附(四哩六分) 第二期工事 新宿―東京驛 四谷見附―日比谷―澁谷 延入哩(千圓) 1,000,000 營業收入(千圓) 1,000,000 營業費(千圓) 1,000,000 收支差引(千圓) 1,000,000 一日一回當(圓) 七六 【資本異動】 十二年五月五回拂込徴收の豫定

【資産負債】	九月 三十一日 十一月
株主資本	3,000,000 3,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000
使用總資本	3,000,000 3,000,000
固定資産	8,000,000 8,000,000
流動資産	3,200,000 3,200,000
現金預金	3,200,000 3,200,000
【收支積定】	十年下 十年上 十一年下 十一年上
收入	0 0 0 0
支出	0 0 0 0
利益	0 0 0 0
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	0 0 0 0
【株主】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
株主資本	3,000,000 3,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000
使用總資本	3,000,000 3,000,000
固定資産	8,000,000 8,000,000
流動資産	3,200,000 3,200,000
現金預金	3,200,000 3,200,000
【理想配當】	十二年三月期 五分 時間 三月二十日調 時間 六月 利息 五分二厘
【名義書換】	十 〔新券交附〕五十錢

小田原急行鐵道株式會社

(本社) 東京市澁谷區千駄谷五ノ八六二(電四谷七三)

【成績】昨年十月末決算は下表の如く僅か三分の利益率で、辛じて配當を据え置いた。今上期の三月末迄の四ヶ月間の概算は、鐵道だけで七十四萬三千圓の收入、對前年同期に比し八萬八千圓(二割三分)増收だ。これから推すと、政府補助金及雜收入を含め、今期總收入は大約百三十四、五萬圓と見込まれる。他方支出は前年同期より三、四萬圓の増加と見て、百二十萬圓位となる。差引十四、五萬圓の利益であるが、これでは現行配當所要金二十一萬圓は負擔出來ぬ。最近貨客の増加で、前年同期に比し利益は殖へてゐるが、依然若しい決算と云はざるを得ない。

【補助金問題】地方鐵道補助法中改正法律案は第七十議會を通過した。當社の半期九萬七、八千圓の補助金は三月末で打切りとなるが、同法案に依れば、補助金は減額されるが今後五ヶ年延長される。當社にとっては幸ひと云はねばならぬ。

【配當】當期の利益は前述の如くだ。前期繰越金二萬圓を入れても二分八厘配當維持は困難である。當局者は配當を維持したい意嚮だが、何う辻褃を合せるか。今後も配當維持には苦難の道程を辿るだらう。利光社長出資の山東招遠金山が、當社株主を擧すか何うかは疑問だ。惠まれるとしても將來のことである。

【設立】	大正十二年六月
【決算期】	四月、十月
【事業】	電鐵運輸、土地砂利營業
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 15,000,000
【株主】	10,000名
【役員】	社長 利光 鶴松 取締役 西野 守藏 池邊 稻生 常務 栗崎 康太郎 三浦 實 小川市太郎 益田 元亮 小久保 喜七 總務 星 原田 十光
【大株主】	鬼怒川水力 3,000,000 小川市太郎 2,000,000 鈴木茂兵衛 1,000,000 吉田丹治郎 1,000,000
【事業規模】	新原町―小田原、 新原町―片瀬江ノ島
【事業成績】	十年下 十年上 十一年下 十一年上
營業收入(千圓)	9,200 8,300 9,600 9,600
同運賃(千圓)	1,200 1,200 1,200 1,200
貨車收入(千圓)	1,200 1,200 1,200 1,200
收入總計(千圓)	1,200 1,200 1,200 1,200
營業費(千圓)	1,200 1,200 1,200 1,200
政府補助金(千圓)	1,200 1,200 1,200 1,200
【投資會社】	帝都電鐵、東京高速鐵道、 鬼怒川水力

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
使用總資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
固定資産	8,000,000 8,000,000 8,000,000
流動資産	3,200,000 3,200,000 3,200,000
現金預金	3,200,000 3,200,000 3,200,000
【收支積定】	十年下 十年上 十一年下 十一年上
收入	0 0 0 0
支出	0 0 0 0
利益	0 0 0 0
【業績】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
利益	0 0 0 0
【株主】	十年上 十年下 十一年上 十一年下
株主資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
外部負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
使用總資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
固定資産	8,000,000 8,000,000 8,000,000
流動資産	3,200,000 3,200,000 3,200,000
現金預金	3,200,000 3,200,000 3,200,000
【理想配當】	十二年四月期 二分八厘 時間 三月二十日調 時間 六月 利息 三分四厘
【名義書換】	十 〔新券交附〕五十錢

富士身延鐵道株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ五(電日本橋三區)
(營業所) 靜岡縣富士郡富士町(電富士四)

【昨下期】去る十一月締切の昨下期決算では、運輸收入の激増に惠まれて利益金十七萬圓(利益率三分一厘)を挙げ、前期よりの繰越損十一萬八千圓を補填して、尙ほ五萬二千圓の繰越益金を出した。水い間繰越損に悩まされてゐた當社としては、實に著しい更生振りである。

【今年上期】續く本年五上期も依然好調で、十二月の三ヶ月間の運輸收入は、前年同期に比し六%増の二十五萬六千圓を示した。一方支出は利拂減で増加しないから、此の調子で行けば上期利益は恐らく十五萬圓(對前年同期一三%増)に達しよう。

【政府借上近く實現】業績は斯く好化しつつあるが、當社は從來借金の整理も豫期通り行つて居らず、それに當るの拂込應募未済問題の對策等々、前途に難關が横はる。尤も當局者の言に依れば、例の當社線の政府借上問題は、此の程鐵道省側の調査も完了したので、愈々四月中には借上條件の決定を見る段取りとなつた由である。従つて遅くとも下期當りから國鐵委任經營となると見て違ひない。當局者は之が決定後に右難問題の解決に出ると云つてゐる。入金、假に借上條件が當社側に有利に運ばれても、低利借利率引上問題等で、突速復配と迄は行かまいが、興味加はる。

【設立】	明治四十五年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鐵道運輸、山林、橋梁營業
【資本金】	公稱 二六〇〇〇 第一新(四〇〇) 〇,〇〇〇 第二新(三〇〇) 〇,〇〇〇
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 河西豊太郎 監査 山中 勇 常務 小野 達三 相談 根津嘉一郎 取締役 西川武三郎 高橋 平吉 小野 耕一 高橋 高次 堀内 良平
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【大株主】	西川武三郎 八、〇〇〇 小野 耕一 一、三〇〇 堀内 良平 一、〇〇〇 堀内 水合名 三、〇〇〇 小林 合名 三、〇〇〇 堀内 水合名 三、〇〇〇 山中 勇 二、〇〇〇 長崎 佐左衛門 二、〇〇〇 服部 貞子 二、〇〇〇 茂木 佐十郎 二、〇〇〇
【事業規模】	營業所 富士一、身延一、甲府一、 營業所 富士一、身延一、甲府一、 營業所 富士一、身延一、甲府一、
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 營業人員(人) 六二 九六 一〇五 一〇五 同運賃(千圓) 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 貨物運賃(千圓) 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 同運賃(千圓) 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一 政府補助(千圓) 一〇一 一〇一 一〇一 一〇一
【資本異動】	第一及第二新株九年六月三 日、十二月四日拂込徴収

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
外部負債	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
社債	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
借入金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	一三、〇〇〇 一三、〇〇〇 一三、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
現金預金	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【收支】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
支出	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
利益	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【名義書換】	五、〇〇〇 新券交付 二十五

伊那電氣鐵道株式會社

(本社) 東京市豊島區九ノ内海上ビル(電九ノ内 天六上志)
(支社) 長野縣上伊那郡赤穂村(電赤穂 空)

【拂込徴収】當社は去る三月一日新株一株に付き五圓、總額百廿四萬五千二百圓を徴収した。此拂込は主として新規發電所開發、三信鐵道及矢作水力への拂込等に充當する。

【成績】昨下期の成績は利益金四十三萬八千圓で、對拂込利益率八分四厘であつた。前年同期に比して三萬七千圓、率にして七厘の向上に當り、四分配當を据置いた。最近の業績は順調である

と云ひ得る譯だ。それと云ふのも、沿線農村の景氣が好轉してゐるからで、拂込徴収後の今期も現行配當に何等不安はない。即ち昨下期並の利益としても七分八厘内外の利益率となり、四分配當持續可能だ。然し今期は水量豊富で買電料が不要となり、二ヶ年無利息だつた受取手形四十五萬圓が回收され、又本業の貨客が

増加を見込まれる等、好材料多く、一萬圓位の増益が期待される。

【問題】三信鐵道の全通が目前に迫り、同社、風來寺及豊川三社と當社との連絡で、中央東海道兩線が短距離で結ばれる。その經營の歸趨は注目を要する。

【配當】昨下期迄の四分配當は餘裕含みだ。今後も四分配當は問題ない。當局者は今期に一分増配したい意嚮だが、拂込徴収で配當負擔は一萬二千圓増加出来ぬことはないが、實現は困難か。

【設立】	明治四十年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電氣運輸、電燈電力、自動車。
【資本金】	公稱 一〇〇,〇〇〇 第一新(五〇,〇〇〇) 五〇,〇〇〇 第二新(五〇,〇〇〇) 五〇,〇〇〇
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【重役】	社長 櫻木 亮三 取締役 赤司 勤一 常務 生垣 賢造 監査 大野 隆之助 取締役 近藤 甲 池上 修一郎 取締 山口 英九郎 松本 文彦 林 七六 江崎 清郎
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【大株主】	東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇 東邦證券 一、〇〇〇
【事業規模】	營業所 中央線辰野一飯田一天龍峽 營業所 中央線辰野一飯田一天龍峽 營業所 中央線辰野一飯田一天龍峽
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 十年上 營業人員(人) 一〇三 一〇三 一〇三 一〇三 同運賃(千圓) 一〇三 一〇三 一〇三 一〇三 貨物運賃(千圓) 一〇三 一〇三 一〇三 一〇三 同運賃(千圓) 一〇三 一〇三 一〇三 一〇三 政府補助(千圓) 一〇三 一〇三 一〇三 一〇三
【資本異動】	十二年三月五圓拂込徴収

【資産負債】	十一月 十一月 十一月
株主資本	一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇 一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
社債	七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇
借入金	三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
使用總資本	一三,〇〇〇 一三,〇〇〇 一三,〇〇〇
流動資産	三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
現金預金	三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
【收支】	十年下 十年上 十年下 十年上
収入	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
支出	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
利益	二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇
【株主】	株主(五〇) 〇,〇〇〇 株主(一〇〇) 〇,〇〇〇
【名義書換】	十、〇〇〇 新券交付 三十

阪神電氣鐵道株式會社

(本社) 尼崎市北城內一六(電尼 三三)
(出張所) 大阪市北區梅田一四(電大阪北 三三)

【拂込徴収】此の四月一日新株一株に付七圓半、合計九百九十七萬五千圓の拂込を徴収。この拂込金は、差し當つて昨年十二月初旬から着工した梅田終點の地下延長工事、並びに終點に於ける百貨店ビルの建設資金に充當する。更に將來の事情に急變のない限り、こゝ一ヶ年内外に一株につき五圓の拂込を徴収する豫定だ。なほ百貨店ビルは、去る一月二十二日に創立した資本金二百萬圓の株式會社阪神百貨店(社長今西與三郎、株式は阪神電鐵で全部引受ける)に貸與する。

【配當負擔】この拂込徴収によつて當社は、半期四十四萬九千圓の配當負擔が加はつてくる。かなり大きな負擔増加で、諸建設工事の完成するまでは、決算はやゝ窮屈を免れ得まい。

【運輸順調】だが運輸成績は依然順調を續けてゐる。昨年十月—本年二月上旬の客車收入累計は、前年同期に比し二十二萬四千圓(八%一二)の増加だ。昨年十二月一日から、區間變更に伴ふ料金の改訂を行つて此の成績だから、可成りの好調と云へやう。

【將來】此の三月決算は資本負擔が加はらぬので、現行配當持續は確實だ。九月期にはその上に増税負擔も加はつてくるから、決算に餘裕はなくなつてくるが、大勢的に見れば好望。

阪神急行電鐵株式會社

(本社) 大阪府豊能郡池田町八九六(電池田 二〇五)
(事務所) 大阪北區梅田町四一(電北 三三〇—E)

【運輸好調】昨年十月上旬から本年二月上旬までの、乗客收入の累計は三百七十九萬七千圓と、前年同期に比し百七萬一千圓(三九%二八)の急増振りである。これは主として神戸延長線による乗客増に原因するが、しかしかゝる運輸成績の好調は、近年稀に見るところだ。前途好望される所以である。

【増資】過般一十萬圓の増資を行ひ、資本金四千五百萬圓を五千五百萬圓とした。その第一回拂込一株につき十二圓半は、去る二月一日に徴収した。これは大部分短期借金の返済に充てる。

【前途順調】増資後も依然順調が期待される。といふのは、前述の如く運輸成績が頗る好調の上に、電燈、電力収入も順調な推移を見せてゐるからだ。殊に此の三月期は、増資による資本の膨脹が餘り關係しないから、好成绩を示すものと思はれる。九月期からは資本負擔が増加する上に、増税の影響も加はつてくるが、一方借金の返済による利拂減が生ずるし、運輸成績も好調だから、これらで充分補ひがつく。現行一割配當の維持は確實だ。

【拂込徴収】なほ来る五月一日に、新株第二回拂込一株につき十二圓半、合計二百五十萬圓を徴収することに決定した。これは西宮北口の野球場設備等の沿線開發資金に充當する筈だ。

【設立】	明治三十二年六月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電鐵運輸、電燈電力供給
【資本金】	公稱一億、拂込一億二、〇〇〇、〇〇〇
【株主数】	新(一三三) 一、〇〇〇、〇〇〇
【重役】	社長 今西與三郎 取締役 片岡直方、石井五郎、辰馬勇治郎、常務 岡喜太郎、監査 松本順吉、細野新、小曾根隆造
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 十一年中
【大株主】	住友合資(五〇〇) 本小會組合(七、〇〇〇) 大阪貯蓄(二、〇〇〇) 三和銀行(三、〇〇〇) 淺井(一、〇〇〇) 小川奈良(一、〇〇〇) 天野合名(一、〇〇〇) 安田銀行(一、〇〇〇) 事業規模 營業額 梅田神戸間本線、北大阪線、傳法線、甲子園線、尼崎海岸線、國道線
【事業成績】	十年上 十一年上 十一年下
【客車收入】	一、〇〇〇、〇〇〇
【電力供給】	一、〇〇〇、〇〇〇
【電氣收入】	一、〇〇〇、〇〇〇
【投資】	摩訶訶道、阪神聯合自動車、阪神國道自動車、六甲越有馬鐵道、大阪野球場俱樂部
【資本異動】	十年八月五百萬圓買入減資 十二年四月七圓五拂込徴収

【資産負債】	九月 十一年 十一年		
株主資本	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年上 十一年上 十一年下		
収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
時價	△六〇	△六〇	△六〇
【名義書換】	十 十 十	十 十 十	十 十 十

【設立】	明治四十年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電鐵運輸、電燈電力、百貨店
【資本金】	公稱一億、拂込一億二、〇〇〇、〇〇〇
【株主数】	新(一三三) 一、〇〇〇、〇〇〇
【重役】	社長 佐藤 博夫 取締役 新海哲之助、岩倉 具光、戸田 政義、井上 周、吉原 謙、岸本兼太郎、八馬 兼介、山口謙四郎、松岡 潤吉、藤本 隆、和泉入左衛門、林 藤之輔、和田入左衛門
【株主数】	十年上 十一年上 十一年下
【大株主】	小林合名(三、〇〇〇) 大同生命(六、〇〇〇) 阪急共業會(三、〇〇〇) 大阪貯蓄(三、〇〇〇) 多聞合資(二、〇〇〇) 八馬 兼介(二、〇〇〇) 事業規模 營業額 大阪神戸線、寶塚線、今津線、箕面線、外三線、七、六、六軒
【事業成績】	十年上 十一年上 十一年下
【客車收入】	一、〇〇〇、〇〇〇
【電力供給】	一、〇〇〇、〇〇〇
【電氣收入】	一、〇〇〇、〇〇〇
【投資】	摩訶訶道、阪神聯合自動車、阪神國道自動車、六甲越有馬鐵道、大阪野球場俱樂部
【資本異動】	十年八月五百萬圓買入減資 十二年四月七圓五拂込徴収

【資産負債】	九月 十一年 十一年		
株主資本	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
社債	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年上 十一年上 十一年下		
収入	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
支出	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
【利益】	三月二十日調	三月二十日調	三月二十日調
時價	△六〇	△六〇	△六〇
【名義書換】	十 十 十	十 十 十	十 十 十

大阪鐵道株式會社

(本社) 大阪府南河内郡富田林町大字毛人谷
(事務所) 大阪府住吉區河野野筋一丁目(電天王寺三三三)

【運輸順調】 昨年十月上旬から本年二月上旬までの客車収入の累計は、六十四萬九千圓に達し、前年同期に比して五萬圓(八%三六)の増加である。この増収率は、關西八大電鐵會社の中で、第五位に過ぎないが、しかし前期が八大電鐵中最低の増収率しか示し得なかつただけに、その好轉振りが目立つてゐる。

【整理進捗】 こうした運輸成績の順調と共に、内容も目を追ふて整備しつつある。尤も未だ資本構成は充分といへぬが、それでも外部負債は毎期減少し、八年三月末に一千八百八十餘萬圓あつたものが、十一年九月末には一千五百二十六萬五千圓に減少してゐる。また他方固定資産も、償却の結果毎期減少し、十一年九月末には二千四百二十三萬五千圓(償却後)となつた。

【前途興味】 更に前途には種々の好材料がある。まづ昭和十五年三月には負債整理が完了するし、加ふるに大鐵百貨店の建設、地下鐵の阿部野橋への延長等がある。大鐵百貨店も今年十一月頃には開店の見込みであり、地下鐵も明十三年初から開通の運びとならう。何れも乗客の利便を増すから、整理完了後の發展には充分期待すべきものがある。なほ現在は何等具體化してゐないが、將來參宮急行との合併問題が生ずるのではあるまいか。

【設立】	明治三十二年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鐵道運輸業、百貨店
【資本金】	公稱 50,000 新 100,000
【株主数】	新 100,000 舊 100,000
【役員】	社長 佐竹 三吾 専務 石田 義太郎 取締役 山岡 俊太郎、北野 忠治、本所 又次、木村 吉兵衛、野田 吉兵衛、木村 教俊、村井 善四郎、水口 貞藏
【大株主】	大阪電氣 天(八〇)阿部 商事 七(五二) 大阪 商事 七(五二)阿部 一(二七)七(〇〇) 山口 支合資 六(〇〇)内藤 宗晴 四(六六) 泉 吉太郎 四(五〇)寺田 真吉 四(五〇)
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 乗客人員(千人) 八〇,〇〇〇 九二,〇〇〇 同 運賃(千圓) 九,〇〇〇 一〇,〇〇〇 同 貨物(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 同 運賃(千圓) 一,〇〇〇 一,〇〇〇 營業收入(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 自動車(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【投資會社】	南和電氣鐵道、大鐵百貨店
【資産負債】	十年 十一年 十一年 株主資本 六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇 外部負債 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 社債 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 借入金 七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇 使用總資本 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 固定資産 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 流動資産 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 現金預金 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
【収支】	十年下 十一年上 十一年下 營業收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支出 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 利益 〇 〇 〇
【利息】	三月二十日調 無配
【名義書換】	十 號【新券交付】三十號

阪和電氣鐵道株式會社

(本社) 大阪府天王寺區悲田院町九三(電天王寺三三三)

【運輸好調】 當社の運輸成績は近年好調の一途を辿つてゐる。昨年十月から本年二月上旬までの乗客収入累計を見ても、七十八萬九千餘圓に達し、前年同期より七萬五千圓の増加、率にして一〇%四九の向上である。關西八大電鐵會社の中では、參急、阪急に次いで第三位を占める躍進振りだ。

【立直顯著】 かくて業績の立直りも極めて顯著である。即ち去る九月末決算に於ては、利益金三十一萬圓を擧げ、前期より十三萬九千圓、前年同期に比しても二萬圓の増加を示した。そこで繰越損十七萬圓を全部済した上に、法定積立金七千圓を積立て、十三萬三千圓を後期繰越金とした。愈々収益時代には入つた譯だ。

【前途好望】 更に前途には二、三の好材料がある。沿線貝塚に日本紡の工場が建設され、また砂川遊園地を始め、沿線の開發が著しく進展してゐるからである。

【復配近し】 そこで當然配當復活問題が生ずる。此の三月期にはまだ無理の感があるが、九月決算には必らず初配當がつけられる筈だ。尤も九月期からは増税の負擔が加はつてくる。しかしこの増税負擔も當社にとってはそう大したものではないから、大幅の配當は素より望めぬが、三分程度の配當を復活しやう。

【設立】	大正十五年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電氣運輸、自動車、土地建物の經營
【資本金】	公稱 50,000 新 100,000
【株主数】	新 100,000 舊 100,000
【役員】	社長 木村 清 取締役 林 安樂、取崎 木本主一郎、太田 光雄、支那人 平松 憲夫、高取 盛、重田 喜作、田中 源助、川崎 良吉、竹中 源助、長尾 良吉
【大株主】	高取 興業 九(〇〇) 合同電氣 七(〇〇) 谷口 豐三郎 六(八〇) 足利 謙之助 五(〇〇) 筒井 悦平 三(〇〇) 吉村 秀治 三(〇〇) 天野 合名 三(〇〇) 長尾 良吉 三(〇〇) 宇治電燈 三(〇〇) 黒川 商店 三(〇〇)
【事業成績】	十年下 十一年上 十一年下 營業收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 客車収入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 貨物運賃 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 運賃収入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 政府補助(千圓) 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【資産負債】	十年 十一年 十一年 株主資本 六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇 外部負債 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 社債 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇 借入金 七,〇〇〇 七,〇〇〇 七,〇〇〇 使用總資本 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 固定資産 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 流動資産 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇 現金預金 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
【収支】	十年下 十一年上 十一年下 營業收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 支出 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 利益 〇 〇 〇
【利息】	三月二十日調 無配
【名義書換】	十 號【新券交付】三十號

名古屋鐵道株式會社

(本社) 名古屋市南區熱田東町字新宮坂三四(電南二〇)

【業績好調】昨年十月末締切の十一年下期決算は、頗る好成績であつた。即ち利益金は百三十二萬六千圓に達し、對拂込資本利益率は八割七厘に向上した。前年同期に比較すると利益金にして四十二萬七千圓の増加、利益率にして二分四厘の上昇だ。

【好調の理由】かゝる素晴らしい好成績は、いふまでもなく運輸成績の好調によるが、また借金整理の結果、利拂が軽減したこと大いにこれに寄與してゐる。

【配當措置】だが配當は引き続き五分に据置いた。一分程度の増配なら勿論出来た譯だが、前途に問題が多いので、堅實を旨として増配を自重し、内容の充實を圖つたのだ。

【増配期待】前途の問題といふのは、まづ第一に名古屋驛への乗入である。これが認可されると、その建設資金の關係から増資が期待される。而してこの乗入が完成すれば、關西急行との連絡が出来来るから、参急、大軌を通じて大阪まで連絡し得る譯で、前途には益々興味もてることになる。しかし或は認可されないかも知れぬ。これが認可されぬとすると、増資も自然見送られることになるらう。そして當然一分程度の増配が期待される。尤も増税の影響は看過されぬが、業績の壓迫には決してならない。

九州電氣軌道株式會社

(本社) 小倉市京町三五八番地ノ二(電北)

【一分増配】去る十一月末締切の十一年下期決算に於て、一分の増配を斷行した。當期の利益金は二百三十一萬圓となり、前期より十四萬三千圓を減少したが、前年同期に比すれば十五萬圓の増加を示した。そこで平均拂込資本に對する利益率も、一割一分七厘に向上したので、一分増の六分増配を行つた譯だ。

【好調】これはいふまでもなく、營業成績が頗る好調を示したからに外ならない。まづ電燈、電力収入は、四百一萬七千圓と、前年同期より二十七萬四千圓(七%三二)を増加したし、また電氣軌道収入も前年同期より四%六一の増加を認め得た。

【内容改善】かゝる業績の好調につれて、内容は一段と改善されてきた。殊に外部負債は、十一年十一月末には二千五百八十五萬圓に減少した。これは主として社債の償還を行つたことに原因する。昭和七年の下期に比すると、借入金が著しく減少し、外部負債合計では實に一千四百四十三萬圓の縮小だ。こうした借金整理による利拂減が、また當社立直りの有力な原因を作つてゐる。

【前途も順調】今後は電燈、電力料金の値下げを免れず、また増税の影響も加はるが、大勢は順調を辿らん。子會社九州興業による小倉海岸の埋立工事は、當社の前途に興味を添へてゐる。

【設立】	大正十年七月
【決算期】	四月、十月
【事業】	鐵道運輸、電燈電力、自動車
【資本】	公稱資本金 一億圓
【株主】	乙種 新(四五〇) 二六、九七〇 丙種 新(四五〇) 二六、九七〇 丁種 新(四五〇) 二六、九七〇
【役員】	社長 新井清成 副社長 神野金之助 取締役 後藤幸三、監査 其浦宗吉 上野野孝、富田重助 田代榮重、高橋正彦 下出義雄、白石勝彦
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 九〇、八〇三 八、八三三
【大株主】	愛知電機 三、七〇〇 東洋土地建物 一、〇〇〇 福壽生命 一、〇〇〇 後藤幸三 三、〇〇〇 藍川清成 四、〇〇〇 竹田嘉兵衛 三、〇〇〇 白石勝彦 三、〇〇〇 下出義雄 三、〇〇〇 野村壽三 三、〇〇〇 民権三三三
【事業規模】	營業額 一宮線、名岐本線、大山線其他 營業人員 十一年下 十一年上 十一年下 乗客人員 八、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 運賃 二、〇〇〇、〇〇〇 二、〇〇〇、〇〇〇 同 貨物 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 運賃 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 自動車 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 電力 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇
【投資會社】	知多鐵道其他 資本異動 十一年一月下 十一年五月下 徵收十一月乙、丙各五圓、丁一〇圓徵收

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	三、六〇〇 三、六〇〇 三、六〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	三、六〇〇 三、六〇〇 三、六〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	二、六〇〇 二、六〇〇 二、六〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年下 十一年上 十一年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【配當】	十年下 十一年上 十一年下
配當	五分 五分 五分
【利息】	三月二十日調 四分九厘 新券 五分 利息 四分九厘
【名義書換】	五 續【新券交付】二十續

【設立】	明治四十一年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	電燈運輸業、電燈電力供給、
【資本】	公稱資本金 一億圓
【株主】	乙種 新(四五〇) 二六、九七〇 丙種 新(四五〇) 二六、九七〇 丁種 新(四五〇) 二六、九七〇
【役員】	社長 村上巧兒 取締役 木村平右衛門 専務 山田雄治 副社長 福井正治 常務 山口正隆 監査 黒木義之助 横本良資 常任 井上博介 取締役 野田勢次郎 相談 大田重五郎
【株主数】	十年下 十一年上 十一年下 總數(名) 三、〇〇〇 三、〇〇〇
【大株主】	九州保全會社 三〇〇 本小倉會社 三〇〇 野村生命 七〇〇 住友會社 七〇〇 麻生商店 七〇〇 大阪野村 七〇〇 村田七郎 七〇〇 伊藤得右衛門 七〇〇
【事業規模】	營業額 門司一折尾、大門一戸畑、 營業線 中央區一折尾、他二線 營業人員 十一年上 十一年下 電燈客 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 運賃 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 電力 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 自動車 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 同 電力 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇
【投資會社】	九州土地興業、九州合同バス 資本異動 十一年二月第五十圓及九 月七圓五拂込徵收

【資産負債】	十年 十一年 十一年
株主資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
社債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年下 十一年上 十一年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【配當】	十年下 十一年上 十一年下
配當	五分 五分 五分
【利息】	三月二十日調 四分九厘 新券 五分 利息 四分九厘
【名義書換】	十 續【新券交付】二十續

金剛山電氣鐵道株式會社

(本社) 朝鮮江原道鐵原郡鐵原邑外村里六五五(電線原一〇二番)
(出張所) 東京市豊町區丸ノ内三番二一號館(電丸ノ内二六三)

【成績】當社昨年九月末締切の下期業績は、前後三回に亘る風水害の打撃を受けたに拘はらず、順調な成績を収め得た。即ち鐵道業益金二十九萬二千圓、電燈電力業益金四十二萬三千圓で、合計七十一萬六千圓の利益である。拂込資本金に對して一割八分四厘の利益率となり、九分配當を餘裕綽々と据置いた。然し鐵道業は未だ補助金がなければ、赤字を脱する域に達してゐない。同期は補助金がなければ四萬九千圓の赤字だ。尤も半島景氣に惠まれ、貨物(礮化鐵礦及鐵產物)輸送の増加で、此の鐵道業も最近は可なりの向上を見せて來た。又電燈電力業は好調の一途を辿つてゐる。三月末締切の本年上期は新日里發電所の完成で、賣電量も殖てゐるだらう。利益は大體前期同様か、それ以上と見込まれるから九分配當には問題あるまい。但し下記の如き事情にあるから、増配はせぬだらう。

【買収問題】當社線は昭和十四年一杯で補助期限が満了する。それ迄に總督府に買上げられるか何うかはまだ疑問と云のほかない。朝鮮私鐵買上法案が議會を通過する見透がつかぬからだ。だが買上が遅れて、補助期限が延長されるとしても、補助金は減額されるだらう。従つて餘裕含みの現行配當も其後は問題だ。

【設立】	大正八年十二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	電燈運輸、電燈電力
【資本金】	公稱一三〇、〇〇〇 拂込一七、八〇〇
【株主数】	新(五〇〇) 100,000 舊(一〇〇) 10,000
【重役】	會長 古川辰太郎 取締役 久米平八郎 事務 岡本桂次郎 取締役 牧山耕藏 取締役 倉知鐵吉 監査 千秋季藏 木村雄次 藤井小一 山崎勝治 櫻井小一
【株主数】	十年下 十年上 十年下 總數 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【大株主】	服部 安三郎、三〇〇 久米平八郎、二〇〇 朝鮮信託、一〇〇 朝鮮商銀、一〇〇 第一生命、八〇〇 朝鮮貯蓄、五〇〇 鐵道建設會、一〇〇 朝鮮鐵道、五〇〇
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 乗客人員(千人) 一、二〇〇 一、三〇〇 一、四〇〇 貨物數量(噸) 一、五〇〇 一、六〇〇 一、七〇〇 取付電燈(燈) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 供給電力(馬力) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 客車收入(圓) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 貨車收入(圓) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 電燈料(圓) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 電力料(圓) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 政府補助(圓) 一、〇〇〇 一、一〇〇 一、二〇〇 營業額 鐵原一内金剛山 一、〇〇〇 電力 天力 一、〇〇〇 100,000
【投資會社】	朝鮮鐵道

【資產負債】	十九年 二十年 二十一年 二十二年
株主資本	九、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
外部負債	七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇 七、七〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	一六、七〇〇 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇 一七、〇〇〇
固定資產	一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
流動資產	六、七〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年下 十年上 十年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	九年下 九年上 十年下 十年上 十一年下 十一年上 十二年下 十二年上
高値 安値 新高 新高	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
【豫想配當】	十二年三月期 九分
【利息】	三月二十日調 六分五厘 時價 新五〇 利息 七分八厘
【名義書換】	十 錢【新券交付】廿五錢

朝鮮鐵道株式會社

(本社) 京城府古市町一四番地一三(電、本局二二二)
(支社) 東京市豊町區丸ノ内二二(電丸ノ内二六三)

【昨下期】當社の本年二月決算は補助金の補給を受ける關係上、本稿締切迄にはまだ發表されぬが、引續き八分配當は繼續出來る成績を挙げた模様だ。尤も昨夏の朝鮮地方の大水害で同地方の產物(主として米、煙草)は相當の被害を受け、出貨不足であつた様だ。然しそれも營業線の一部(忠北、慶北二線)に止まるから大したものではない。運輸収入は正確には判らぬが、大體前期同様或はそれ以上になる見込みだ。

【今後】當社は前記線以外に黃海、咸南、咸北の三線を持つが、朝鮮經濟界の好況を基調として今後も好調を辿るだらう。それに一時的ではあるが、忠北、咸南兩線奥地には日本電力及び朝鮮窒素の電力發電所が夫々建設されるので、貨物輸送増と云ふ好材料がある。その上、三菱の茂山鐵礦開發は咸北線の貨車收入を増さしめる。斯く見ると今後八分配當持續は不安あるまい。

【新線】建設中の黃海線の一部、水橋—長淵は本年一月、海州—翠野は昨年十二月開通した。翠野—斐津は本年五月頃完成の豫定だ。建設費約三百萬圓は借入金で支辨し拂込は徴收しまい。

【買上問題】當社線の買上げは未だ具體化せぬが、どの線が買上げられるかで配當に影響することを、注意する必要がある。

【設立】	大正五年五月
【決算期】	二月、八月
【事業】	鐵道運輸、自動車業
【資本金】	公稱一〇〇、〇〇〇 拂込一〇〇、〇〇〇
【株主数】	新(一〇〇) 100,000 舊(一〇〇) 100,000
【大株主】	第一新(一〇〇) 100,000 第二新(一〇〇) 100,000 第三新(一〇〇) 100,000 第四新(一〇〇) 100,000
【重役】	社長 長谷川太郎 取締役 金光 廣夫 事務 新田留太郎 取締役 野田 重吉 常務 東條 正平 取締役 井上 周 取締役 小島 誠 監査 佐方文次郎 朴 榮 植 監査 村上 伸雄 買田 直治 村上 伸雄
【株主数】	十年上 十年下 十年上 總數(名) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【大株主】	東洋拓殖、三〇〇 大川合名、三〇〇 朝鮮貯蓄、三〇〇 朝鮮信託、三〇〇 三菱鐵業、三〇〇 鐵道銀行、三〇〇 朝鮮鐵道、三〇〇 漢城銀行、三〇〇 朝鮮銀行、三〇〇 漢城銀行、三〇〇 忠北線、慶北線、黃海線其他 一〇〇 忠北線、慶北線、黃海線其他 一〇〇
【事業成績】	十年上 十年下 十年上 乗客人員(千人) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 貨物數量(噸) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 貨物收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 自動車收入(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 政府補助(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【投資會社】	朝鮮自動車、慶南自動車、 忠南自動車、咸北自動車、鮮滿交通、

【資產負債】	十八年 十九年 二十年 二十一年
株主資本	八、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	九、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
固定資產	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
流動資產	一、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支】	十年上 十年下 十年上 十年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業績】	九年上 九年下 十年上 十年下 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下
高値 安値 新高 新高	〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇
【豫想配當】	十二年一月期 八分
【利息】	三月二十日調 七分七厘 時價 新五〇 利息 七分八厘
【名義書換】	十 錢【新券交付】廿五錢

東京灣汽船株式會社

(本社) 東京市芝區芝浦立地八號(電三田 二二二一)

【今期は順調】昨年十一月期の決算は貨客運賃収入が案外少なかったため、期待外れの不成績に終わった。ところが今期は比較的順調に進行してゐるので相當の成績が期待される。即ち、期初二ヶ月間の成績を前年同期に比べると約三萬圓見當の増収が見られる。この事實から推定して、内輪に見ても今期は利益金十三、四萬圓利益率八、九分見當と豫想せられる。

【前途は】當社の前途は洋々とは行かない迄も、三年後にはオリムピック、萬國博等を控へ、外人觀光客の來遊が期待される上に、種々觀光設備・遊覽航路の充實を計り、岡田村築港完成も近きにあるので、學生遊覽團體及び健全な旅行客の増加が見込まれる。貨物収入も沿岸近海航路への本格的進出が企圖されてゐるので、今日の狀態に何時迄も止りはしないだらう。

【當社の缺點】とは言ふもの、當社には二つの大きな缺點がある。その一は償却不足と言ふことだ。償却率は年平均三〇%内外、三十ヶ年償却と言ふ氣の長さだ。その二は資本負擔の増加だ。當社は新造優秀船の建造、觀光設備の充實等の資金を社債によつて賄つて來た。この償還のために拂込徴収を餘儀なくされて居る。【配當】従つて配當は据置きたからうが、此際斷乎減配すべきだ。

【設立】	明治二十二年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	房總、伊豆、航路經營
【資本金】	公稱 五〇〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇
【重役】	社長 林 甚之丞 取締役 鈴木富太郎 取締 小林 中 林 季彦 監査 須田 宣 吉田 義輝 水野 傳治 伊藤忠兵衛 山下 太郎 久保田正治 松本 正治 松本 正治
【大株主】	東武鐵道(一〇〇) 帝國海上(三〇〇) 康徳興業(三〇〇) 林 甚之丞(三〇〇) 松下 榮三(三〇〇) 小林 中(一〇〇) 岩田 眞一(一〇〇) 田中榮八郎(一〇〇) 所有船數: 船隻 總噸數: 六、五〇噸
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 乗客運賃(千圓) 三〇〇 三〇〇 貨物運賃(千圓) 一〇〇 一〇〇 魚貨運賃(千圓) 一〇〇 一〇〇 航路別乗客數 大島下田(一〇) 一六五 一四〇 臨時遊覽(一) 一五 一五 臨時遊覽(二) 一五 一五 【投資會社】 大島觀光事業、式根島温泉 【資本負擔】 十年七月七圓、十年三月五圓拂込徴収、三月五圓拂込徴収

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	三六〇〇〇 三六〇〇〇 三六〇〇〇
外部負債	三〇〇〇〇 三〇〇〇〇 三〇〇〇〇
社債	一〇〇〇〇 一〇〇〇〇 一〇〇〇〇
多手入金	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
使用總資本	五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇
固定資産	四、〇〇〇 四、〇〇〇 四、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【收支積定】	十年下 十年上 十年下
收入	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
支出	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【名義書換】	十 十 十

東洋汽船株式會社

(本社) 東京市豊島區丸の内海上ビル(電丸ノ内 二二二)

【新會社創立】當社は前期末に新會社東洋海運を三井と共同出資で創立した。資本金は五百萬圓で二百五十萬圓宛折半して現金拂込を行つたのだ。その上從來當社が三井にチャーターに出して居た字洋、日洋、月洋の三隻を新會社に譲渡し、新會社は拂込まれた現金でこれを買取る事となつてゐる。まだ引渡しは完了せぬが、前期決算ではこの内一隻分と沈没船とを合せて二百八十八萬圓を減じて居る。後の二隻は今期と來期にそれゝ引渡す筈。

【業績向上】一般海運界好況の影響をうけて、當社の業績は大いに向上する。前期に於ても利益金七十三萬八千圓、利益率二割五分五厘となり、前々期より三分の向上を示してゐる。尤も當社は備船一本槍で進んで來たので、契約期間の関係上今年一杯は現在の備船料昂騰の好影響を満喫することは出来ない。然しこの備船一本槍政策は前項の如く新會社を創立したので漸次變更されて來る。又米國戰時利得稅負擔は今來期中には落せる見込だ。かく内外事情の好轉で増配が問題となる。

【増配は】今期も利益率から見れば増配は充分可能であるが、從來借金會社であつた關係もあり、今年一杯は内容充實につとめ來年度よりこの好調を満喫しながら實行に移すことゝならう。

【設立】	明治二十九年六月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	貨物船運
【資本金】	公稱 七、〇〇〇
【株數】	新(五〇〇) 五〇〇〇〇
【重役】	社長 吉原 政智 専務 高橋 勇 監査 田中榮八郎 取締役 淺野 謙一 相談 河合 謙 橋本梅太郎 相談 淺野 良三 倉田 康太 白石元治郎 【大株主】 十年下 十年上 十年下 大洋興業(一〇〇) 丸ノ内商事(一〇〇) 淺野同族(七五) 松本 利作(七五) 大川合名(七五) 馬場 正治(七五) 高津株式(七五) 小川 茂 七五 【事業規模】 所有船數(艘) 三 船隻原價(千圓) 三、三〇〇 帳簿原價(千圓) 三、三〇〇 所有船名 天、六天 總噸數(噸) 三、三〇〇 船隻名 天、六天 天、六天、良洋丸、字洋丸、月洋丸、 天、六天、香洋丸、福洋丸、麗洋丸、 巴洋丸、旺洋丸、海洋丸、以上(各船五千噸以上)
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 備船料(千圓) 二、八〇〇 一、八〇〇 政府助成(一〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 【投資會社】 東洋證券、

【資産負債】	十一年 十一年 十一年
株主資本	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
使用總資本	七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇
固定資産	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【收支積定】	十年下 十年上 十年下
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【名義書換】	五 五 五

日本航空輸送株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ三飛行館(電報掛 五五〇)

【拂込】去る三月一日第三回拂込、一株に付十圓宛總額二百萬圓を徴收した。五下期に七圓半宛百五十萬圓を徴收して以來のことだ。之で六百萬圓の拂込額となつた。今回の拂込金は主として新鋭機の購入に當てられるが、一部は新航空路開設に伴ふ飛行場諸設備にも充當される筈だ。前者はダグラス機、中島式A・P機、ビーチクラフト機等數臺で、順次全線に亘りスピードアップと輸送力増大に資する所多い見込である。

【政策】最近航空事業に對する朝野の關心次第に昂まり、航空工業並運輸事業への保護政策は、當社の經營の前途に好影響を與へる筋合となつて來た。優秀な機體が低廉に得られるばかりでなく航空路補助金が増額されるからだ。不振を聊つてみた當社の營業も斯くして繁忙を加へ、國內的にも國外的にも發展を期待する。

【新航空路】四月一日から東京—札幌線九百四十杆が開設せられた。本年夏季には東京—大連—北平線二千六百杆の大航空路が設けられる筈で、南洋線の新設も亦決定されてゐる。

【成績】斯様に事業的には發展するが、企業の性質上支出が増加するため、他の事業會社の様に收支尻の急向上は望めない。然し配當は矢張り五分を維持してゆく方針で、株價も其採算でよい。

日本無線電信株式會社

(本社) 東京市麹町區大手町日清生命館(電九ノ内三三一)

【合併法提出】國際電話合併を目的とする「日本無線電信株式會社法中改正法律案」は既に貴院通過、衆院も不日通過する。同案の内容は、會社名を「國際電氣通信株式會社」とし、事業を「電氣通信事業」に改正した。政府の干渉を嚴にする改正例へば總裁制採用など——の無かつたのは注目に價する。なほ社名を電氣通信と云ふ見馴れぬ言葉にしたのは、寫眞電送、海底電信に迄手を擴げる事を豫想してゐるのである。

【合併は何日か】右法律の成立を俟つて、合併談は正式に始められるが、諸般の手續を考慮すれば合併成立までに早くても半ヶ年はかゝらう。合併後の配當率もそれを俟つて決定される譯だが、七分二厘据置きは略々疑ひ無い。

【事業成績】その後の當社成績は引續き良く、三月締切の上期決算は前期並みの三割六、七分の利益率であつた。最近對支通話、對歐通話多きと、新線なる對天津、對莫斯科が働いた。めだ。なほ豫て工事中の兵庫縣小野町の受信所は先日完成、去三月一日より第一期豫定なる對天津、對上海の切替工事を完了した。

【交附率引下】記者の調査によれば政府からの料金交附率を現行九割から七割見當に引下げられる。然し勿論業績には障らぬ。

<p>【設立】昭和三年十月</p> <p>【決算期】三月、九月</p> <p>【事業】旅客、貨物、郵便航空輸送</p> <p>【資本金】公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一六〇,〇〇〇</p> <p>【株數】(株) 一〇〇,〇〇〇</p> <p>【重役】社長 原 邦造 常務 戸川 政治 監査 橋本圭三郎 取締役 稻垣勝太郎 米田奈良造 大津嘉太郎 相談 阪谷 芳郎 藤野 武夫 藤田 芳郎</p> <p>【株主數】(株) 一〇,〇〇〇 【大株主】三井物産 三井合名 三井物産 安田保全社 住友合資 住友同族 森村 勇 仁壽生命 大倉 組 仁壽生命 飛行機(株) 飛鳥(株) 飛鳥(株) 定期航空(株) 定期航空(株) 定期航空(株) 格納庫(株) 格納庫(株) 格納庫(株) 東京大連線 東京大連線 東京大連線 大阪上海線 大阪上海線 大阪上海線 東京富山線 東京富山線 東京富山線 江崎、大阪、徳島、高知線 毎日一往復 福岡、北九州線 一週三往復 臺灣島内線 臺灣島内線 臺灣島内線 臺北、花蓮、花蓮、花蓮線 一週三往復 臺北、花蓮、花蓮、花蓮線 一週三往復</p> <p>【事業成績】十年上 十一年上 十二年上 定期航空(千杆) 八六 一〇四 一三六 不定期(千杆) 一六 二二 三三 事業收入(千圓) 七六 一〇二 一三六 【資本異動】十二年三月〇日拂込徴收</p>	<p>【設立】大正十四年十月</p> <p>【決算期】三月、九月</p> <p>【事業】海外諸國との無線電信設備を政府に貸付く</p> <p>【資本金】公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇</p> <p>【株數】(株) 一〇〇,〇〇〇</p> <p>【重役】社長 東郷 安 取締役 横山英太郎 常務 吉野 圭三 取締役 串田 萬藏 取締役 井坂 孝 監査 稻垣勝太郎 小倉 正飯 伊藤 加吉 森 廣藏 門野重九郎 米田奈良吉</p> <p>【株主數】(株) 一〇,〇〇〇 【大株主】大藏大臣 日本生命 三井物産 大阪野村 安田保全社 六三三 住友合資 千代田生命 三〇〇 山内榮次郎 辰馬 貯蓄 三〇〇 山内榮次郎 辰馬 貯蓄 三〇〇 菊池文吾 河野 勲 三〇〇</p> <p>【料金收入】(單位千圓) 十年上 十一年上 十二年上 八年上 一四七 一〇三 一〇三 九年上 一六〇 一〇三 一〇三 十年上 一六〇 一〇三 一〇三 十一年上 一六〇 一〇三 一〇三 十二年上 一六〇 一〇三 一〇三</p> <p>【配當制限】(按率) 配當し得べき利益金(利益金より銷却金法定積立金恩給扶助基金を控除した残り)が對拂込資本一割二分を超過する際は超過額の二分の一を政府に納入する。</p>	<p>【資産負債】九十年 三十一 九十年 三十一 九十年 三十一</p> <p>株主資本 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇</p> <p>外部負債 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇</p> <p>使用總資本 八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇</p> <p>固定資産 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇</p> <p>流動資産 五,〇〇〇 五,〇〇〇 五,〇〇〇</p> <p>現金預金 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇</p> <p>【收支動向】十年上 十一年上 十二年上</p> <p>收入 八六 一〇四 一三六</p> <p>支出 八六 一〇四 一三六</p> <p>利益 〇 〇 〇</p> <p>【株價】(單位) 高値 安値</p> <p>九十年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇</p> <p>十一年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇</p> <p>十二年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇</p> <p>【豫想配當】十二年三月期 五分</p> <p>【時價】三月二十日調 利廻 五分七厘</p> <p>【名義書換】十 續【新券交附】五十續</p>
--	--	---

國際電話株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町大坂ビル二號館 (電話) 三〇〇三

【合併談】當社と日本無電との合併談は案外水引いたが、今議會に於ける日本無線電株式會社法の改正を待つて愈々兩社の交渉に入る。合併條件決定に参加する第三者の撰定は既に終つた由である。前輯にも述べた如く合併の結果、當社の株式配當は一躍七分二厘になるから決して損はしない。

【事業發展】業績は勿論引續いて良い。例の名崎の五十キロの設備は三月一パイに完成するが、これは放送局に海外放送用として貸付け、年二十萬圓宛賃料を受取る事となつてゐる。又シヤムとの通話は二月末に始まり、近くアルゼンチンのブエノスアイレスとの直通も行はれる。

【今期業績】この三月に締切の十一年上期は前期に比し一割の利益増と推定される。推定利益金二十二萬圓で、拂込が殖えてゐるから利益率は、一割二、三分に低減するであらうが、配當を六分に引上げる可能性は濃厚になつた。然したとへ増配は無くとも業績が着々向上してゐる事は認めなければならぬ。合併後の業績にも期待出來やう。

【税制改革】馬場案、結城案が出てゐるが、素々税金の支出が少い當社であるから、勿論大した影響はない。

滿洲電信電話株式會社

(本社) 新京特別市大同大街六〇一 (出張所) 東京市麹町區丸の内(電丸ノ内)三三

【成績】去る十二月末締切の十一年度配當は、三月末の株主總會で六分據置に決定した。當年度の利益金は五百卅二萬四千圓で、利益率は一割六分八厘であつた。前年度より増益に拘らず利益率の低下したのは、拂込徴收の關係による。然し六分持續には餘裕を含みである。當年度は始め一分程度の増配を豫想されたが、主務官廳方面の認可に難色あり、結局六分配當據置となつた譯だ。

【營業】營業状態は電信、電話、放送の三事業とも續いて順調に延びてゐる。但し電話事業以外はまだ赤字を脱しないが、放送事業の収益状態は相當見直さるべき筋合にある。現に聴取者の如きは三月中旬に於て四萬二千人を數へるに至つた。當局者は本年度末十萬人を目標に勧誘に努めてゐる。たゞ當社は各事業に亘つて尙擴張過渡期にあるので、建設費の壓迫があるが、然し營業の順調さに依つて、この時期も無難に過しつゝある。

【擴張費】本十二年度の事業費は約九百萬圓と豫想され、その内八百萬圓を社債、一百万圓を社内保留により賄ふ筈だ。社債は年度中には發行されるだらう。尙今年度は拂込は徴收せぬ方針。

【配當】今年度の配當はまだ豫測を許さぬが、増配力あること十一年度と變らぬ。何れにしろ、當社株は堅實な資産株である。

【設立】昭和七年十二月

【決算期】三月、九月

【事業】外國並對殖民地無線電話設備をなし政府の用に供す

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 3,200,000

【株主】社長 榊山 資英

【役員】常務 香西 俊雄 取締役 中上 豐吉 取締役 島島 廣吉 監査 有田 邦敏 安部房太郎 島村 輔彦 藤谷米太郎 井坂 孝 藤田 十郎 十草上 十草下 藤田 三郎 藤田 三三

【大株主】日本生命 七、四〇〇 三井 合名 四、〇〇〇 三菱 合資 三、〇〇〇 住友 合資 三、〇〇〇 辰野 悅藏 二、〇〇〇 桑山 裕五郎 二、〇〇〇 日本 郵政 二、〇〇〇 千代田 生命 二、〇〇〇

【事業規模】名寄送信所一茨城縣結城郡名寄村 送信機 3KW 二臺、10KW 三臺 所要電力 20KW 小室送信所一埼玉縣北足立郡小室村 送信機 3KW 一臺、10KW 一臺 所要電力 20KW スーパーヘテロダイン式短波受信機 五臺 所要電力 3KW 中樞送信所一臺灣新竹州中樞街後臺 送信機 3KW 一臺、所要電力 20KW 送受信機 二臺、所要電力 20KW 短波受信機 二臺、所要電力 20KW

【事業成績】十一年度 十一年上期 十一年下期 事業收入(千圓) 一、三二〇 一、三二〇 一、三二〇 事業費用(千圓) 一、一五〇 一、一五〇 一、一五〇 資本異動(千圓) 一、一五〇 一、一五〇 一、一五〇

【資産負債】

項目	十一年	十一年	十一年
株主資本	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
外部負債	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
借入金	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
使用總資本	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇
固定資産	三、二〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
流動資産	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
現金預金	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

【收支動向】

項目	十一年	十一年	十一年
收入	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇
支出	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
利益	一、一七〇	一、一七〇	一、一七〇

【株主】

項目	十一年	十一年	十一年
株主数	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
株主名	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【名義書換】十 額【新券交付】五十 額

【設立】昭和八年八月

【決算期】十二月(一年一回)

【事業】有線、無線電信電話、ラジオ

【資本金】公稱 50,000,000 拂込 10,000,000

【株主】

【役員】

【大株主】

【事業規模】

【事業成績】

【資産負債】

項目	十一年	十一年	十一年
株主資本	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
外部負債	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
借入金	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
使用總資本	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
固定資産	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
流動資産	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
現金預金	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

【收支動向】

項目	十一年	十一年	十一年
收入	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
支出	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
利益	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

【株主】

項目	十一年	十一年	十一年
株主数	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
株主名	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇

【名義書換】二十 額【新券交付】五十 額

函館船渠株式會社

(本社) 函館市辨天町八八 (電話 三五三〇)
(出張所) 東京市麹町區丸の内 (電九ノ内 三五五)

【記念配當落つ】當社は昨年上期に於て、普通配當五分のほかに創立四十周年記念として二分の特配をつけた。下期には此の記念配當が普通配當に直ほされ、七分据置きになるものと期待されてゐたが、結果は期待を裏切つて一分減の六分配當となつた。

【業績順調】尤も下期業績から見限り、必らずしも減配を要するものでなく、利益金は却つて殖えてゐる。即ち二期利益金は二十六萬六千圓と上期より一萬三千圓の増益を示し、利益率も從つて八厘を向上して一割六分六厘を數へてゐる。此の成績からすれば、七分配當を据え置いても何等支差のなかつたことは明かだ。

【内容漸次改善】それを一分減配した處に經營當局者の手堅さが窺はれる。が併し、前輯でも述べた様に、當社は地理的に恵まれぬ地方の小船渠會社であつて、他社並みに業界の好影響を受けられることは許されぬ。加之、資産内容も同業會社に比較すると見劣りがする。例へば浦賀船渠の固定資産(土地を含む)が五百五十萬圓に對し、その四分の一の利益しかない當社のそれは四百五十萬圓に上る有様だ。

【増配未だし】だから、今期は更に業績好轉の見込み乍ら、當局者は手堅く配當据え置きの舉に出るだらう。

【設立】	明治二十九年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	造船、船渠修理、橋梁、鐵骨等
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新(株) 1,000 舊(株) 1,000
【重役】	社長 大塚 巖 取締役 柳山 愛輔、伊藤 隆、川田 吉衛、小原 幸一郎、平塚 常太郎
【株主名】	川田 龍吉、川田 吉衛、川田 豊吉、近藤 安吉、川田 豊吉、安田 一、安田 入丸商店、松本 龍一、岡本 貞蔵、小原 幸一郎、下部 久太郎、小原 幸一郎、下部 久太郎
【事業規模】	造船部 能力 長(%) 幅(%) 第一號 1,000 三五 第二號 1,000 三五 第三號 1,000 三五 第四號 1,000 三五
【事業成績】	十年下 十年上 十年下 造船部 1,000 1,000 1,000 浮船渠 1,000 1,000 1,000 船渠 1,000 1,000 1,000 船渠 1,000 1,000 1,000
【資本異動】	九年三月二百万圓増資

【資産負債】	十二月 六月 十二月
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十年下 十年上 十年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十年上 十年下 十年上 十年下
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【株主利益】	高値 安値 高値 安値
九年 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000	
十年 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000	
十一年 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000	
十二年 1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000	
【利息】	三月二十日 四分四厘
時價	新 興 三分九厘
【名義書換】	十 鐵「新券交付」三十條

業事鋼鐵

【様變りの商狀】鐵鋼界は三、四ヶ月の間に全く様變りの強調を呈するやうになつた。世界的の軍擴熱と景氣の上昇とは、常に過剩氣味だつた鐵鋼供給状態を、昨秋以來一變せしめる事になつたのだ。之が外註相場の昂騰となつて現はれ、輸入鉄や屑鐵の如き原料の上騰を醸し出した。國內に於ける軍事豫算は恰もこうした時期にまた、その膨脹の度合を明かにしたのである。九月頃に向ほ八十圓臺を上下してゐた丸鋼ベースもの、市價は九十圓臺に上り、百圓臺を突破し、本年一月には遂に二百圓を突破すると云つた急騰振りである。

【採算頗る有利】鐵鋼各社の成績が頗る好轉を見込まれるに至つたのも當然だ。むろん昂騰の根因が原料高にあるが見れば、値上りした割合に採算の好くなつてゐないことは争はれない。日鐵は尙ほ越四十九圓の据え置きであるが、銑鐵共販の建値は本年一―三月もの五十七圓四―六月もの八十三圓と云ふ急騰を示してゐるし、屑鐵また昨今では、百圓以下では入手し難い。据え置きの日

鐵と雖も、一―三月ものは割増追徴が傳へられてをり、四―六月もの、大中引上げは必至の勢である。けれども輸入鋼材相場の暴騰と入手難とは、内地メーカーの建値をかうした原料高以上に引上げしめるに役立つてゐる。現に八十圓の銑鐵と百圓の屑鐵とを使用するとして、丸鋼ベースもの、原價は百四十圓見當となる。安全を期して百五十圓と見ても、建値百八十圓との間には三十圓の開きがある。その他の鋼材に於ても事情は略々同様で、殆んど差益の出なかつた昨年夏頃から見れば、全く雲泥の差だ。熔鑄爐を持ち、原料の自給を或程度行ひ得る會社にあつては、差益は更に大きい。各社に増配問題の起るのも當然で、低配會社には確にその期待が持てる。

【今後の問題】たゞ注意を要するのは、銑鐵、屑鐵等の供給が思ふ様に運ばぬ點である。この爲め熔鑄爐を持たぬ製鋼會社は、操業がともすれば圓滑を缺き勝ちだ。相場が採算割れを示すまで下るやうなことは當分考へられぬが、多少でも反落が來れば、先づ打撃を蒙るのも矢張り製鋼一本の會社である。無差別的放資は考へもの。

住友金屬工業株式會社

(本社) 大阪市此花區島屋町三七(電土佐通五三)

【倍額増資】去る二月廿六日の臨時株主總會に於て、現在の資本金五千萬圓を倍額の一億圓に増加することに決定した。増資方法は、本年三月三十一日現在の株主に、一對一の割合で新株を割當て、第一回拂込み十二圓半は、来る五月一日に徴收する。

【目的】この増資の目的は、いふまでもなく設備の擴張及び改善資金を調達するにある。擴張の具體的内容については、當局者が言明を避けてゐるので正確には判らぬが、鋼管(尼崎)、製鋼(大阪、櫻島)、伸銅の三工場に亘つて、相當大規模の増設乃至は改善を行ふ模様だ。基礎部門の新設備建設も行はれるやうだ。

【前途願望】増資後の見透しにも素より不安はない。殊に此の三月決算には、増資による資本負擔の増加が全然關係しないし、鋼材市況の強調、これまでの擴張部分の能率向上等が業績に寄與するから、好成績を収め得る見込みだ。尤も本年九月初からは、増税の影響が加はつてくるし、資本負擔の増加も影響してくる。従つて一時利益率はや、低下するかも知れない。しかしながら、設備の擴張、改善は引き續いて行はれてゐるのだから、この運轉によつて儲け補ひがつく譯だ。而も内容の頗る充實してゐる當社のことだ。現行一割配當は依然として安泰である。

【設立】	大正十五年七月
【決算期】	三月、九月
【事業】	伸銅、亞鉛、鋼管、鋳鋼品、鐵鋼品、壓延品、特殊兵器
【資本金】	一億圓
【株主数】	一〇、〇〇〇
【役員】	會長 小倉 正恒 専務 古田 俊之助 取締役 久島 精一 常務 荒木 宏 監査 杉浦 綱三 田中 作二 八代 則彦 木下 亮吉 今村 幸男 山本 信夫 谷林 徳太郎 國府 精一 滝輪 敏雄
【大株主】	住友合資會社 〇〇〇 住友信託會社 〇〇〇 住友五重門 〇〇〇 住友生命 〇〇〇 住友生命 〇〇〇 明治生命 〇〇〇
【事業規模】	大阪此花區島屋町五六一 年産能力 六千五百噸 製鋼所 板製品、管製品、鑄製品 製鋼所 大阪市此花區島屋町二四八 年産能力 六千五百噸 鋼管製造所 尼崎市東向島西之町二九 年産能力 四千噸 製品 熱間冷間仕上鋼管、鋼線、鋼索、鋼索、鋼索、鋼索、鋼索、鋼索
【資本異動】	十年九月百萬圓増資、半額拂込徴收、十二年三月倍額増資、五月第一回拂込二四五徴收の予定

【資産負債】	九十年 三十一月 三十一月
株主資本	一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年上 一、〇〇〇、〇〇〇 十年下 一、〇〇〇、〇〇〇 十一年上 一、〇〇〇、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇、〇〇〇
【業績】	七年十二 〇・〇 八年六 〇・〇 九年三 〇・〇 十年三 〇・〇 十一年上 〇・〇 十一年下 〇・〇
【株價】	高値 安値
【豫想配當】	十二年三月期 七分 【利配】三月二十日 特二分 時價一圓〇 利配三分六厘 【名義書換】十五錢【新券交付】五十錢

小倉製鋼所株式會社

(本社) 小倉市許斐町一番地 (事務所) 東京市麹町區丸の内海上ビル(電丸ノ内 二二)

【増資遂に決行】必至の運命にあつた増資案は、三月廿六日に於ける重役會で、愈々決定を見るに至つた。現在の資本金七百五十萬圓を八百五十萬圓増加して千六百萬圓にするのである。うち二萬株は縁故者に振り向け、残り全部を七月一日現在の株主に對し一對一の比率で割當てる。新株の第一回拂込は十二圓半(總額二百二十二萬五千圓)で、拂込期日は八月十四日である。

【熔鑄爐認可】前輯にも一言した通り、當社は前から三百五十噸熔鑄爐及び之に附隨した五十噸平爐及び豫備熔鑄爐各一基宛の建設方を商工省に申請中であつた。ところがこの認可が漸次愈々下りたのである。敷地は現に準備出來てゐるから、建設費は幾分割安で、大體八百萬圓見當で仕上ると當局者は見てゐる。前記増資々金は之に充當されるのだが、これで大體間に合ふわけである。

【増資後の配當力】熔鑄爐の完成は明年秋で、同年末か明後年初に操業の見込みだ。操業の曉には一貫作業による利益を全面的に受けるが、それまでの過渡期が問題だ。併し現行配當は何とか維持して行くものと思ふ。今期利益は最低百萬圓の豫想で、利益率二割七分以上とならう。此の程度の利益が續けば、増資新株第一回拂込後も二割見當の利益率だから、一割二分を据え置かう。

【設立】	大正七年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	丸鋼、線材、角材、平鋼、鋼索
【資本金】	七百五十萬圓
【株主数】	一、〇〇〇
【役員】	専務 淺野 一郎 取締役 金子 喜代太 常務 淺野 義夫 中村 爲三 取締役 淺野 良三 淺野 八郎 監査 淺野 三郎
【大株主】	淺野 同族 〇・〇 入丸商店 〇・〇 上田 厚吉 〇・〇 日本建設銀行 〇・〇 東京商會 〇・〇 東京製鋼 〇・〇 末業 要 〇・〇 高山商店 〇・〇 第一鐵兵 〇・〇 徳田商會 〇・〇
【事業規模】	工場所在地 小倉市 二五〇噸平爐 一基 三〇〇噸電氣爐 一基 年産能力 一萬噸 鋼塊 一萬噸 鋼材 一萬噸 擴張計畫 一萬噸
【投資會社】	小倉製鋼、尼崎製鋼
【資本異動】	十年三月百萬圓増資の予定

【資産負債】	十一年 五十一月 十一年
株主資本	一、〇〇〇、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇、〇〇〇
使用總資本	二、〇〇〇、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇、〇〇〇
【收支動向】	十年上 一、〇〇〇、〇〇〇 十年下 一、〇〇〇、〇〇〇 十一年上 一、〇〇〇、〇〇〇 十一年下 一、〇〇〇、〇〇〇
【業績】	九年上 〇・〇 九年下 〇・〇 十年上 〇・〇 十年下 〇・〇 十一年上 〇・〇 十一年下 〇・〇
【株價】	高値 安値
【豫想配當】	十二年五月期 一割二分 【利配】三月二十日 四分五厘 時價一圓 利配四分五厘 【名義書換】十錢【新券交付】三十錢